道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！

“全国50選”

よしだやすお

私と道の駅

■道の駅をまわりはじめたきっかけ！

私が道の駅巡りを始めた直接のきっかけは、私の会社時代の先輩の車の後ろに貼ってあった、“北海道道の駅完全制覇” というステッカーを見たことです。
先輩は私より１０歳ほど年長ですが、会社を定年退職後ワゴン車を改造して全国を回っており、毎年４月から９月までの半年で全国を回り、残りの半分は九州の自宅で暮らす生活を何年も続けていました。
その人から道の駅で車中泊しているという話を聞き、スタンプラリーの存在を知り、それなら自分もとりあえず地元である九州から始めてみようと思い立ったのです。

■一つ達成すると欲が出る！

九州のスタンプブックを買って最初に回り始めたのが2006年12月です。
九州は沖縄の他に、五島列島、奄美大島といった離島がある為多少ハードルが高いのですが、それでも１年半で完全制覇を達成しました。
私は九州で生まれ育ち、旅行やドライブが好きなので大抵どこでも行ったつもりだったのですが、道の駅巡りを始めて気づいたことは、知らない土地がいくらでもあったということです。
つまり、観光地などの 「点」 と、そこに至る 「線」 は誰でも行くけれど、道の駅を巡ることによって、地方の隅々まで 「面」 に近く、ほぼくまなく回ることができるということです。
丁度仕事の第一線を退き自由な時間が増えたこともあって、今度は全国をくまなく隅々まで回ってみたい、という願望が芽生えてきたのです。

■私の旅の方法！

現在も仕事は続けていますし、家庭の事情もあって、長く家を空けることはできません。
ですから、１回に５日前後の旅を年間３～４回続けているのが現在のパターンです。
遠方の場合は飛行機で現地に飛んで、レンタカーを借ります。
フェリーで行ける近畿や四国は、一部自分の車を使いました。
直接車で走れるのは、九州内と中国の山口、広島、島根あたりまでです。

よく費用のことを聞かれますが、遠方の場合、JALやANAの航空機、ホテル、レンタカーがパックになったツアーがあり、今までの経験でこれが最も安く行ける方法です。
パックツアーは時期とホテルで値段は大きく異なりますから、最も安い時期で日程を組み、ホテルは寝るだけと割り切って、一番安いビジネスホテルを選びます。
パックを使わないところは、すべてネットで最安の方法を探します。
年間に数多く旅をする為には、１回あたりの費用を如何にして抑えるか、これは常に腐心している事です。

私の場合は車中泊は今ではほとんどやりませんが、人それぞれ、仕事や家庭の事情がありますから、自分にあった旅のスタイルを見つけることが、長く続ける方法かと思います。

この本の内容について

■選定の基準

私が今まで回った１１００か所程の中で、特に絶景として印象に残った道の駅を全国５０カ所に絞って紹介していますが、地域別にはばらつきがあります。
私が訪問する時のお天気は “運しだい” ですから、本来は絶景の道の駅なのだけど、天気などの条件できれいな写真が撮れなかった場合は除かせて頂いています。

従って、選定は筆者個人の主観であって不公平があることをご容赦ください。

■絶景区分と絶景キーワード

道の駅の絶景には次の３つの種類があり、それのどれに該当するかを表示しています。

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある
Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える
Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

私の旅の目的は、“道の駅巡りを通して全国津々浦々を見て回りたい” ということですから、道の駅を拠点に周辺を巡るという意味で “道の駅の近郊” の絶景も加えさせて頂きました。

又、その道の駅の特徴を表わすキーワードも表示しています。

■その道の駅の魅力

その道の駅の魅力を更にご紹介する為、写真と文章でレポートしています。
あくまでも「絶景」がこの本の主題ですので、道の駅の建物や施設については基本的には省略しています。

では、私が選んだ５０か所を、北海道から南下しながらご紹介して参ります。

①ぐるっとパノラマ美幌峠

絶景シリーズ第一号として紹介するのは、北海道の

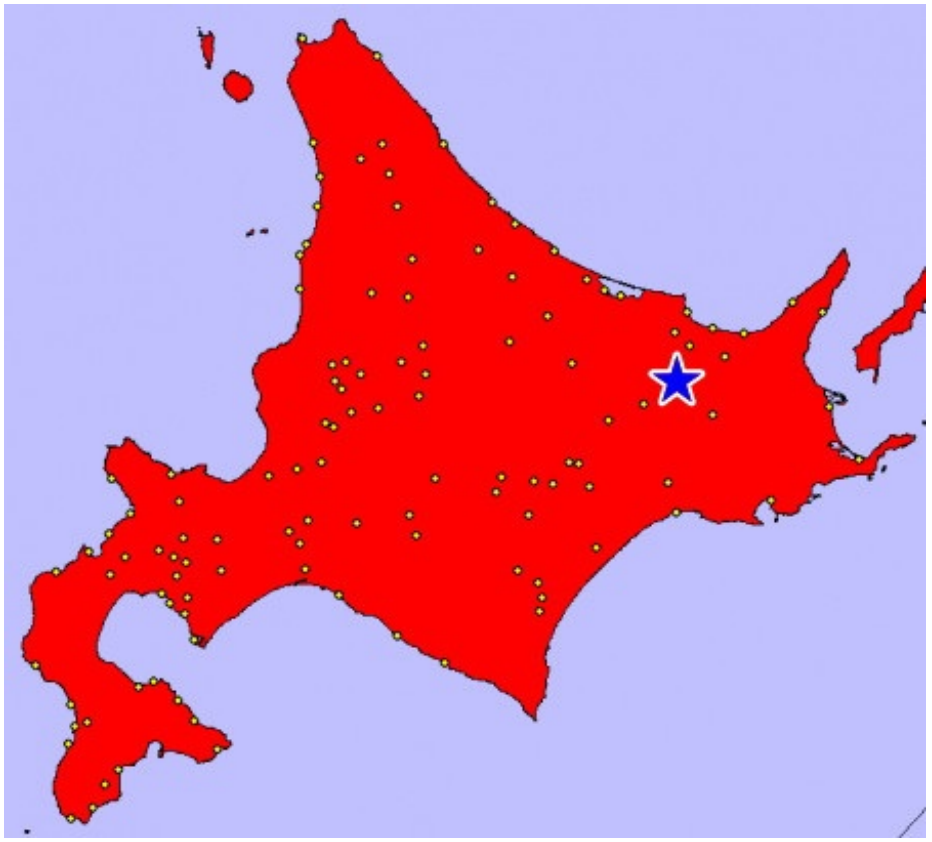
道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠 かふさわしいと思います。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

北海道網走郡美幌町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

屈斜路湖、海抜５２５ｍからの眺望、３６０度の草原、湖、峠

■この道の駅の魅力について

全国の道の駅を回っている、と誰かに話すと、「どこが一番良かったですか？」と必ず聞かれます。

でも、１１００か所を超える道の駅があるのですから、簡単にどこが一番などとは答えられないのです。

しかし「絶景の道の駅は？」という質問なら、最初に頭に浮かぶのはここ“美幌峠”です。

ここは海抜５２５ｍの美幌峠の頂上にあります。
ですから、周りは３６０度の草原に囲まれています。

道の駅の建物は、現代版の “峠の茶屋” という雰囲気です。

私は、２００９年９月と、２０１６年９月の2回ここを訪れていますが、どちらも晴天に恵まれました。
私とは、相性が良いのかもしれません。(^▽^)

道の駅の周囲はご覧のように見渡す限の草原で、それだけでも別世界に来た雰囲気があるので

すが、ここにはもう一つ、とっておきの絶景があります。

それが、日本最大のカルデラ湖である“屈斜路湖（くっしゃろこ）”の眺望です。

屈斜路湖は、カルデラ湖として世界でもインドネシアのトバ湖に次いで２番目の大きさがあります。
真ん中の島は“中島”といい直径が１２ｋｍありますが、自然保護の観点から上陸は禁止されています。

美幌峠から見下ろす屈斜路湖は、ご覧のように素晴らしいロケーションですが、実は条件が整えば更に神秘的な絶景に遭遇することがあります。

それが、朝夕の寒暖差の大きい早朝で、屈斜路湖に雲海がかかり、そこから朝日が昇るのです。この雲海からの朝日を写真に撮りたくて、近くに宿泊して日の出前に上ってきたことがあります。

残念ながらその時は美幌峠自体が雲の中に沈んでいて、雲海どころか回りが何にも見えませんでした。

ここから車で２０分ほどのところに、標高９４７ｍの “津別峠” というのがあり、そちらの方が雲海の見える確率は高くなりますが、丁度台風の被害で通行止めになっていたのです。

美幌峠の道の駅は何度でも行ってみたい場所です。
いつかは雲海の写真へも再チャレンジしたいと思っています。

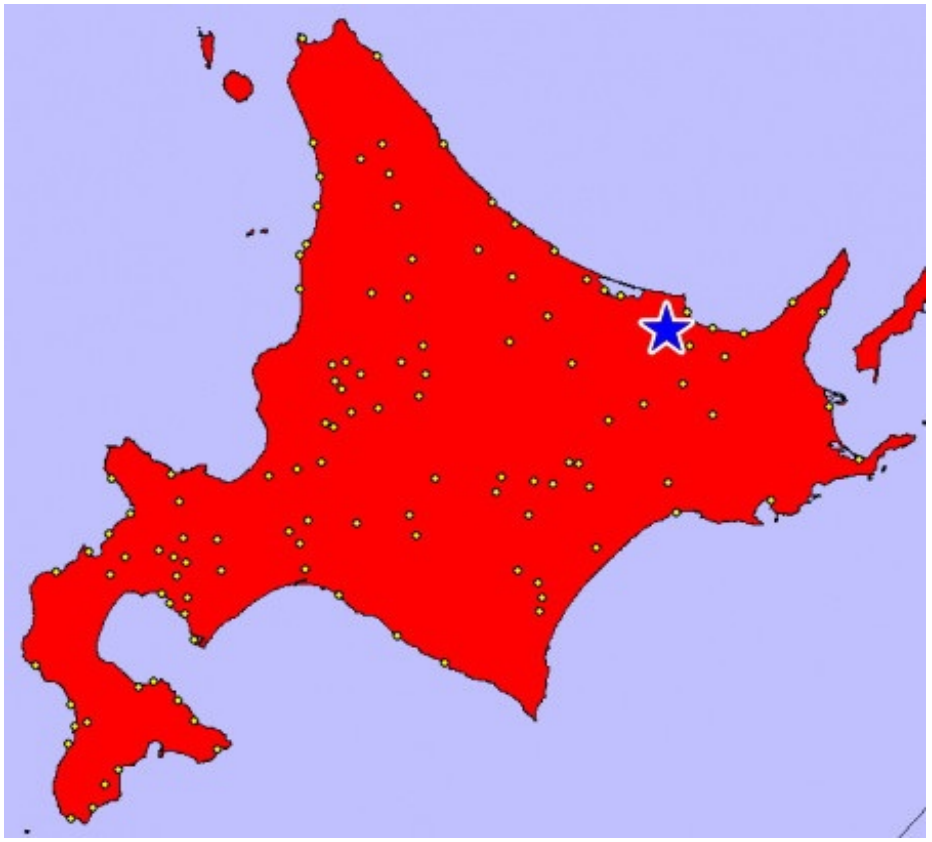
②メルヘンの丘めまんべつ

絶景道の駅の2カ所目は、前回の美幌峠から４５分ほどの距離にある

道の駅メルヘンの丘めまんべつ　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

北海道網走郡大空町女満別



■絶景区分

　　Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

☆Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

　　Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　メルヘンの丘、丘陵地、空、田園風景、７本のカラマツの樹

■この道の駅の魅力について

“メルヘンの丘”という名前の通り、この道の駅の建物もメルヘン調です。

道の駅の周辺、特にこの裏手には広大な畑が広がってとても美しいのですが、ここで「絶景」として紹介したいのは、道の駅から少し歩いた場所にあります。

道の駅にこんな看板が設置されています。
“ビューポイント「メルヘンの丘」”というのが、ここから歩いて５分ほどのところにあるのです。

私は道の駅に車を停めて歩きましたが、このビューポイントのすぐ前の道路に、１０台ほどは停められるスペースがあります。
でも、土日なら道の駅に停めて歩いた方が無難だと思います。

田園風景の奥、右手の７本のカラマツの樹がランドマークで、プロ、アマを問わず多くの写真家や写真愛好家が集まってくるビューポイントです。

緩やかな丘陵地と７本のカラマツ、そして遠くに見える防風林が、いかにも北海道らしさです。

カラマツの先には、“網走湖” があります。
手前の大規模な畑には、季節ごとにジャガイモ、小麦、豆、ビートといった作物が植えられます。

春は緑の草原、夏は白いジャガイモの花、秋は黄金色の小麦、冬は一面の雪化粧といった具合に丘は季節ごとの様々な表情を見せてくれます。

ここは、１９９０年に黒澤明監督の『夢』という映画の撮影地となり、それ以降、特にビューポイントとして知られるようになりました。

私はありふれた１種類の写真しかありませんが、季節や時間、その日のお天気によって空の色、畑の色、雲の姿が変わり、様々な写真が撮れます。
いわば、このロケーションは大きな“キャンバス”であって、これに季節やお天気の条件でいろんな絶景が描かれる、ともいえると思います。

特に夕焼けで真っ赤に染まった空の写真は圧巻です。
いつかもう一度行って、そんな写真を撮りたいと思っています。

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

この道の駅へは、２０１８年９月にもう一度行きました。その時の写真を何枚か追加しておきます。

③おだいどう

次は道の駅から少し移動して絶景に出会います。

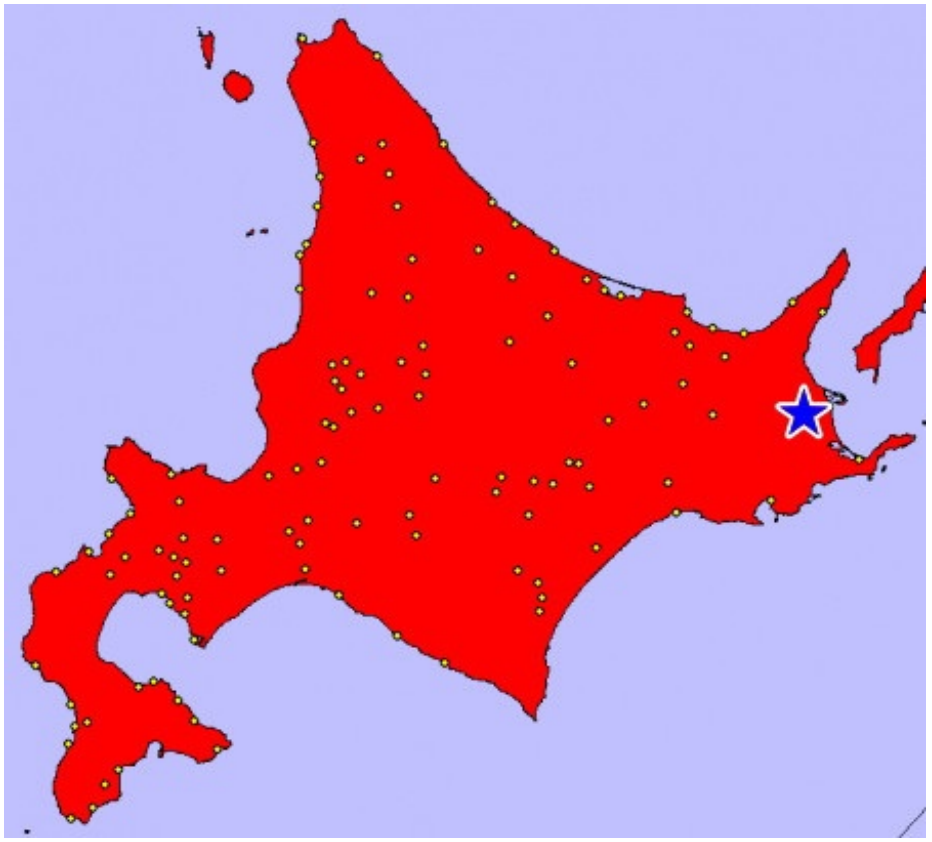
道の駅おだいどう　が、その出発点です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

北海道野付郡別海町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　北方領土、四角い太陽、野付半島、トドワラ原野

■この道の駅の魅力について

道の駅おだいどうは、地図でもお分かりのように知床半島と根室半島の中間地点にあり、北方領土の国後島に対峙した位置にあります。

道の駅自体はご覧のように小さくてこじんまりしていますが、「別海北方展望塔」と書かれているのがお分かりでしょうか？

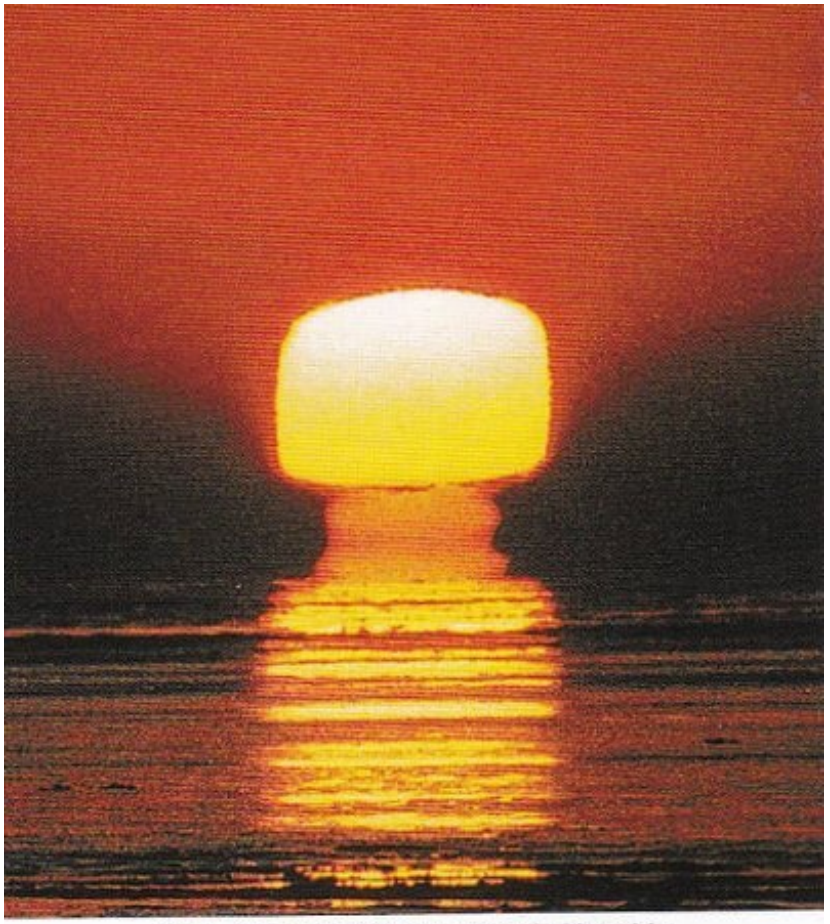
ここは北方領土をテーマとした道の駅で、別海町は北方四島に現在暮らすロシア人たちとの〝ビザなし交流”の拠点として、お互いに行き来しながら民間の交流を深めています。

ですから、こんなモニュメントもあります。

これは “叫び” と題されていて、老女が息子と孫を両脇に従えて、「島を返せ！」 とすさまじい迫力で叫んでいる姿を現しています。

ところで、この道の駅のある場所を “白鳥台” と呼び、冬から春にかけて数百羽の白鳥が飛来します。

そしてこの白鳥台は、あることで、多くのカメラマンが集まってくる場所でもあります。
それが、“四角い太陽” です。



厳しい寒さが造りだす自然の妙
（野付湾に浮かぶ四角い太陽）

これは、道の駅のパンフレットに掲載された写真をお借りしたものです。
気温が急激に下がる厳冬期に主に見られますが、空気の温度差で光が屈折しておこる、蜃気楼の一種なのだそうです。

四角い太陽が鑑賞できるフォトスポットは何カ所かありますが、その一つがこの白鳥台で、条件の整った冬場の早朝には、プロ、アマを問わず多くのカメラマンが集まってきます。

ところで、先ほどこの道の駅は北方領土をテーマにしているとお話ししましたが、ここから直接北方領土の島は見えません。

この写真の先に、野付湾を隔てて島影が見えるのですが、それは “野付半島” です。
位置関係を地図で確認してみましょう。

道の駅おだいどうから野付湾を隔てて野付半島があり、その先に国後島があるのがお分かりでしょう。
では次に、その野付半島に行ってみましょう。

野付半島はご覧の通り不思議な形をしていますが、これを“砂嘴（さし）”といいます。

嘴（くちばし）のように見えることからこの名前がついていますが、沿岸流により運ばれてきた漂砂が堆積して形成されており、それは今なお拡大し続けています。

道の駅からは３０分もかからない距離ですが、途中半島の幅がわずか５０ｍと細長く伸びた場所を走りますから、左右とも海で、まるで海中を走っているような不思議な感覚を覚えます。

野付半島は先端までは車で行けません。
途中に“ネイチャーセンター”という施設があり、ほとんどの方はそこに車を停めて、“トドワラ原野”を目指して歩きます。

小さく見えているのがネイチャーセンターの建物ですが、その横に “津波の避難所兼展望所” があり、そこからは北方領土の “国後島” がごく間近に見えます。

これが国後島の全景です。
ここからの距離は１６ｋｍです。

これは１００ミリ程度の中望遠で写していますが、望遠を使うと岩肌までがはっきり見えます。

さて、目的の絶景である “トドワラ原野” へ向かいましょう。

最初はこのような細い道を、１．３ｋｍほど進みます。
するとトドワラ原野の看板とちょっとした広場があり、その先は湿地帯なので “木道” が作られていて、それを更に３００ｍほど歩きます。

別海十景
トドワラ
野付風蓮道立自然公園

この先の方で三叉路のように分かれていますが、右に進むとトドワラの展望台、左に海の上を進むと、桟橋に出て、船で対岸に渡ることができます。

ネイチャーセンターからほぼ３０分程度でこの展望台に到着します。

“砂嘴” の地形は堆積と浸食を繰り返して形成されましたが、浸食は主に内海側で起こります。
かつて豊かなトドマツ林を形成していた土地が海水に浸食され、立ち枯れてしまったのがこの光景です。

これらは樹齢が９０年から１２０年のトドマツであり、浸食は今も進んでいるのでやがてこの光景もなくなり、塩湿地植物群落に置き換わってゆくだろうといわれています。

ところで、この野付湾は水深が浅く、厳冬期には海自体が凍り付き、海面を歩くことができます。
そうすると何が起きるかというと、一面真っ白で遠近感がなくなります。

南米ボリビアの 〝ウユニ塩湖” が有名ですが、いわゆるトリック写真が撮れるのです。

厳冬期にこの地に来ることは九州に住む私にはなかなか難しいですが、四角い太陽、それに一面真っ白な野付湾といった、非日常的なものにいつかは出会ってみたい気がします。

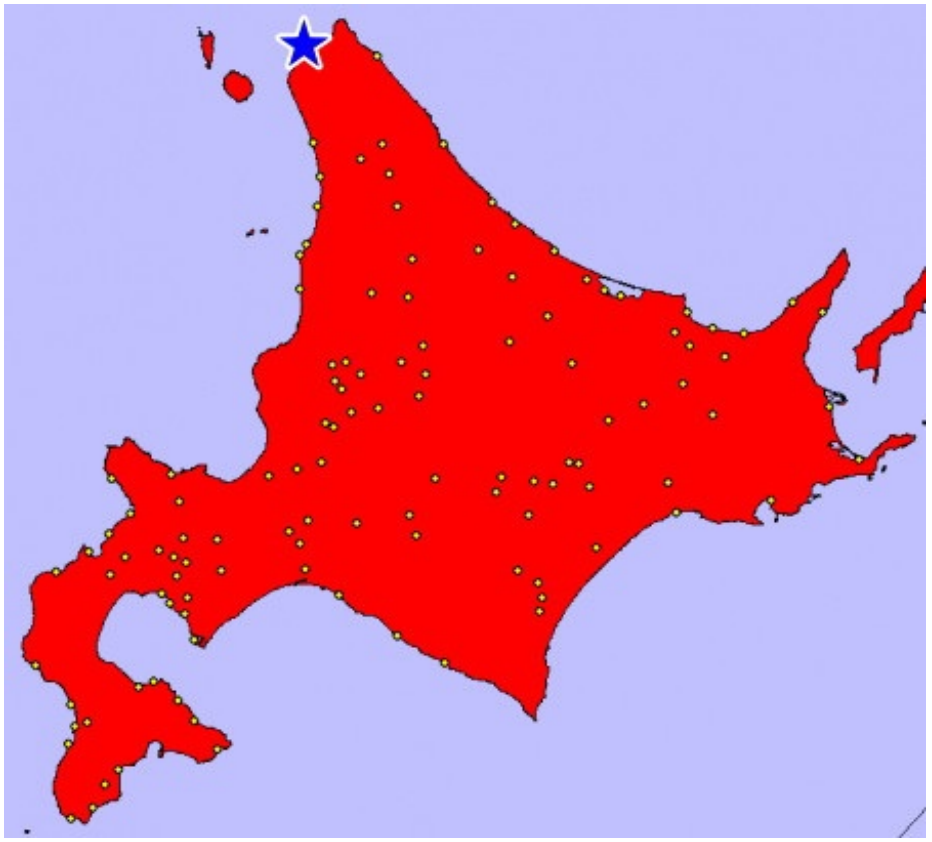
④わっかない

次にご紹介するのは、日本最北端の道の駅である

道の駅わっかない　です。

■所在地＆ＭＡＰ

北海道稚内市開運



■絶景区分

　　Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

☆Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　稚内港北防波堤ドーム、サロベツ原野、利尻富士

■この道の駅の魅力について

この道の駅を 「絶景道の駅」 に選んだ理由は、ここへ行く途中に通る “サロベツ原野” が、他の地域では見られない、いかにも北海道らしい醍醐味を味わえるからです。

その前にまずは道の駅とその周辺をご覧いただきましょう。

ここは全国でも珍しく、“ＪＲ稚内駅”と一体化した道の駅です。
鉄道駅に隣接、という道の駅は他にも多いですが、一体化しているのはここだけだと思います。

ここが道の駅として日本の最北端と言いましたが、ＪＲ駅としても最北端です。

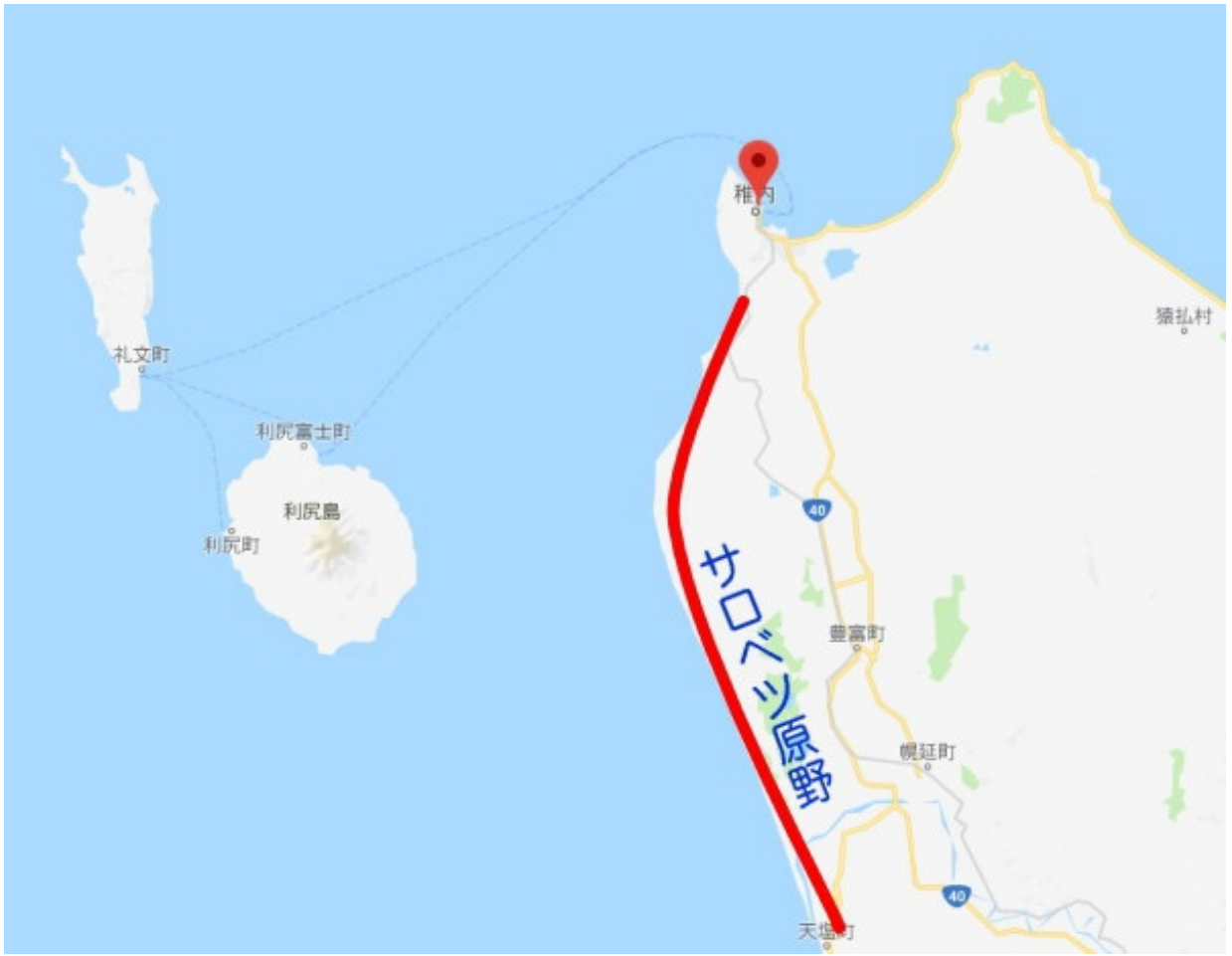
ご覧のように “最北端の線路” という表示があります。
ちなみに最南端は、ここにも書いてあるように鹿児島県の “西大山駅” です。

この駅は稚内港にも隣接しているので、広い公園などもあり、歩いて珍しいものを見て回れます。
その一つが、“稚内港北防波堤ドーム” で、道の駅から歩いて数分の距離です。

これは１９３６年に波よけとして作られた防波堤ですが、世界でも類を見ない建造物で “北海道遺産” に登録されています。
高さが１３．６ｍ、全長４２７ｍで、７０本の円柱で支えられた半アーチ形ドームです。

この付近には他にもノシャップ岬や稚内公園、氷雪の門などの観光スポットも多いのですが、私

が一番紹介したいのはやはり、稚内に至るルートにある、“サロベツ原野” です。



“サロベツ原野” というのはこの地図で表したように、稚内から天塩町を結ぶ “道道１０６号” のルートのことで、距離は６０ｋｍ以上あります。

このルート、見渡す限りの原野の中を、ほぼ一直線にひた走ります。
そこには信号や標識もほとんどなく、人家などの建物もめったにありません。

走る車自体が少なく、たまに対向車があっても、果てしない直線道路ですから最初に見えてから実際に離合するまで随分時間がかかるのです。

そして私の時は、道路をゆっくり横断する鹿にも遭遇しました。

先ほどの地図でお分かりのように、このサロベツ原野からは海を隔てて“利尻島”があります。
利尻島には日本百名山の一つであり“利尻富士”と呼ばれる標高１７２１ｍの利尻岳があります。

私はこのサロベツ原野を過去２回走りましたが、１回目は夕方だったのでご覧のようにシルエットがうっすらと見える程度でした。

２回目は朝方だったので期待したのですが、小雨交じりのお天気で影も形もありませんでした。
もし晴れた日であれば、このような景色になります。

（利尻礼文サロベツ国立公園パンフレットより画像借用）

利尻富士は見えませんでしたが、手前の原野は正にこのような景色で、走っている道の両側に “エゾカンゾウ（ニッコウキスゲ）” を始めとする様々な花が咲き乱れます。

このルート上で、大きな駐車場は私の知る範囲で３カ所しかありません。
その一つ、稚内に近い “浜勇知園地” に立ち寄りました。

ここには、“こうほねの家” という休憩所があります。

ここで私が出会って感動したのが、沼の中に咲くこちらの花です。

この花の正式な名称は “ネムロコウホネ” というスイレン科の花で、タンポポより小さな、黄色い花を咲かせます。
コウホネは “河骨” と書き、この場所の “こうほねの家” の名前の由来でもあります。

サロベツ原野は元々湿地帯ですから、この浜勇知園地には沼を一周するように木道が作られて

いて、様々な野花が可憐に花を咲かせています。

ここは正に、“原野”という名前に相応しい、はるか昔からの大自然が北海道ならではのスケールで現代に残っている、貴重なロケーションだと思います。

⑤びえい「丘のくら」

北海道を代表する観光スポット “美瑛” の中心部に

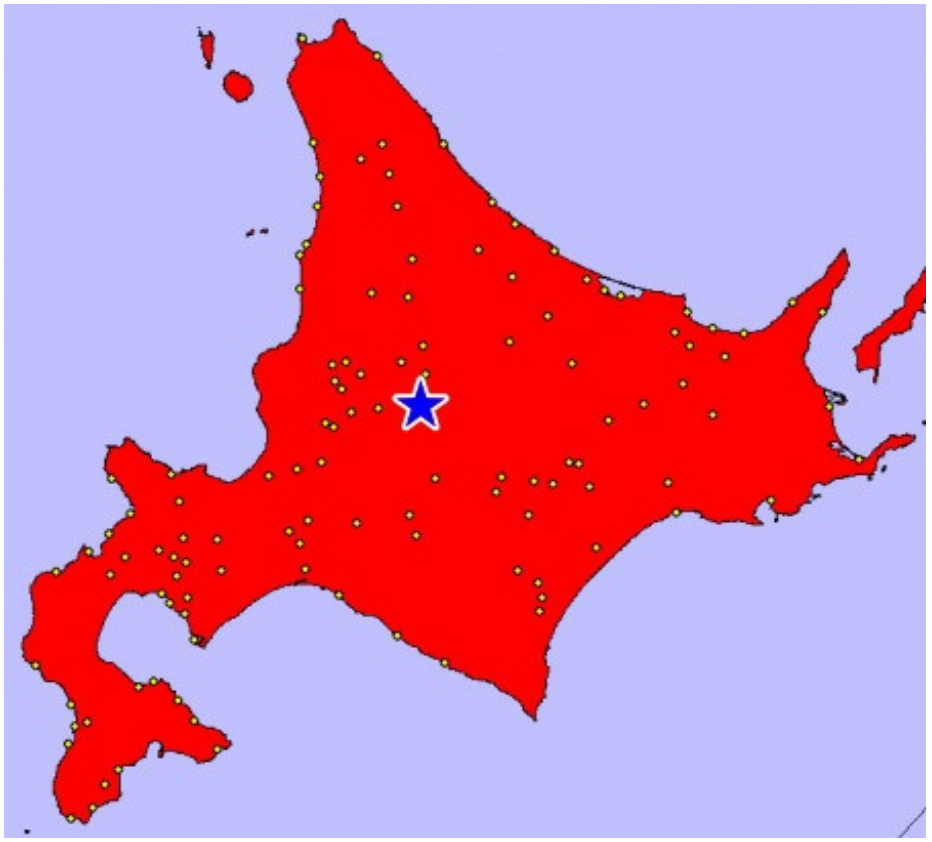
道の駅びえい「丘のくら」　があります。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

北海道上川郡美瑛町



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

美瑛の丘、パッチワークの路、パノラマロード、白金青い池、十勝岳

■この道の駅の魅力について

この道の駅は、ＪＲ美瑛駅に隣接した場所にあり、まさに美瑛観光の玄関口と言えます。
建物は大正時代初期に建設された石造りの倉庫を改装したもので、これが「丘のくら」という名前の由来です。

外見は石造りで昔のままの姿ですが、内装は美瑛産カラマツがふんだんに使って温かみがあり、設備なども近代的です。

隣接する建物にある“美瑛町観光協会”では、美瑛の見どころの紹介はもちろん、レンタサイクルの貸出も行っていますから、皆さんこの場所を拠点に美瑛観光に出発します。

ここを「絶景道の駅」に選んだ理由は、もちろん周辺の観光スポットの素晴らしさです。
私が行った場所だけになりますが、順に紹介して参ります。

■ぜるぶの丘　（道の駅から２ｋｍ　車で３分）

旭川から美瑛を目指す時の国道２３７号沿いにあり、目立つ場所にあります。
カートに乗ったり、自分で四輪バギーを運転して専用のコースを回ることもできます。

有名な“ケンとメリーの木”は、ぜるぶの丘のすぐ裏手にあります。

■北西の丘展望公園　（道の駅から2ｋｍ　車で４分）

この付近を“パッチワークの路エリア”と呼びます。
北西の丘は、ピラミッド型の展望台がシンボルで、そこからは３６０度周囲が見渡せます。

この公園は全部で５ｈａの広さがあり、ラベンダー、ひまわり、ポピー、コスモス、サルビアなど季節ごとの花々が咲き、駐車場付近にはお土産やさんや軽食コーナーがあります。

私はここでソフトクリームを味わいました。

■マイルドセブンの丘　（道の駅より５ｋｍ　車で８分）

専用の駐車場はなく、少し分かり難い場所にあります。

雪景色のこの場所が紙巻きたばこ「マイルドセブン」のプロモーションに採用されたことから有名になり、たくさんの観光客が集まるスポットになりました。

■三愛の丘展望公園　（道の駅から５ｋｍ　車で８分）

ここは国道２３７号の東側になり、“パノラマロードエリア”と呼ばれます。

１０台ほどの駐車場と三角屋根のトイレの建物、それに小さな公園があるだけです。
周辺の景色はいかにも美瑛らしいロケーションで、特に朝日が美しいといわれます。

■新栄の丘展望公園　（道の駅から４ｋｍ　車で６分）

ここも“パノラマロードエリア”ですが、先ほどの三愛の丘に較べるとかなり大きな展望公園です。
三愛の丘が半分の方向しか開けてなかったのに比べ、ここは周囲３６０度が見渡せます。

大型バスの駐車場も１０台分あり、公園らしく整備されています。

■四季彩の丘　（道の駅から８ｋｍ　車で１２分）

美瑛の丘の中で、最もメジャーな観光スポットだと思います。
広さが東京ドーム３個分もあり、年間３０種類の花々がじゅうたんを敷き詰めたように咲き誇ります。

トラクターで引っ張る“ノロッコ号”や、四輪バギー、カートなどで回ることもできます。

アルパカ牧場も新しく誕生していました。

■白金青い池　（道の駅から１７ｋｍ　車で２２分）

道の駅から若干距離がありますが、美瑛に来られたなら是非見て頂きたいスポットです。

ここは火山泥流災害を防ぐための人工池なのですが、水中に「コロイド粒子」というのが含まれ、それに太陽光が当たると波長の短い青い光が散乱するために青く見えます。

池の中にはカラマツや白樺の樹が立ち枯れて、幻想的な雰囲気を生み出しています。

■白ひげの滝　（道の駅から２０ｋｍ　車で２６分）

青い池から２．５ｋｍほど離れた“白金温泉”付近にあり、この滝に含まれるアルミニウム成分が美瑛川の河川水と混じることでコロイド粒子が生成され、青い池が青く光る原因を作っています。

■十勝岳望岳台　（道の駅から２５ｋｍ　車で３２分）

十勝岳の中腹、標高９３０ｍの高台にあります。
駐車場から少し歩いて、ご覧のように十勝岳の噴煙がすぐ目の前に見えます。

以上、道の駅から少し離れた場所も含めて紹介しましたが、美瑛周辺はビュースポットの宝庫です。
時間の許す限り、北海道ならではの絶景を楽しんで頂きたいと思って紹介をしました。

⑥南ふらの

美瑛から１時間半ほど南下すると

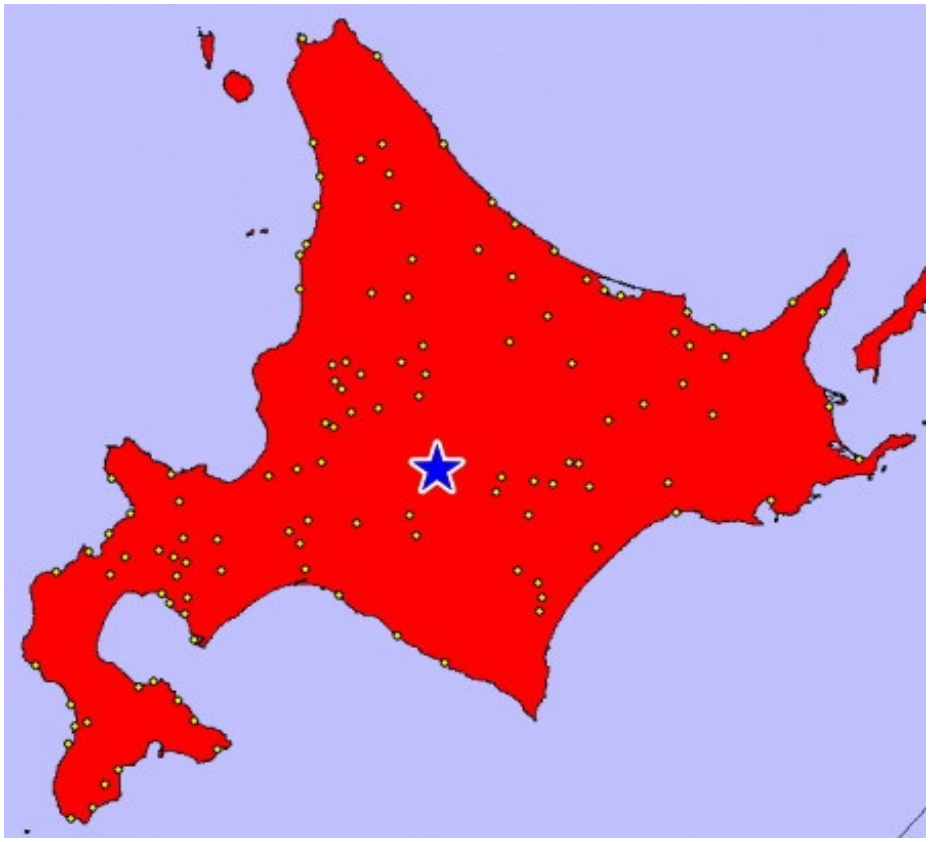
道の駅南ふらの　があります。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

北海道空知郡南富良野町



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

かなやま湖、湖畔キャンプ場、空知川、カヌー

■この道の駅の魅力について

道の駅のこのユニークな外観は、カヌーの舳先（へさき）をイメージしています。
これは周辺の空知川やかなやま湖でのカヌーが盛んなためです。

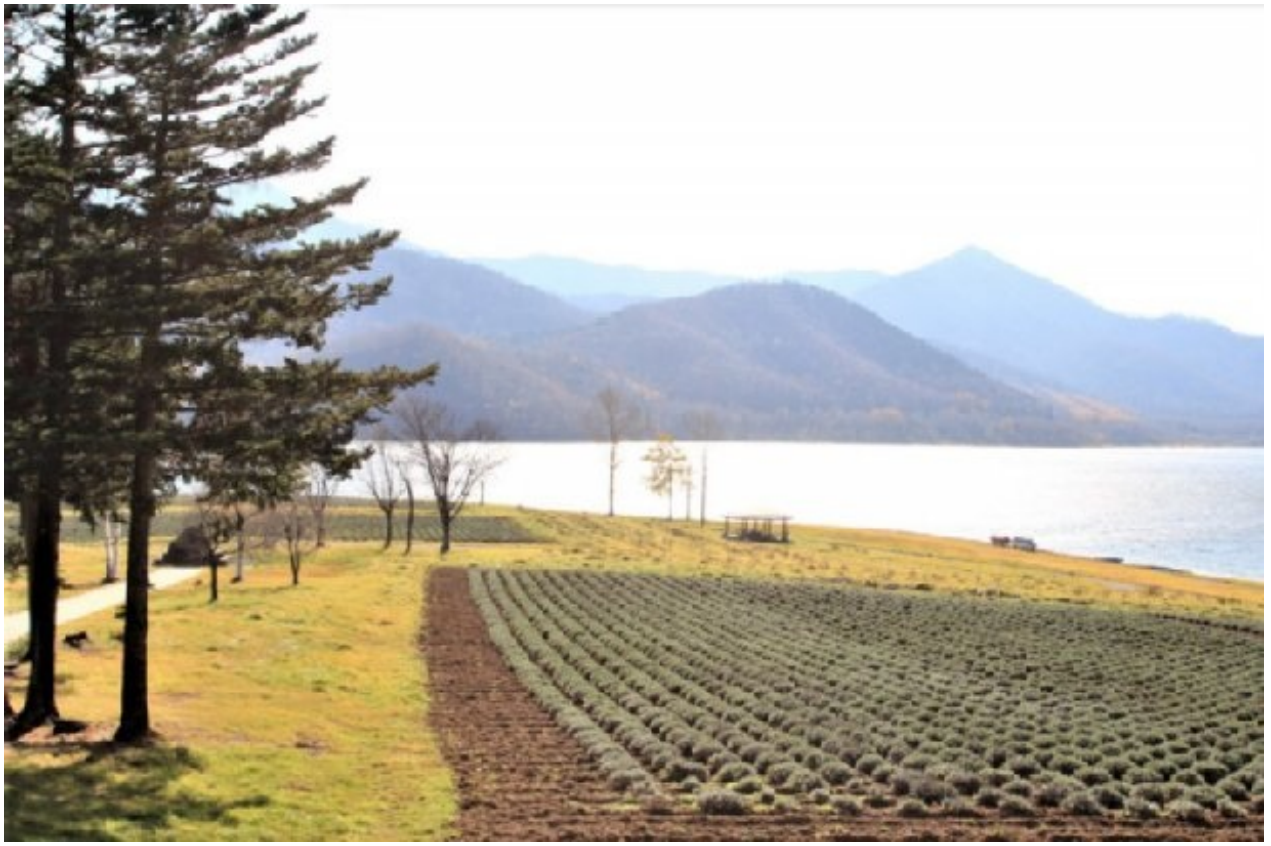
道の駅の建物自体もひとつの 「絶景」 と言えますが、裏手にはラベンダー畑があり、田園風景や山並みなど恵まれたロケーションの中に建っています。

でも、ここを絶景道の駅に選んだ理由は、すぐ近くにある “かなやま湖” の景観です。

ご覧のように、道の駅からほんの数分のところに “かなやま湖” はあります。

ここは空知川最上流部にある “金山ダム” のダム湖です。
湖畔には、５００張以上のテントが設営できる、道内屈指のキャンプ場があり、他にオートキャンプのサイトやバンガロー、ホテル、テニスコートなどアウトドアのレジャー基地として整備されています。

今回は、そのかなやま湖周辺で出会った絶景をご紹介します。



ここにある畑は “ラベンダー畑” なのですが、私が行ったのは１０月でしたから、残念ながらお花の時期ではありませんでした。

逆に、周辺の樹々は紅葉で赤く染まっていました。

かなやま湖ではカヌーが盛んと先ほど書きましたが、カヌーに限らず色んな船舶を牽引してきている車の姿も見えます。

今回はかなやま湖畔の１カ所の写真しか紹介できませんが、車窓からは絶景の連続でした。

道の駅南ふらのも私の好きな道の駅のひとつで、道の駅の中の巨大な水槽には、かなやま湖に棲息する幻の淡水魚“イトウ”が悠々と泳いでいます。

ここも２回来ていますが、次は花の咲く季節にもう一度立ち寄りたいと思います。

⑦サラブレッドロード新冠＆みついし

今回は、

道の駅サラブレッドロード新冠　と

道の駅みついし　という２カ所を一緒に紹介したいと思います。

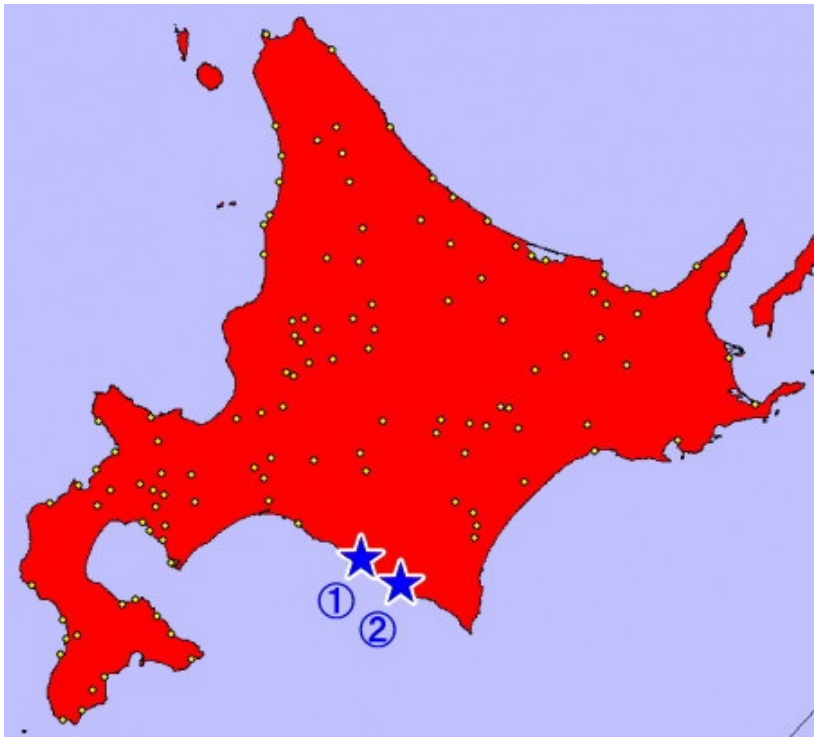
道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

①サラブレッドロード新冠：北海道新冠郡新冠町

②みついし：北海道日高郡新ひだか町三石



■絶景区分

　　Ａ：道の駅自体が絶景の中にある
☆Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える
☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　サラブレッドロード、サラブレッド牧場、競走馬のふるさと、日高路

■この道の駅の魅力について

苫小牧付近から襟裳岬に向って太平洋沿岸をほぼまっすぐに走る国道２３５号のことを“日高路”といいますが、ここは別名“サラブレッドロード”とも呼ばれます。

このルート上には全国のサラブレッド牧場の約７割が集中しており、日本の競走馬の約８割がここ日高地方で生産されているといわれています。

ですから、この日高路を襟裳岬方面に向かって走ると、右手には太平洋の大海原、左手には牧場で悠々と駆け回る馬たち、その背後には日高山脈の山並みと、雄大なロケーションを満喫できます。

北海道には美しいドライブコースが数多くありますが、この日高路も私が好きなルートのひとつです。

サラブレッドロードで最初に立ち寄るのが、この “道の駅サラブレッドロード新冠” です。

入口には、“昭和の怪物” と呼ばれ、日本競馬界に一大旋風を巻き起こした “ハイセイコー” の精悍な姿の像が建っています。

更にここには、この町で育ち、日本競馬会で活躍した競走馬が、ご覧のように一頭づつ写真と受賞した賞の記録と共に蹄鉄型の碑に収められています。

ただ、この道の駅自体が絶景とは言えないので、次の “道の駅みついし” に向かいます。
ここからは３３ｋｍ離れており、約４０分ほどの距離です。

これが道の駅みついしの、メインの建物です。

ここはサラブレッドロード新冠のような派手さはありませんが、裏手に “三石海浜公園” があり、海水浴場、オートキャンプ場、バンガロー、ロッジなどマリンレジャーの基地になっています。

道の駅は、その管理をするセンターハウスを兼ねており、別途 “みついし昆布温泉” という日帰り温泉施設も併設されています。

この写真は海とは逆の方角ですが、遠くに日高山脈の山並みがあり、その手前は牧場です。

今回２つの道の駅を 「絶景道の駅」 に選んだ理由は、日高路の雄大なロケーションがその一つですが、残念ながらこれは走りながらなので良く撮れた写真がありません。
もう一つが “サラブレッド牧場” で、これは道の駅みついしの道路を挟んだ目の前にありました。

この白い馬、やけに人に慣れているのか、私たちのすぐそばまで近づいてきました。
競馬などにはそれほど関心のなかった私でも、親しみを覚えました。

このあと私たちは内陸部に入り十勝を目指しましたが、その間ずっと馬牧場は続きました。
サラブレッドロードは、北海道の中でも特異な景観を味わえるお勧めのルートだと思います。

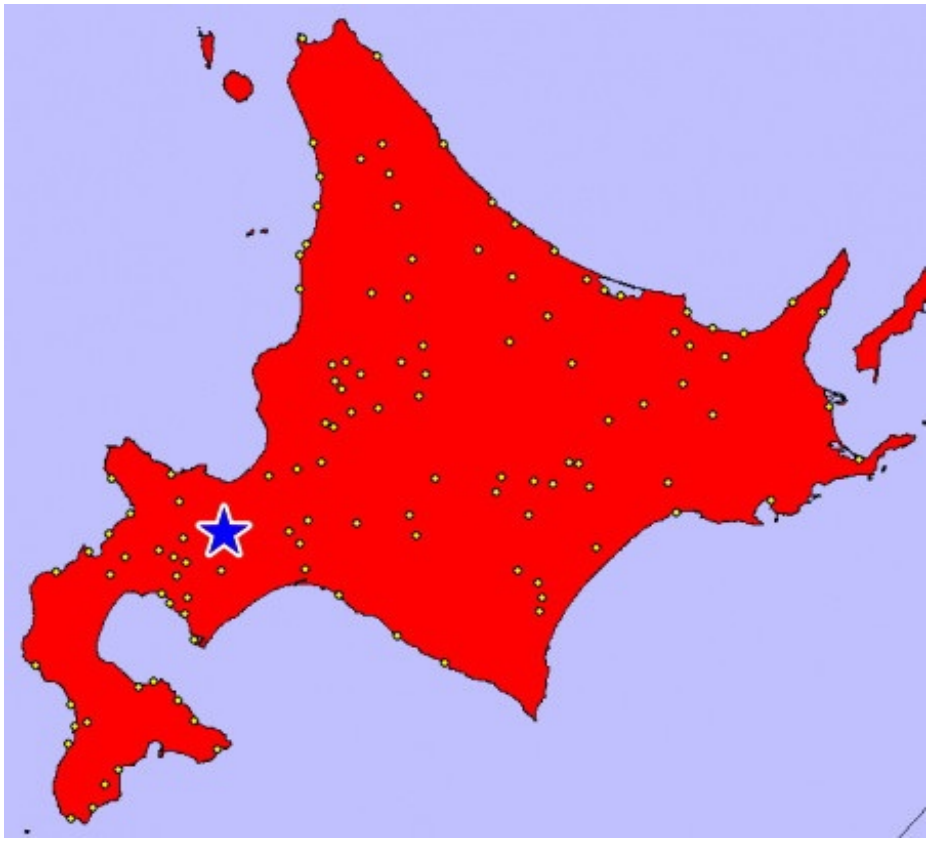
⑧望羊中山

次は “羊蹄山” を望む絶好のビューポイントである

道の駅望羊中山　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

北海道虻田郡喜茂別町（中山峠）



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

中山峠、羊蹄山、蝦夷富士、夕陽

■この道の駅の魅力について

ここは札幌と洞爺湖方面を結ぶ幹線道路（国道２３０号）の “中山峠” にあり、標高は８３５ｍです。
道内リゾート会社最大手の “加森観光” が運営し、年間の来場者は４００万人という、桁違いのスケールを誇る道の駅です。

この道の駅で最も有名なのが、名物である “あげいも” です。

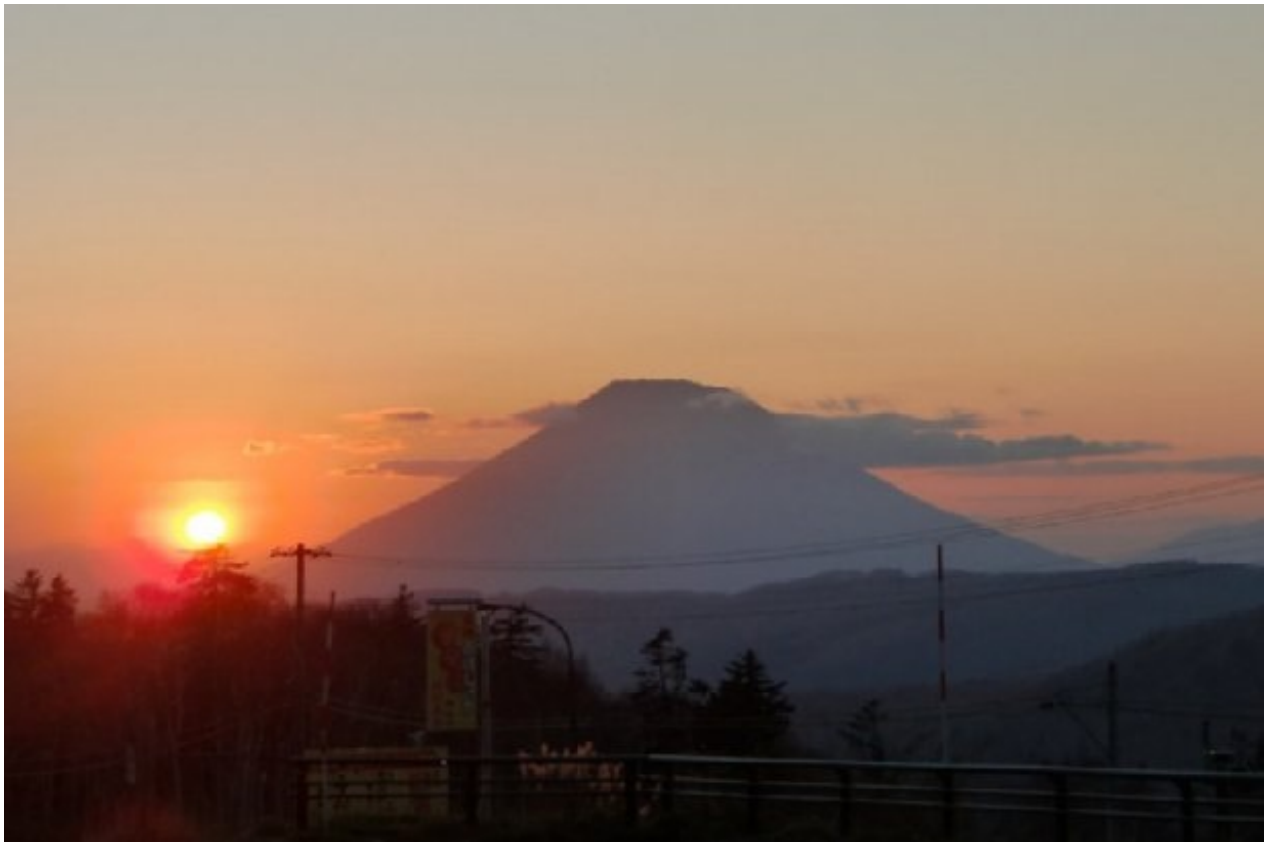
このあげいもを、私も立ち寄るたびに食べますが、確かに美味しいです。
これが年間４０万本も売れています。

この店舗には、“元祖　峠のあげいも” の文字があります。
でも、このシリーズの最初に紹介した “道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠” でも “元祖！あげいも” の表示がありましたから、どちらが正統なのか定かではありません。(^_^;)

この道の駅を 「絶景」 に選んだのは、真正面に “羊蹄山” を望めるからです。
羊蹄山は “蝦夷富士” とも呼ばれ、標高が１９８９ｍで 「日本百名山」 に選ばれています。

私が訪問したこの時間、丁度タイミングよく羊蹄山に日が沈むところに遭遇しました。

ちょうど停めてあったハーレーらしきバイクがシルエットになって、夕陽に染まる羊蹄山の姿を引き立ててくれました。



この中山峠からの羊蹄山ですが、後日昼間の写真を撮ることができたので、これも掲載しておきます。

昼間の羊蹄山もなかなか美しいですね！

この付近の道の駅を旅すると、いろんな方向からの羊蹄山に出会います。
折角なので、他の道の駅からみた羊蹄山をあと２か所紹介しておきましょう。

これは “道の駅ニセコビュープラザ” からの羊蹄山です。

その名の通り、北海道を代表するリゾートである “ニセコ町” の玄関口にあります。
ここも魅力的な道の駅のひとつです。

こちらは “道の駅真狩フラワーセンター” からの羊蹄山です。

ここは羊蹄山の真南に位置し、遮るものが無いので羊蹄山の全体を最も間近に感じることができます。
この道の駅は、歌手細川たかしの出身地で、それを紹介する専用のコーナーがあります。

蝦夷富士の名前の通り、きれいな円錐型の羊蹄山ですが、普段雲がかかっていることが多く、なかなか全身を見せてくれません。
今回の３か所は、運良く撮れた雲の無い羊蹄山の絶景といえます。

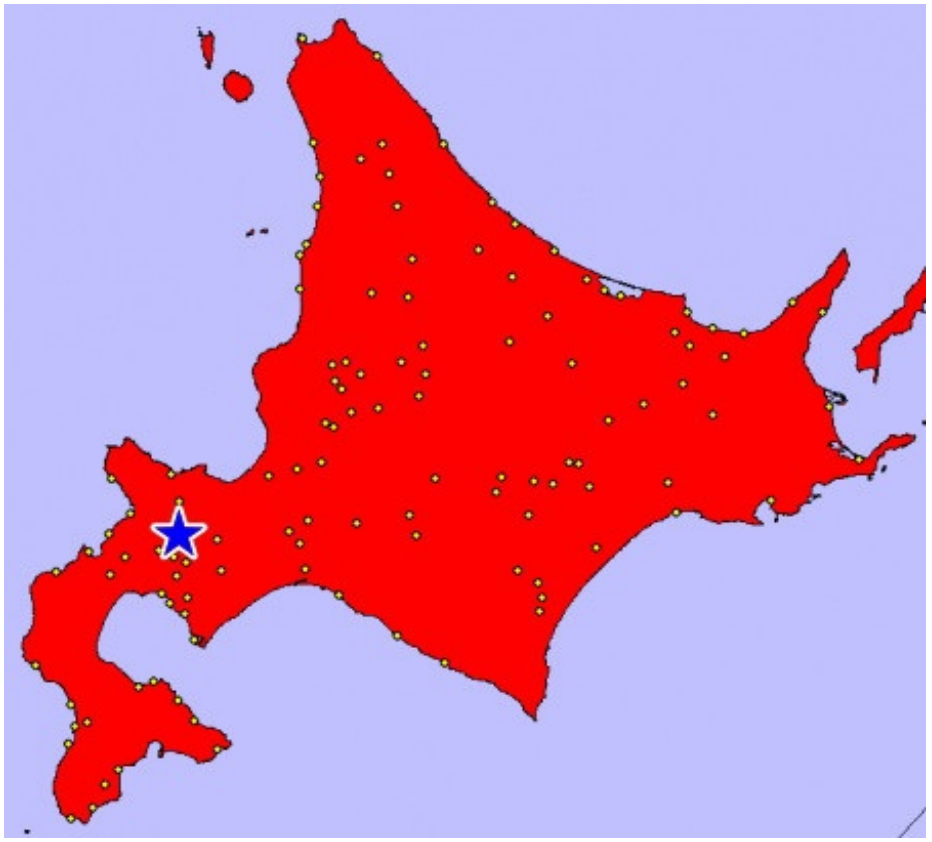
⑨名水の郷きょうごく

中山峠から４０分ほどの距離にあるのが、次に紹介する

道の駅名水の郷きょうごく　です。

■所在地＆ＭＡＰ

北海道虻田郡京極町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

　　Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　名水百選、湧水、羊蹄山の伏流水、苔、日本庭園、ふきだし公園、芝生公園

■この道の駅の魅力について

ここは環境庁の名水百選に選ばれた 「羊蹄のふきだし湧水」 で有名な道の駅です。
駐車場も広く、ひんぱんに観光バスが停まり、どっと人が降りてきます。

建物はいくつかありますが、これが道の駅のメインである “名水プラザ” です。
ここには特産品コーナーやレストランがありますが、名水を使った 「京極酒」 などが人気です。

この名水プラザのすぐ横に吊り橋があり、そこから裏手にある “ふきだし公園” に入って行けます。

これが道の駅の全体図ですが、２つの池を繋ぐ位置につり橋のあるのがお分かりでしょうか？

つり橋の上から撮った写真ですが、見事な日本庭園ですね！
他にもこんな写真があります。

これらの池や水路は、最初に紹介した羊蹄山の伏流水が流れ込んだものです。
では、その噴き出し口を見てみましょう。

ここでは湧水を自由に持ち帰れるので、ペットボトルやポリタンクを持った人たちが大勢並びます。
水温は年間を通して６度なのだそうです。

そして私が絶景と思うのが、その湧水のふきだし口です。

この道の駅からは樹林の先に羊蹄山の頂上部分だけが見えます。
その羊蹄山に降った雨や雪が地中に染みこみ、数十年の歳月を経て湧き出したのがこの伏流水です。

湧出量は毎日８トンにもなり、これは３０万人の生活用水に匹敵するそうです。
そして長い年月でつくられたであろう、“苔” が美しいと思います。

私が２回目に訪れた２０１４年９月の時点で、この湧水口に小さなショベルカーが入ってなにやら工事を行っていましたから、今頃は整備が終わってもっと綺麗になっているだろうと思います。

この道の駅の最大の魅力はこの湧水と日本庭園ですが、他にこんな景色もあります。

ご覧のように広大な芝生公園もあります。
更に隣接して “京極温泉” や “パークゴルフ場” も併設されています。

一日中ゆっくり楽しめる道の駅だと思います。

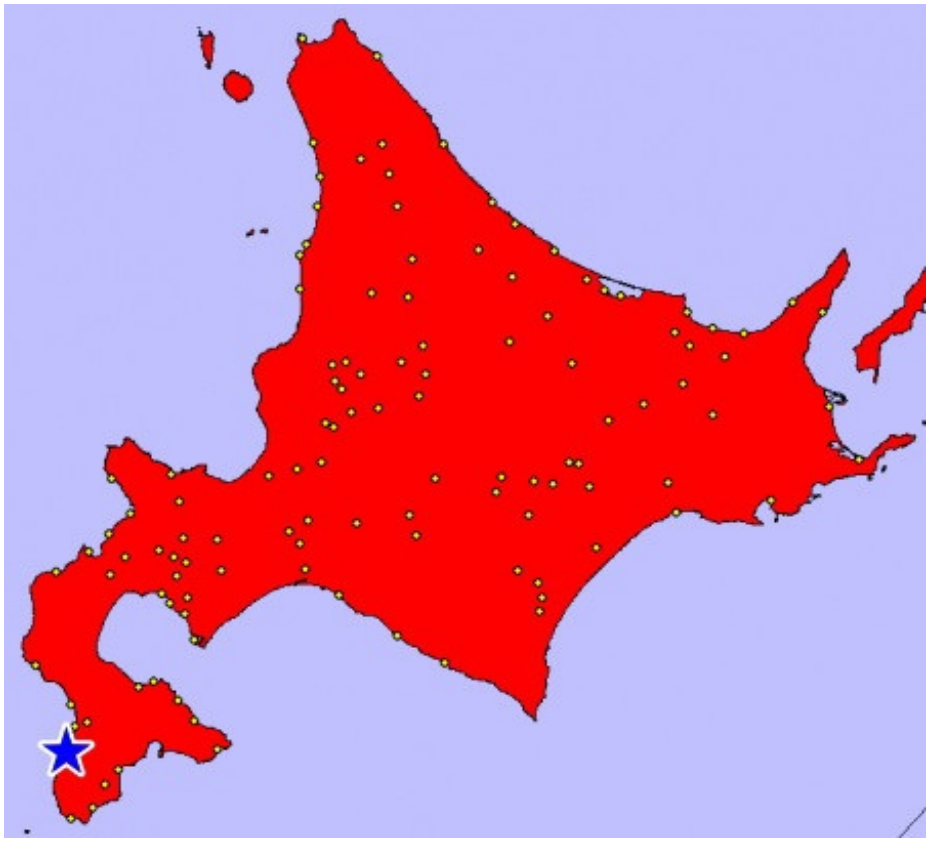
⑩上ノ国もんじゅ

北海道の絶景道の駅として最後にご紹介したいのは

道の駅上ノ国もんじゅ　です。

■所在地＆ＭＡＰ

北海道檜山郡上ノ国町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

　　Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　追分ソーランライン、日本海、文殊浜、オブジェ、多目的公園

■この道の駅の魅力について

“松前” から “小樽” までの日本海の海岸線に沿ったルートを “追分ソーランライン” と呼びます。
日本海は元々海が荒々しいため、それによって浸食されてできた “奇岩” に至る所で遭遇し、北海道らしい快適なドライブコースを楽しめます。

道の駅はその沿線上の、少し小高い、とっても見晴らしの良い場所に建っています。

国道２２８号から案内に従って入って行くと、最初にあるのが “多目的公園” です。
そこからの日本海の眺めも素晴らしいのですが、この公園にはいろんな “オブジェ” が立っています。

何を表現しているのかは私にはよく理解できませんが、これら巨大なオブジェは道の駅のシンボルでありとても魅力があります。

この多目的公園を更に下ったところに道の駅がありますが、このユニークな建物も、背景の青空と日本海の海原に実によくマッチしています。

この道の駅は以前、「北海道ウォーカー」 とい雑誌に掲載された 「絶景感動部門」 で “金賞” を獲得した道の駅です。
私もこの道の駅には2回来ていますが、いずれも晴天に恵まれたこともあり強い印象をもっています。

道の駅の裏手にまわると広大な芝生公園があり、そこからの眺めもなかなかのものです。

ここにも先ほどのものと似たオブジェがありますが、こちらは “風の王” という名前がついています。

ちなみにこの道の駅上ノ国もんじゅですが、今年（２０１７年）１０月１６日から２０１８年３月末まで、
リニューアル工事のために休館しています。
今でも魅力的なこの道の駅が、どのように生まれ変わるのか楽しみです！

さて、この絶景道の駅５０選の内、１０か所を北海道から選びました。
私の個人的な好みもありますが、やはり北海道は絶景の宝庫だと思います。

実際にはもっと他にも素晴らしい道の駅があったのですが、訪問した日のお天気などによりきれいな写真が撮れず、掲載を断念したものもあります。

次回からは東北地方を紹介して参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

⑪奥入瀬（青森県）

今回から東北地方の絶景道の駅を紹介したいと思いますが、その最初は

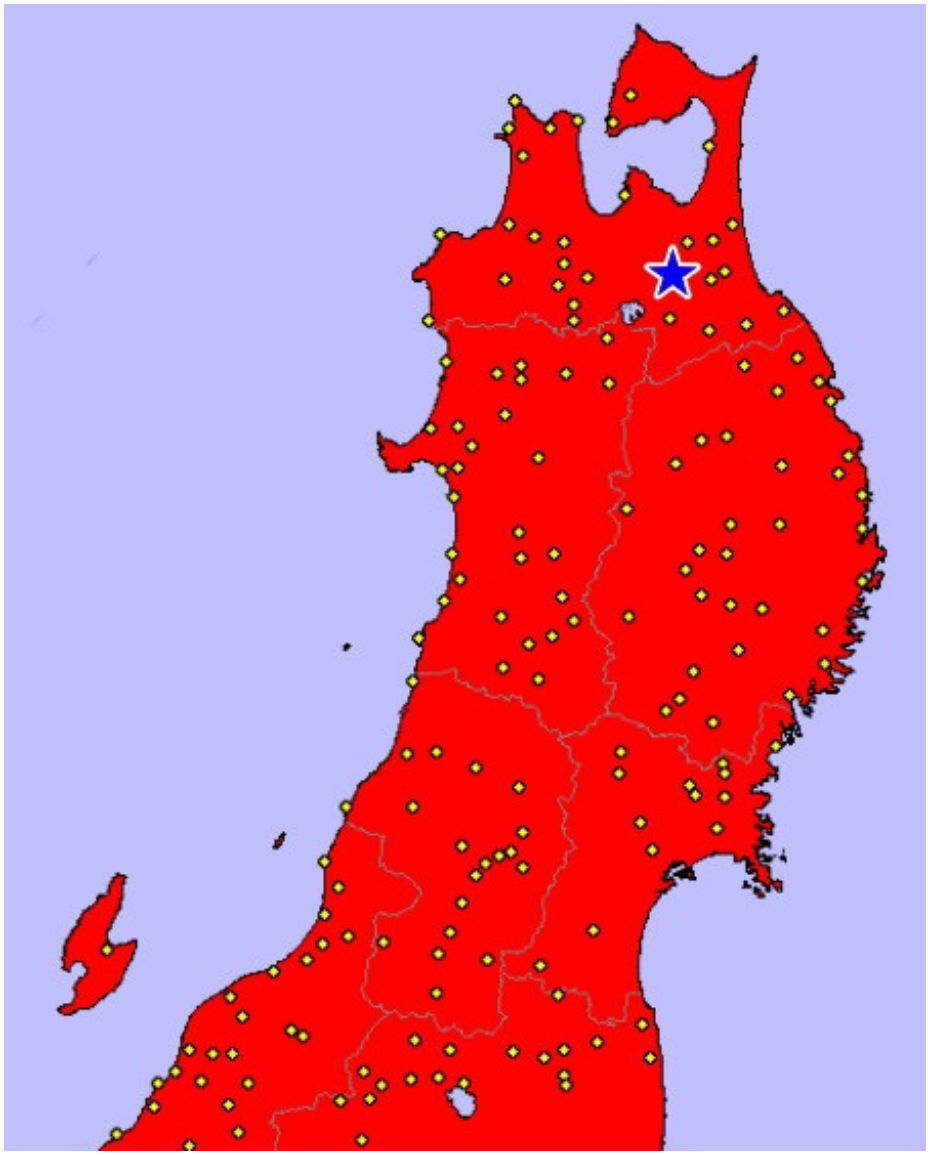
道の駅奥入瀬　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

青森県十和田市大字奥瀬



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　奥入瀬渓流、新緑、紅葉、十和田湖、八甲田山

■この道の駅の魅力について

奥入瀬と言えば“奥入瀬渓流”が有名ですが、道の駅はそこから15分ほどの距離にあります。

道の駅自体もロケーションに恵まれた景色の良い場所にありますが、近郊の観光スポットとして奥入瀬渓流を含めてご紹介します。

この道の駅は駐車スペースも約３５０台分ある規模の大きなもので、全体を “奥入瀬ろまんパーク” と呼びます。

上の写真の階段を上がったところが広い芝生公園になっており、道の駅の本体である “四季彩館” を始め、“ステーキレストラン「味蕾館」”、“地ビールレストラン「奥入瀬麦酒館」” それに手作り工房である “味楽工房” の、４つの施設があります。

奥入瀬ろまんパーク案内図
レストラン
味香館
ステーキハウス
STEAK HOUSE
レストラン
奥入瀬麦酒館
地ビール
OIRASE BREWERY
喫茶コーナー
FARM PROD UCE CENTRE
四季彩館
お土産品
GIFT SHOP
喫茶コーナー
公衆トイレ
身障者用トイレ
車いすスロープ
現在地
YOU ARE HERE

味香館

これらの写真が２つのレストランですが、いずれも芝生や樹木に囲まれたゆったりとした空間に点在しています。
更にこれらの施設に隣接して親水公園や野外ステージがあり、住民の憩いの場になっています。

ここは奥入瀬渓流や十和田湖に近いだけではなく、青森を代表する “八甲田山” にも面しています。
晴れた日には八甲田連峰が望めてそれも絶景なのでしょうが、私が訪問した日は残念ながら雲に閉ざされていました。

ここを絶景道の駅に選んだ理由は、道の駅自体のロケーションの良さもありますが、やはり青森を代表する観光スポットである “奥入瀬渓流” に近いことです。

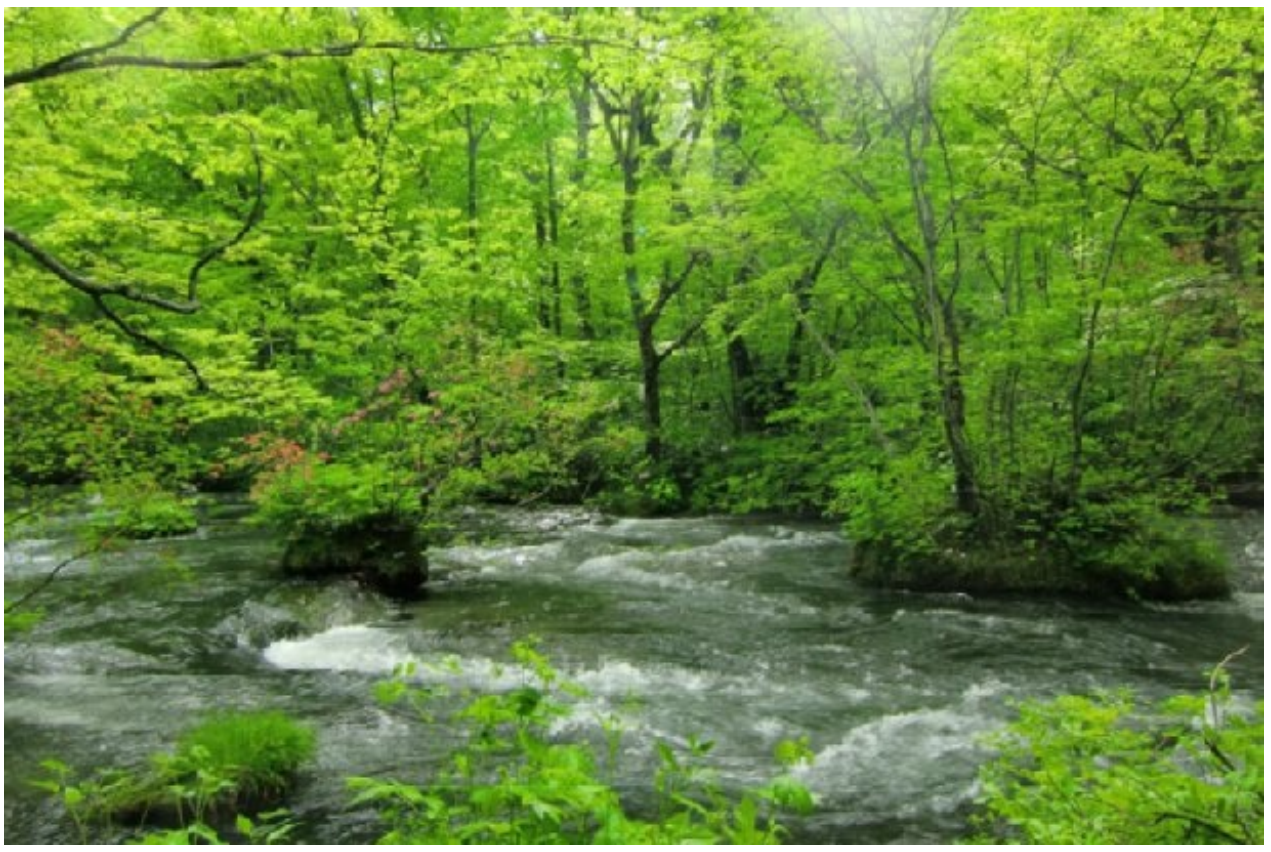
この “おいらせ渓流観光センター” のある “焼山” が渓流散策の出発地点で、水源である十和田湖側の “子ノ口” まで約１４ｋｍあります。

全行程を歩けば約４時間、レンタサイクルを借りれば１時間半から２時間です。
車で行けば、いくつかの駐車場の他、道路脇にも多少は停められるスペースがあります。

でも、紅葉の時期や観光シーズンだと道路自体が渋滞しますから、途中までバスで行ってあとは歩く、というのが賢明かもしれません。

渓流沿いに遊歩道と車道があり、オフシーズンであれば途中に車を停めて渓流に下りれます。
そこからの眺めをご覧いただきましょう。

私が訪れたのは５月ですから、新緑のシーズンでした。
全長１４ｋｍの奥入瀬渓流にはいくつもの“見どころ”がありますが、どこも絵になります。



途中、“雲井の滝” というのにも立ち寄りました。
ここは高さが２０ｍあり、３段にわたって流れ落ちます。

そして奥入瀬渓流の最上流部まで行くと、そこが “十和田湖” です。

道の駅奥入瀬は、青森を代表する観光スポット、“奥入瀬渓流” “十和田湖” への玄関口といえると思います。

⑫かわうち湖（青森県）

次に紹介するのは本州で最も北に位置する

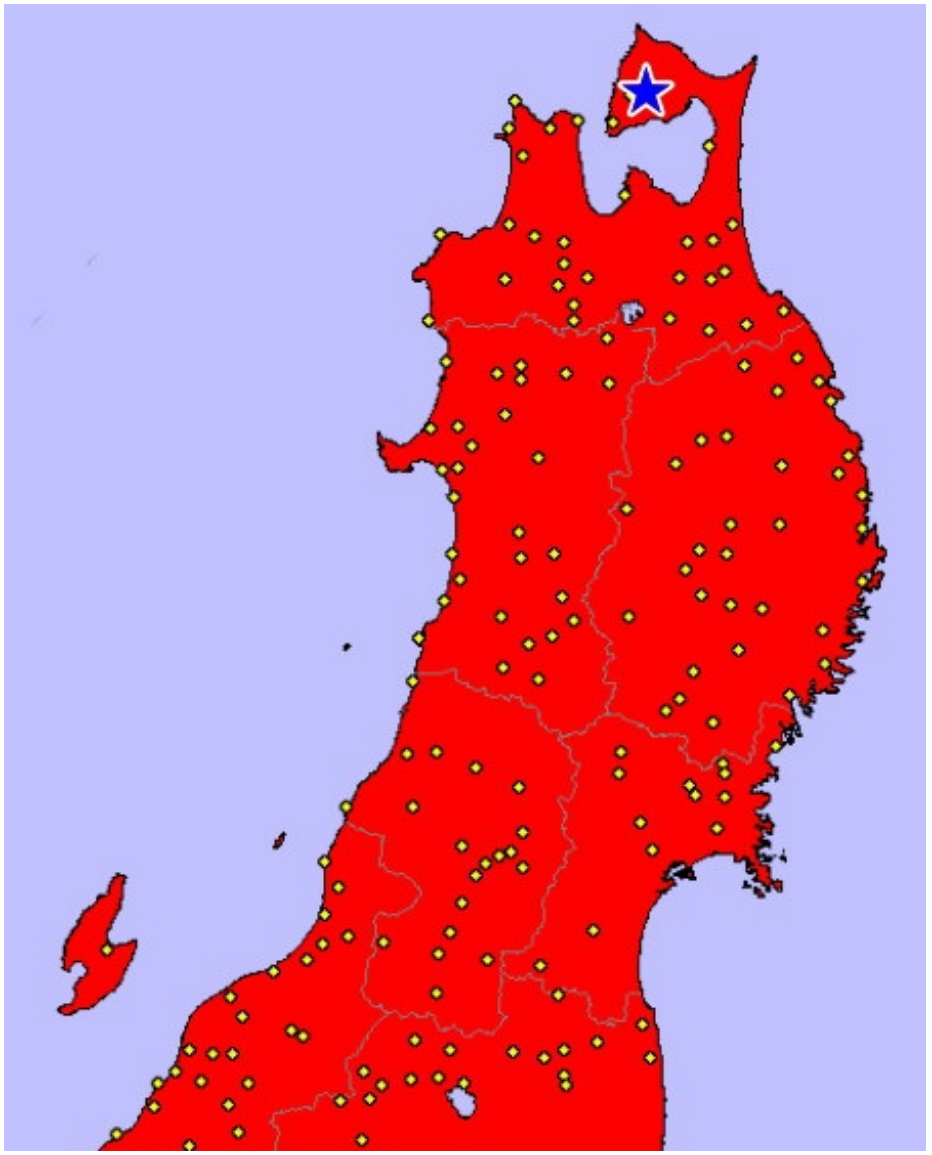
道の駅かわうち湖　の風景です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

青森県むつ市川内町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　下北半島、かわうち湖、ダム湖、野平高原、遊歩道、仏ケ浦

■この道の駅の魅力について

本州の北端にはご存知のように２つの半島があり、左側が “津軽半島”　右側が “下北半島” です。

今回紹介する道の駅かわうち湖は、その下北半島のほぼ中央にあり、本州最北端の道の駅です。
あまり観光客が行くところではなく穴場的な場所ですが、私の印象に残った道の駅なので、あえてここを絶景道の駅のひとつに選びました。

ここは道の駅自体はあんまり大きくはなく、派手さもありません。
川内ダムによって造られた人工湖である “かわうち湖” の湖畔にある、ロッジ風の建物です。

この周辺を “野平高原” と呼び、この道の駅にも “野平高原交流センター” と書かれています。

かわうち湖は 「ダム湖百選」 にも選ばれており、手付かずの大自然がそのまま残されています。

ここには全長４．４ｋｍの遊歩道が整備されていてゆったりとした自然を満喫できるのですが、この道の駅周辺の公園だけでも、心が癒されるのです。

公園内のところどころに置かれた “句碑” がほのぼのとした雰囲気を醸し出しています。
道の駅としては地味だけど、懐かしい故郷に戻ったような魅力を感じるのです。

そしてこの道の駅から１５ｋｍほどの距離にあるのが、景勝地 “仏ケ浦” です。

道の駅からは１５分～２０分程度で行けるので、あわせて紹介しておきましょう。
地図でお分かりのように、下北半島の先端部分が “大間のマグロ一本釣り” で有名な大間崎です。

国道３３８号を大間崎方面に走ると、「仏ケ浦展望台」 があり、そこから海を見下ろすことができます。

仏が浦は、長い年月の強風と荒波が疑灰石を削った奇岩群が２ｋｍにもわたって続くもので、その形が仏像に似ていることからこの名前がついています。

これらの写真は展望台から望遠を使って撮影していますが、歩いて海岸まで下りてゆく道もあります。

でも、そこには野生の猿の群れが休憩所の屋根の上や周囲の樹々、そして道端など、我が物顔で占領していたので、気味が悪くなって通るのを断念しました。
これらの猿は、“世界最北限の猿” と呼ばれているニホンザルです。

他に、海上から仏ケ浦を眺める遊覧船が就航していますから、これも魅力だと思います。

今回紹介した道の駅は、１１月下旬から４月中旬までの冬季は閉鎖になります。
厳しい環境の中にあり、あんまり観光客が行かないマイナーな道の駅だからこそ、私の印象に強く残ったのかも

しれません。

⑬はやちね（岩手県）

今回もダム湖の畔にある道の駅で

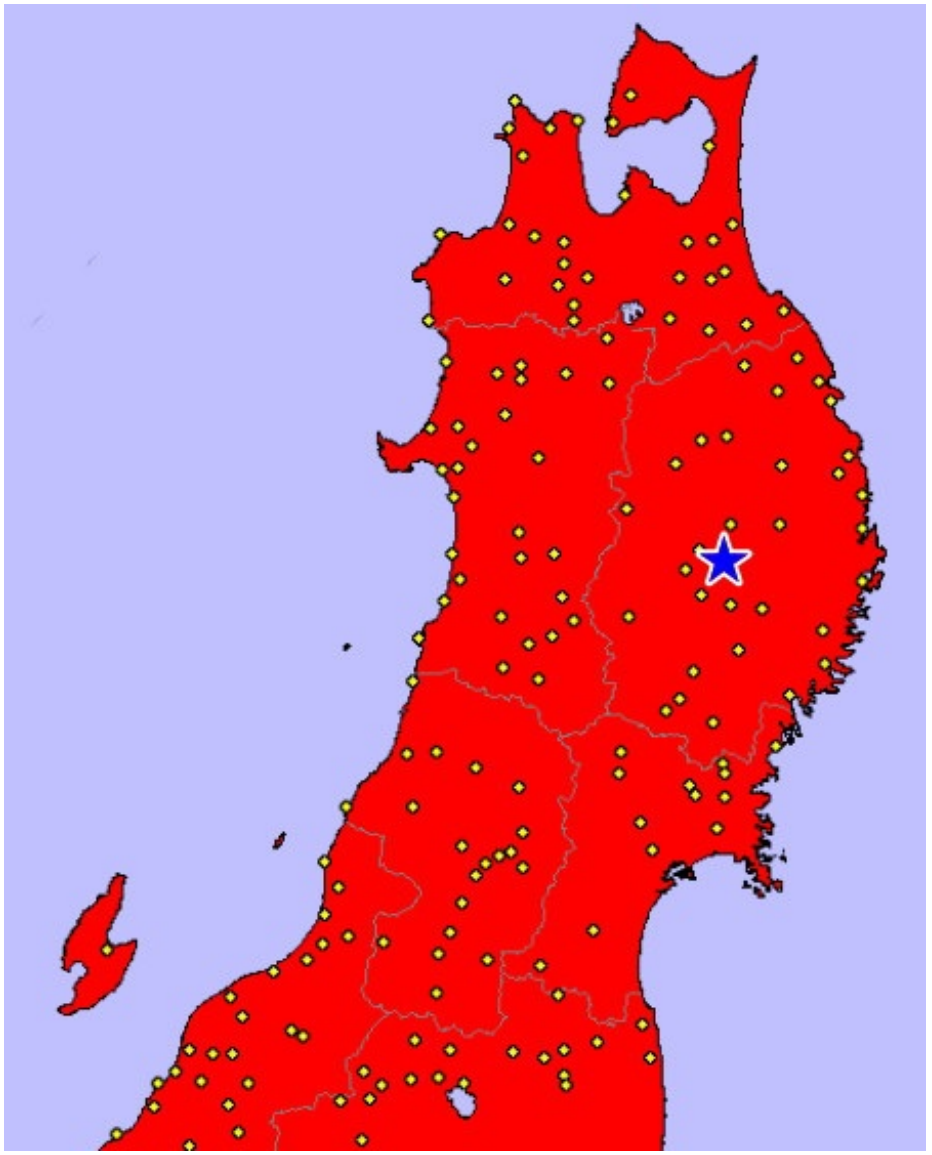
道の駅はやちね　をご紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

岩手県花巻市大迫町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

国定公園早池峰、早池峰山、早池峰ダム、早池峰湖、ダム湖、友好の鐘

■この道の駅の魅力について

ここは“国定公園早池峰（はやちね）”の玄関口に位置します。

その中心は日本百名山の一つである“早池峰山”で、標高は１９１７ｍ、北上山地の最高峰です。

ここは平成１２年に完成した“早池峰ダム”によって堰き止められた人造湖“早池峰湖”の湖畔にありますが、道の駅としての知名度はあまり高くないと思います。

赤で囲んだところが道の駅の場所です。

先ほどの写真にある建物が道の駅の本体で“ベルンドルフプラッツ”と言います。
ここ“花巻市大迫町（おおはさま）”はオーストリア“ベルンドルフ”と姉妹都市であり、建物の名前は“ベルンド

ルフ広場” という意味です。

ここには他に、“山村文化交流館” や “レストラン・ワインハウス湖畔” などの施設があります。

この高い塔は “友好の鐘” といい、高さは１５ｍ、オーストリア “ベルンドルフ市” との姉妹都市締結３０周年を記念して建てられました。

友好の鐘の奥に見えているのがレストランですが、これを別の方向から見たのが次の写真です。

“レストラン・ワインハウス湖畔” はご覧のようなロッジ風です。
ここからは食事をしながら湖畔の風景を堪能することができます。

私が最も感動した、その湖畔の絶景をご覧頂きたいと思います。

ここは “水と緑のふれあい公園” といいますが、自然のままの様々な野草が、たくさんの可憐な花を咲かせていました。

物産館などがある訳でもなく、普通の道の駅とはちょっと違うけど、東北を回った中でもここの風景は強く印象に残っています。

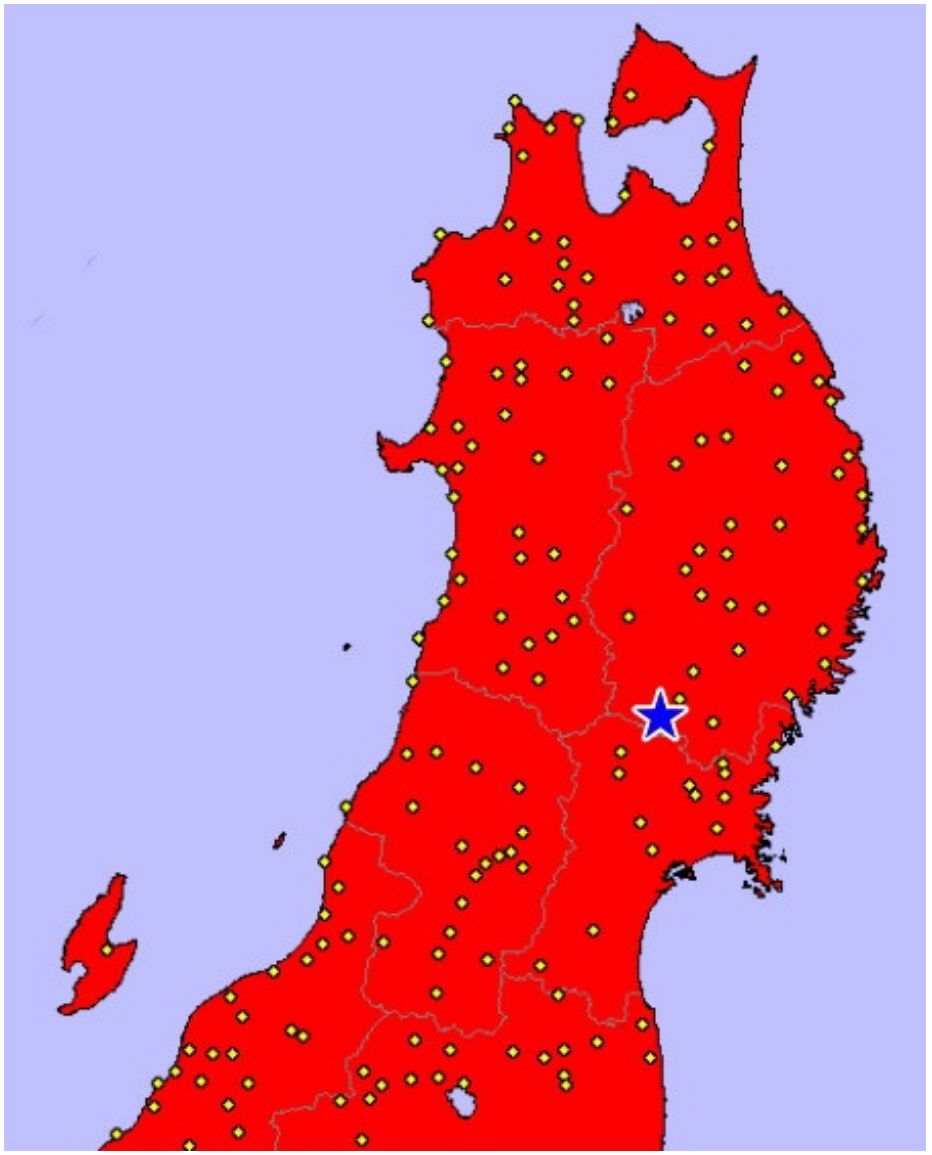
⑭厳美渓（岩手県）

次は有名観光スポットに歩いて行ける

道の駅厳美渓　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

岩手県一関市厳美町



■絶景区分

　　Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

☆Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

　　Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　名勝・天然記念物、渓谷美、磐井川、急流、浸食、奇岩、瀑布、遊歩道、空飛ぶだんご

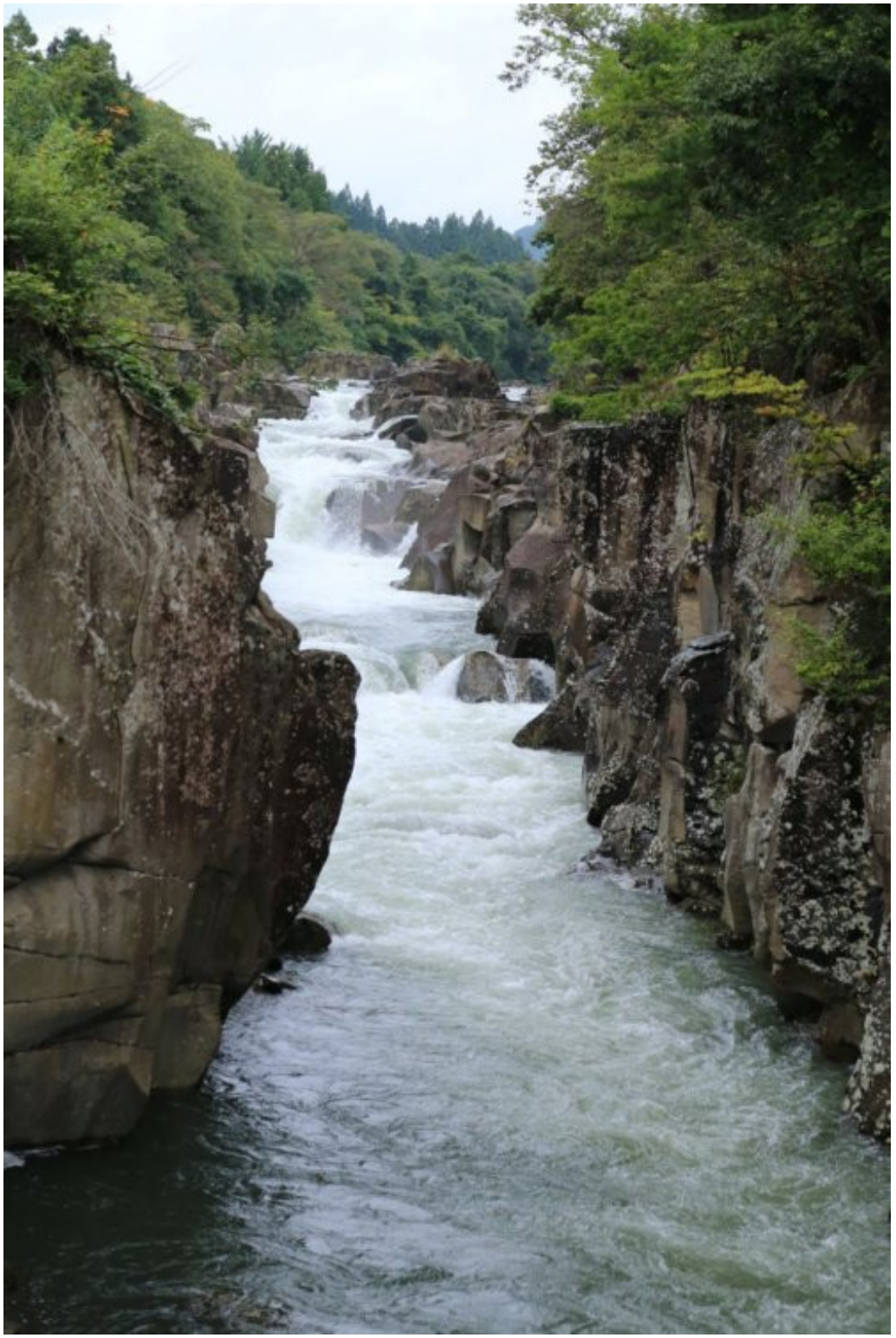
■この道の駅の魅力について

“厳美渓”と言えば、東北では有名な観光スポットのひとつです。
その厳美渓に、歩いて行ける道の駅がこの場所です。

道の駅のある一関市は岩手県の最も南部にある地方都市です。
その市街地から車でわずか１０分ほど走った郊外に、この道の駅はあります。

ここは “餅” が特産のひとつで、一関には３００種類を超えるもち食のメニューがあり、道の駅のレストランでもそのなかの選りすぐりを提供しています。

この道の駅に車を停めて、５分ほど歩いたところに景勝地 “厳美渓” があるのです。



厳美渓は、「国の名勝及び天然記念物」 に指定されています。

この川は北上川支流の 1 級河川で “磐井川（いわいがわ）” といい、栗駒山が源流です。
そのむかし、栗駒山の噴火で堆積した岩盤を磐井川の急流が浸食し、このような奇岩、瀑布、深淵などの景観が誕生しました。

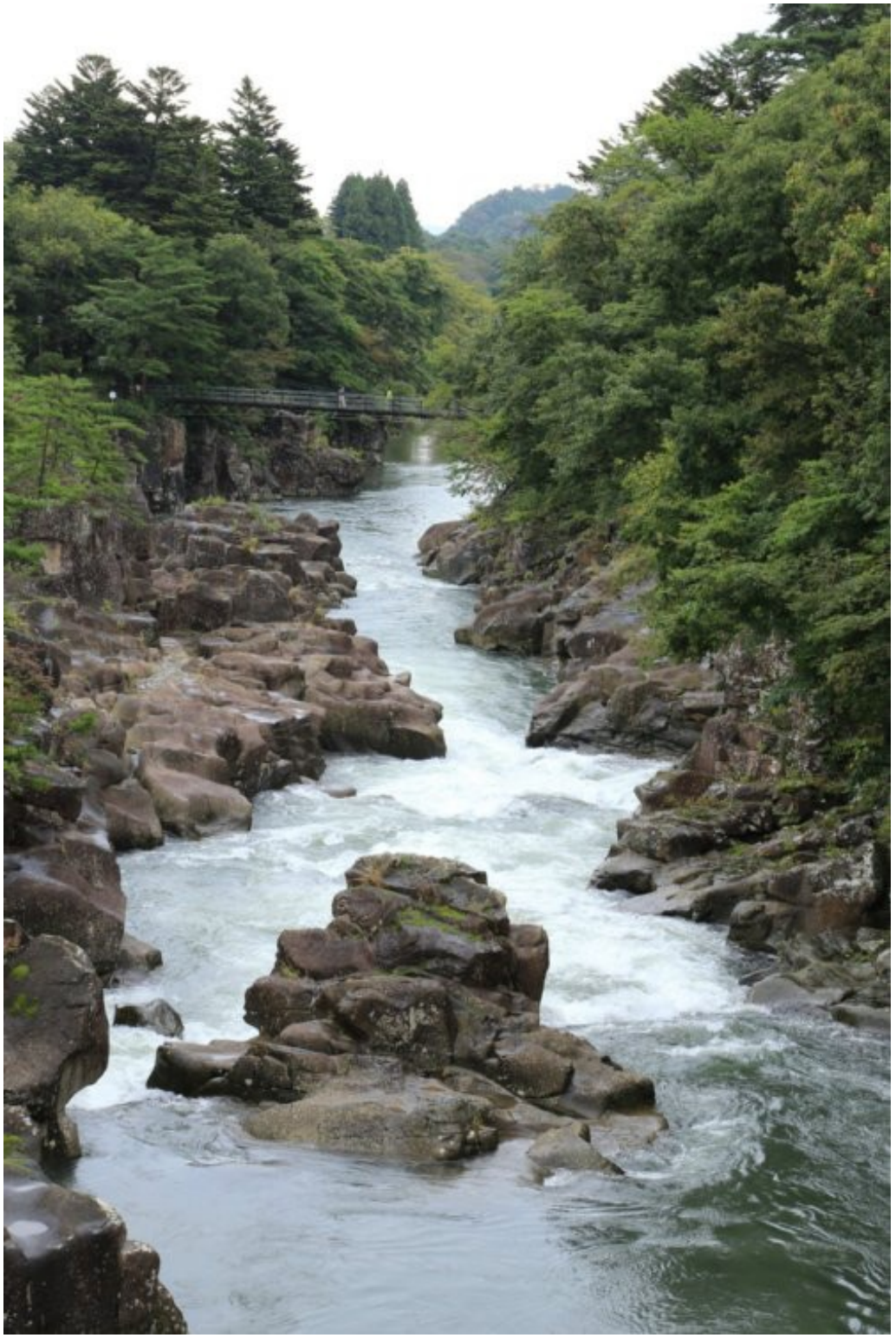
約２ｋｍにわたるこの厳美渓には３つの橋が架かっており、その橋を使って遊歩道が整備されています。
３０分の周遊コース、７０分の周遊コースなどのモデルコースがあります。

この厳美渓にはもうひとつ有名なものがあります。
それが “空飛ぶ団子” です。

渓谷の岩盤の上に東屋が建てられていますが、そこから対岸の建物に向かってワイヤーが架かっているのがおわかりでしょうか？
そのワイヤーに籠がぶら下がっていますね！

ワイヤーの先の建物は “かっこう屋” というお団子屋さんで、籠にお金を入れて合図の板を叩くと、お店がワイヤーを引っ張り、団子とお茶が戻ってくるのです。

明治１１年に創業した初代の 「千葉酉吉」 が考案した販売方法で、厳美渓を代表する名物として観光客にすっかり定着しています。



道の駅から少しだけ歩くだけで、このような絶景を堪能できるのは嬉しいことだと思います。

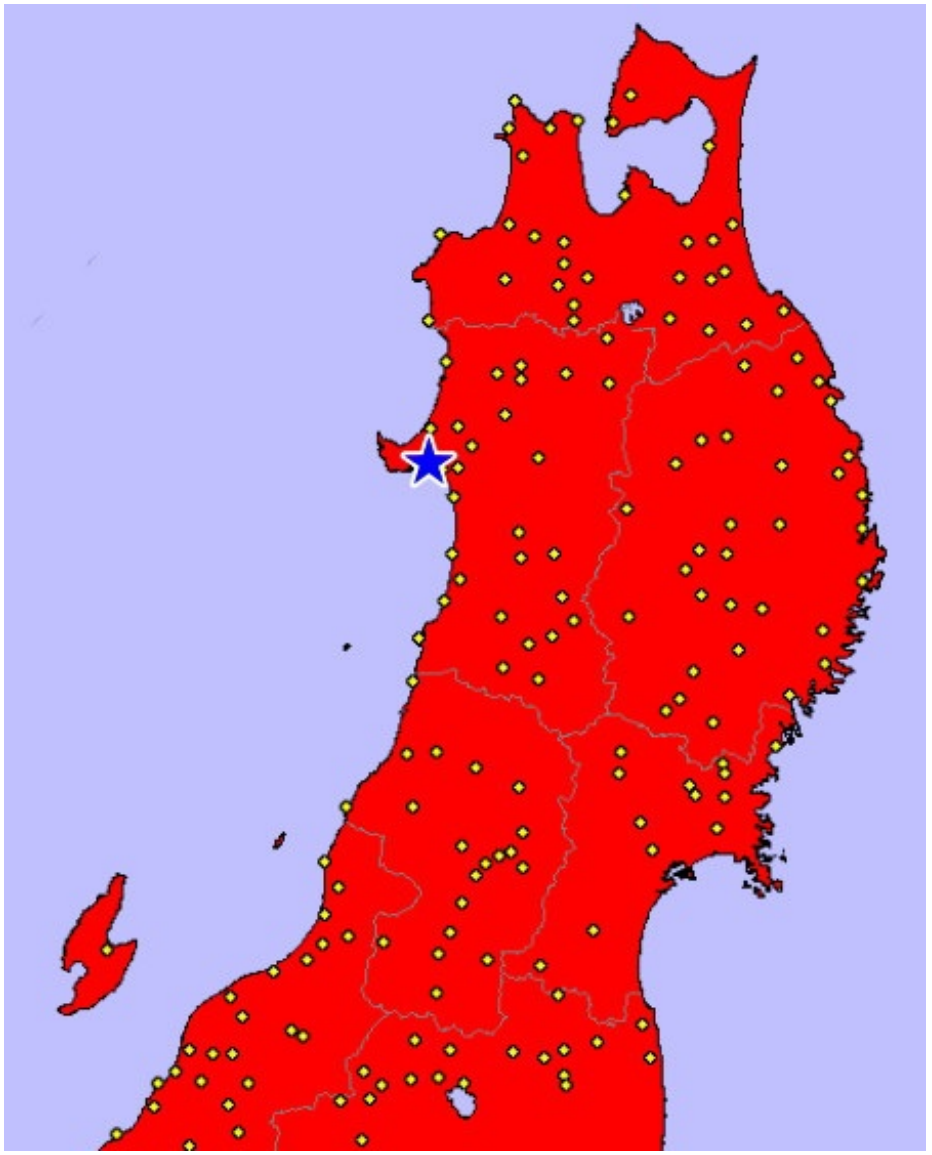
⑮てんのう（秋田県）

絶景道の駅の15番目は秋田県の

道の駅てんのう　のご紹介です。

■所在地＆ＭＡＰ

秋田県潟上市天王江川



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

天王グリーンランド、天王スカイタワー、展望台、鞍掛沼、神話の里、八郎潟

■この道の駅の魅力について

ここは男鹿半島の付け根に位置し、施設全体を“天王グリーンランド”といいます。

道の駅に隣接して天然温泉や、陸上競技場、グランドゴルフ場、ゴーカート、そして敷地の半分ほどを占める“鞍掛沼”の周囲には神話の里も再現されている大型レジャー施設です。

手前の建物は “天王ふれあい交流センター” といいますが、その奥に高いタワーが見えます。
これが高さ５９．８ｍの “天王スカイタワー” で、道の駅のメインです。

タワーの周辺には、美しい洋風の庭園が整備されています。

この付近、“鞍掛沼公園” というらしいですが、花壇には手入れの行き届いた花々が咲いています。
ここでは公園内に咲いたお花や景色の写真展なども開催されます。

天王スカイタワーは、斜めから見るとわかるように “三角柱” の形をしています。
１階に道路情報案内、観光案内、みやげ店、食事処などがあり、これが道の駅です。

タワーの写真の上部に窓が見えると思いますが、上の窓が最上階である４階の “展望台” で、その下が３階にあたる、“展示室” になっています。

ここに上がるのは、私が行った頃は４００円の有料だったので高いと思ったのですが、現在は入場無料に変わっているようです。
その展望台からの絶景が次の写真です。

展望台からは３６０度の景観が眺望でき、これは日本海の海原と右手が男鹿半島です。
広大な田園風景も印象的です。

これらの写真はタワーの真下で、陸上競技場やゴーカート場も見えますね。
これらも全部 “天王グリーンランド” の施設ですが、逆方向を見下ろすと “鞍掛沼” があります。

庭園のような雰囲気の鞍掛沼ですが、その岸辺をよく見るとこんな建物が建っています。

これは “歴史の広場 神話の里 「スサノオの村」” といい、古代集落を復元したものです。
展望台からの３６０度、変化にとんだ風景を楽しめます。

そして１階下の “展示室” には、こんなものが展示されています。

かつて琵琶湖に次ぐ日本で２番目に広い湖だった“八郎潟”は１９５７年からの「国営八郎潟干拓事業」により２０年の歳月をかけて埋め立てられ、農地に変わりました。

その埋め立て前の姿や漁具などがここに展示されています。
その八郎潟も、このタワーから見える位置にあります。

この男鹿半島周辺には他にも魅力的な道の駅がいくつもありますが、タワーからの眺望の美しさから、ここを絶

景道の駅に選びました。

⑯あきた港（秋田県）

今回紹介するのは、前回の「道の駅てんのう」からわずか１４ｋｍほどしか離れていない

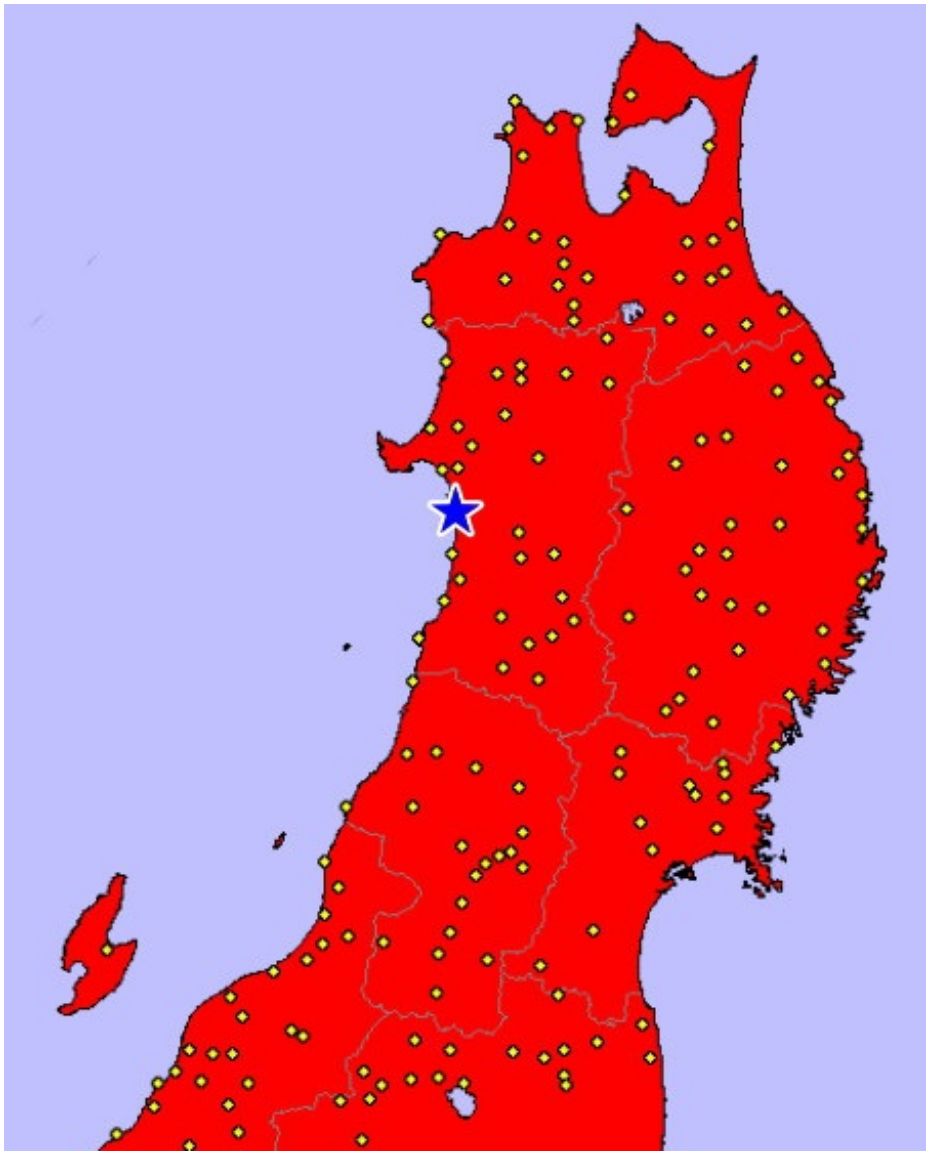
道の駅あきた港　で、やはり高いところからの絶景です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

秋田県秋田市土崎港西



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

秋田港、ポートタワー・セリオン、セリオン・リスタ、セリオン・プラザ、展望室

■この道の駅の魅力について

道の駅あきた港は、世界最大の口コミサイト“トリップアドバイザー”が主催する、『旅好きが選ぶ！道の駅ランキング２０１７』で全国１０位に選ばれました。

これは２０１６年８月から２０１７年７月までの１年間に投稿された件数やその評価点をもとにランキングしていますから、全国１０位というのは素晴らしい快挙だといえます。

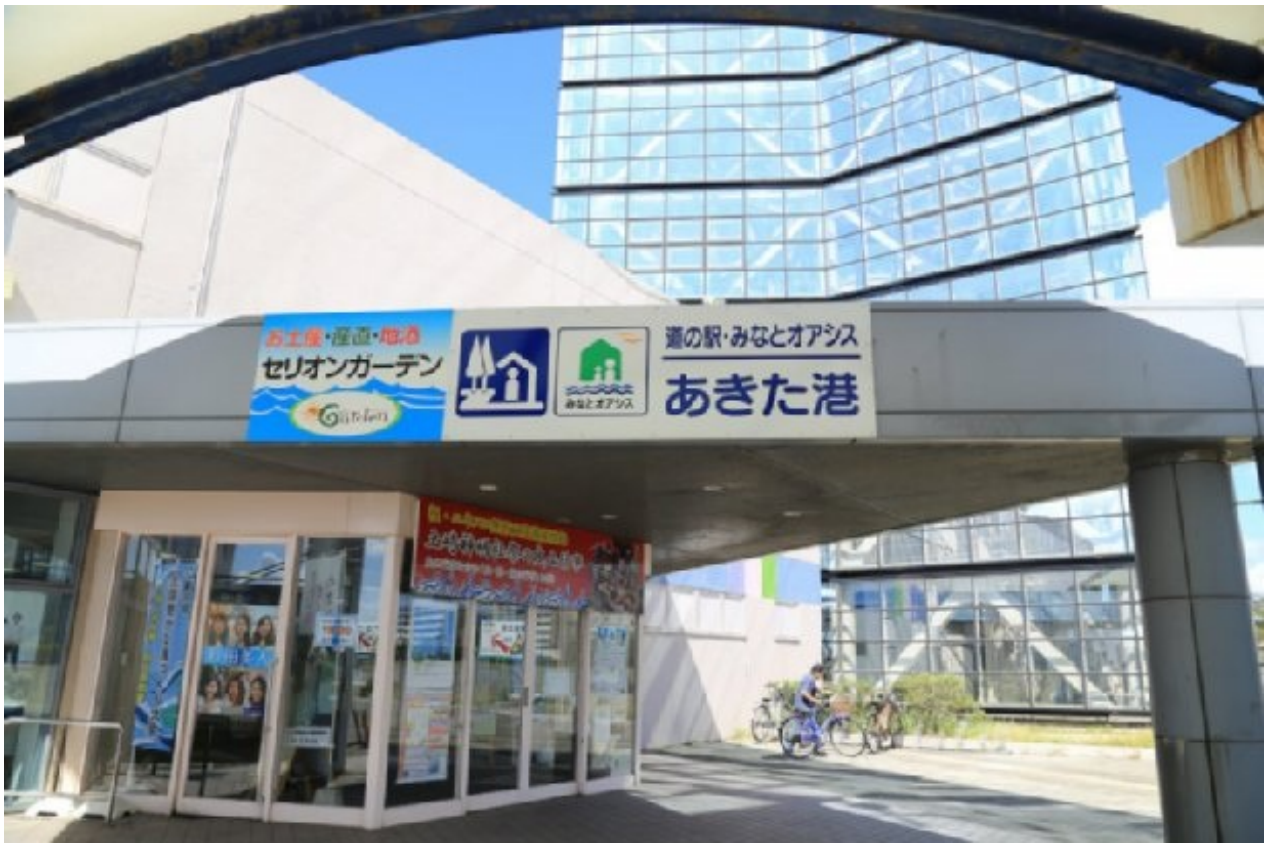
ご覧の “ポートタワー・セリオン” が道の駅の中心であり、秋田市のシンボルタワーでもあります。
タワーの全体が６２７２枚の強化ガラスで覆われており、空を写して美しい姿を見せています。

高さは１４３ｍあり、そのちょうど１００ｍの位置に展望室があります。

前回紹介した 「道の駅てんのう」 のスカイタワーは高さが５９．８ｍでしたから、それよりもはるかに高い位置からの眺望が楽しめることになります。

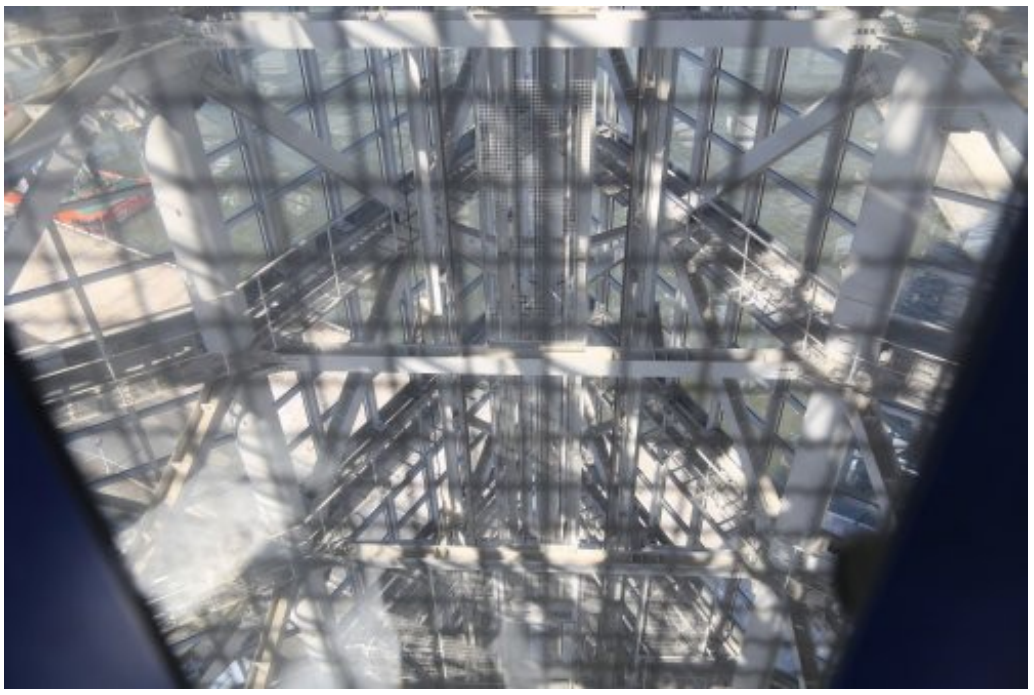
こちらの建物は “セリオン・リスタ” といい、内部は “室内緑地公園” です。

道の駅は先ほどの “ポートタワー・セリオン”、この “セリオン・リスタ”、それにもうひとつ、秋田港振興センターである “セリオン・プラザ” の３つの施設で構成されています。



それでは高さ１００ｍからの絶景を見るために、タワーに上ってみましょう。

タワーの１階部分には、とっても広い物産館やレストランがあり、それぞれ “セリオンガーデン” “セリオンキッチン” と呼ばれます。



この２枚の写真はエレベーターの中ですが、外が丸見えでなかなかスリルがあります。
そして展望室からは３６０度の周囲が見渡せます。

この２枚は、私が車を停めていた駐車場を真上から見下ろしたものです。
２隻の船が見えますが、いずれも海上保安庁の巡視艇です。

これらが日本海側の眺望です。
さらにぐるっと陸側を眺めてみます。

秋田市の市街地がすべて見渡せます。

この道の駅、ポートタワーを代表する施設全体の建造物も “絵” になるし、高さ１００ｍからの眺望も素晴らしく、さすがに全国１０位の人気を誇るだけのことはあると思います。

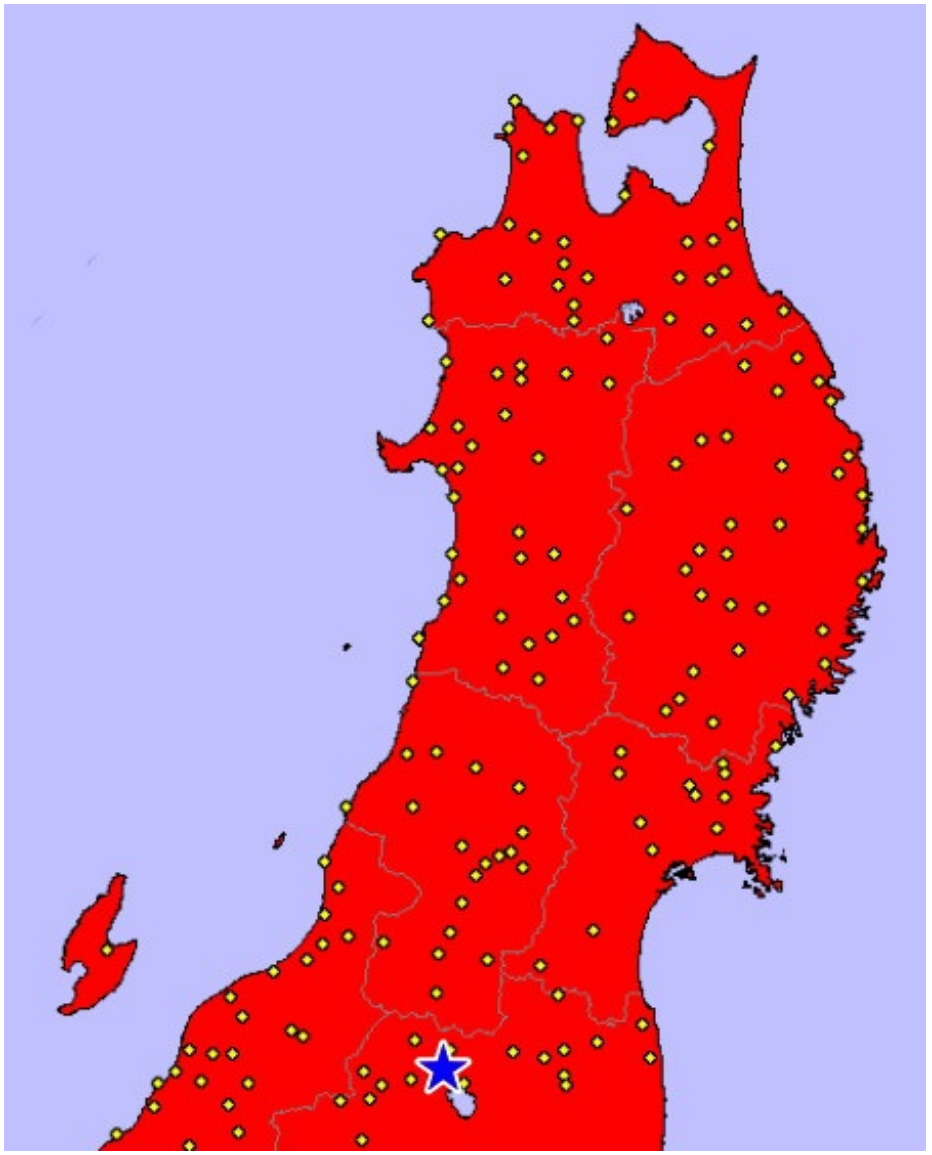
⑰ばんだい（福島県）

今回は一気に福島県まで南下して

道の駅ばんだい　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

福島県耶麻郡磐梯町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

磐梯山、会津富士、猪苗代湖、表磐梯

■この道の駅の魅力について

福島県南部で一番ポピュラーな観光スポットといえば “磐梯山” や “猪苗代湖” だと思います。

磐梯山を境に、その南側を “表磐梯” 北側を “裏磐梯” といいます。
いずれも素晴らしい絶景が多いので、今回は “表磐梯” 次回に “裏磐梯” を紹介することにしましょう。

今回紹介する “道の駅ばんだい” はご覧のような位置にあります。

道の駅はご覧の通り規模も大きく、会津のあらゆる土産がここで揃います。
そして何よりの魅力は、この景色です。

“会津富士” とも呼ばれる標高１８１６ｍの活火山 “磐梯山” の雄姿です。

山頂付近は残念ながら雲がかかっています。

これを、道の駅の建物と一緒に撮ったのが次の写真です。

迫力ある “会津磐梯山” を身近に見上げることのできる、絶好のロケーションだと思います。

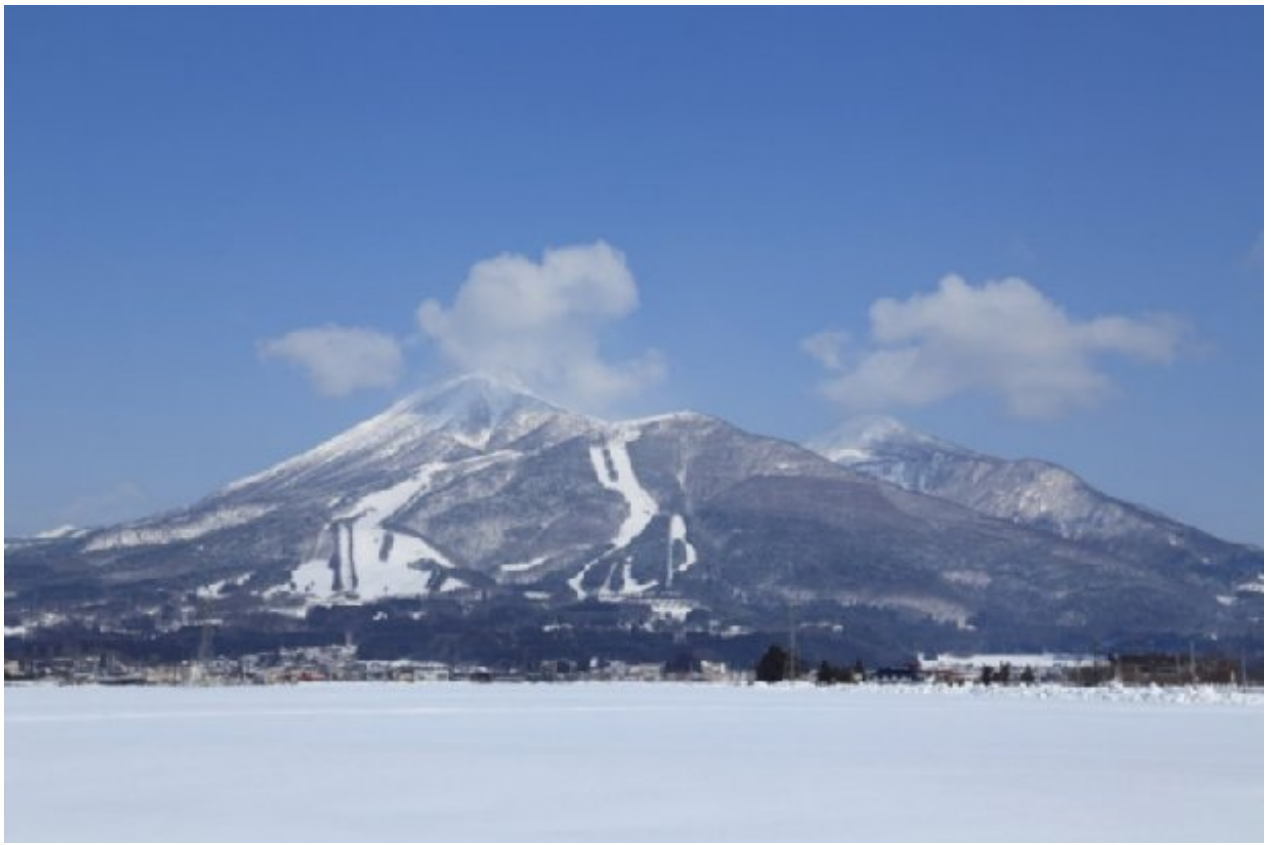
この道の駅から磐越自動車道を１区間、１５分ほど東へ走ると “道の駅猪苗代” があります。
ここへは３月の中旬に訪問したのですが、まだ雪が降っていました。

喜多の郷
北塩原村
裏磐梯
磐梯山
ばんだい
下町 湯川村
磐梯町
猪苗代町
猪苗代
あいづ
会津坂下
湯川・
IC
会津若松市
猪苗代湖
美里町
福島県

道の駅猪苗代

ここから見上げた冬の磐梯山の姿が次の写真です。

この日は曇っていましたから、すっきりした写真ではありませんね。
翌朝に、このすぐ近くで撮った磐梯山を次に紹介しておきましょう。



冬の磐梯山も、やはり美しい姿をしています。

表磐梯からの磐梯山は、ご覧のようにすっきりと整った山容であるのに対し、北側である裏磐梯から見た磐梯山は、明治２１年に起きた水蒸気爆発による山体崩壊で、対照的な荒々しい姿です。

表磐梯を代表する景観は磐梯山だけではなく、“猪苗代湖” もありますね。

道の駅猪苗代からは歩いて湖畔に行けるのですが、私が宿泊したことのある少し高い場所に建っているホテルからの猪苗代湖を、最後にご紹介しておきます。

これは早朝の猪苗代湖の眺望です。
湖面に山の姿が写って、美しい姿を見せてくれました。

次回は、磐梯山の北側、“裏磐梯” の見どころをご紹介しましょう。

⑱裏磐梯

前回が表磐梯の道の駅だったので、今回は

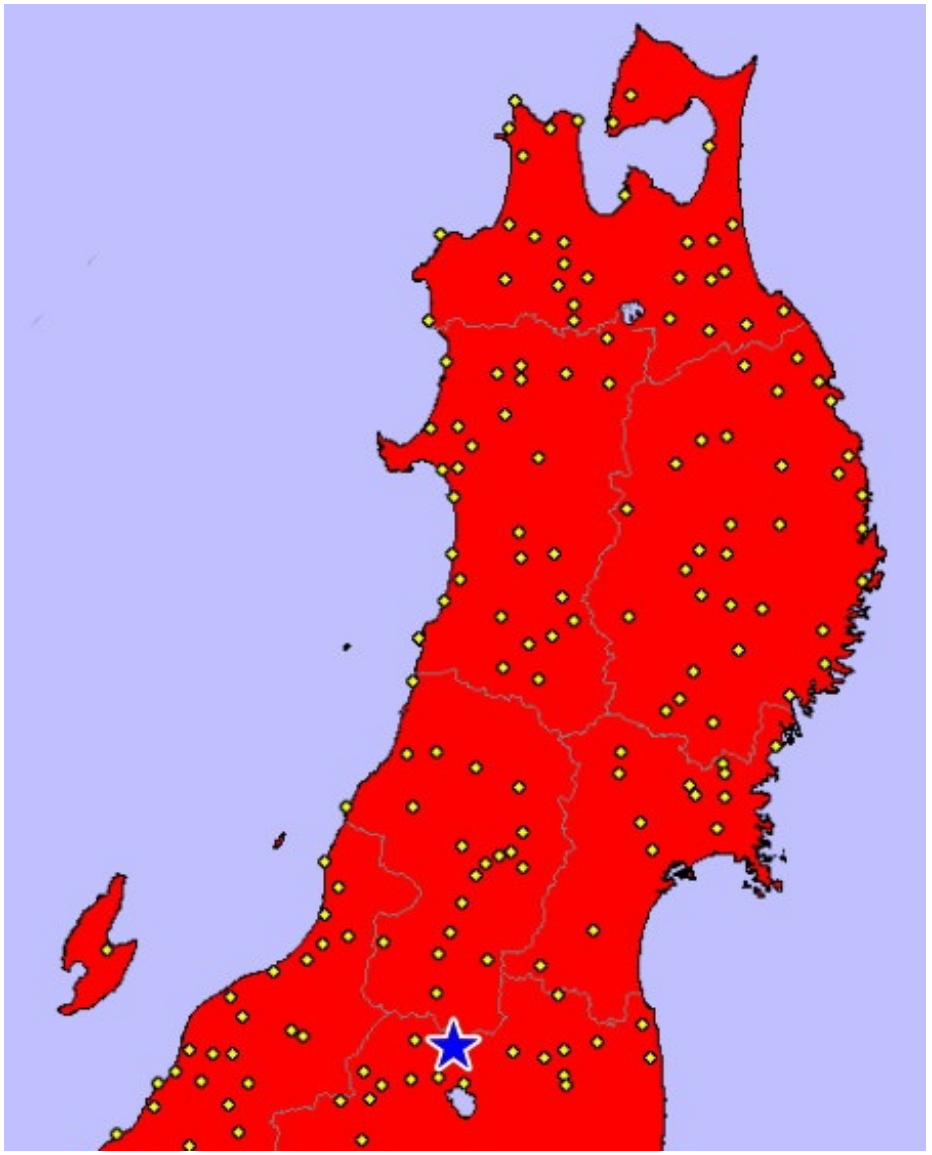
道の駅裏磐梯　の紹介です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

福島県耶麻郡北塩原村



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　裏磐梯、桧原湖、五色沼、探勝路、磐梯朝日国立公園、磐梯山

■この道の駅の魅力について

前回お話ししたように、磐梯山を挟んで南側が表磐梯、北側が裏磐梯といいます。

この付近を“裏磐梯高原”といい、“磐梯朝日国立公園”に属します。

明治２１年７月１５日に発生した磐梯山の水蒸気爆発によって山体崩壊が起き、その岩屑なだれが多くの川を堰き止め、約３００もの湖沼が誕生しました。

その中で最も大きい湖が “桧原湖” であり、道の駅はそれを見下ろす位置に建っています。

道の駅裏磐梯自体が山や湖に囲まれた大自然の中にあり、絶好のロケーションの中にあります。

裏磐梯は福島県屈指の高原リゾートで、年間３００万人以上の観光客が訪れます。
周辺にはホテル・旅館・ペンション・民宿などの宿泊施設があり、登山、キャンプ、自然散策、釣りや野鳥の探索などあらゆるアウトドアレジャーを楽しめます。

今回は道の駅からちょっとだけ足を伸ばして、桧原湖と五色沼の絶景をご覧いただきましょう。
まずは、道の駅のすぐ近くにある“桧原湖”です。

裏磐梯最大の桧原湖（ひばらこ）は、南北約１８ｋｍ、東西約１ｋｍの細長い形をしており、湖の周囲が３１．５ｋｍ、水深が３１ｍあります。

遊覧船が就航し、湖畔でのキャンプやボート遊び、冬は氷結した湖面でのワカサギ釣り、夏にはバスフィッシングなど四季を通じて楽しめます。

今はこれほど平和で美しい湖ですが、明治２１年の山体崩壊では５００名以上が犠牲となり、この湖には、当時の桧原村がそのまま水没しています。

さて次は、ここも裏磐梯を代表する絶景スポットである“五色沼”をご覧いただきましょう。

磐梯山の山体崩壊によって約３００の湖沼が誕生しましたが、その中の９つほどの沼を結ぶ“五色沼自然探勝路”が整備されています。

ご覧の地図にあるように、東側（右手）の五色沼入り口から西側の裏磐梯高原駅まで全長３．６ｋｍあり、約７０分ほどかかります。
私は五色沼入り口に車を停めた関係で、半分ほどを歩いて引き返しました。

ここがスタート地点である “五色沼展望台” です。
ここにはコースの中で一番大きい、“毘沙門沼” があります。

ここには鯉が泳いでおり、ボートも浮かんでいます。
ここから探勝路がスタートしますが、しばらくは毘沙門沼の淵に沿って歩きます。

深い樹々の間から、美しい風景が次々に現れます。
スタート地点は岩だらけで少し歩きにくかったものの、それを過ぎると高低差も少なく快適です。

そして “赤沼” に到着しました。

あんまり赤くはない！（笑）

強酸性の水質の為植物の根元に鉄分が付着し、沼の淵が赤く見えるのだそうですが、水の色は季節によって青緑色や抹茶色などに変わるのだそうです。

更に歩いて “深泥沼（みどろぬま）” に到着！

深泥沼は沼の西側と東側で水質が異なる為、場所によって水の色や透明度が違います。
手前が濁っていて奥に行くほど徐々に水が澄んでくるのでこのようなグラデーションになります。

浅いところに生えている植物の色も違うので、このような景色が創られるのです。
この写真、結構私の自信作で、大きく拡大印刷をして壁に飾っています。(^ 〜 ^)

この付近がほぼ半分の位置なので引き返したのですが、いつか全行程歩いてみたいと思っています。

⑲美ヶ原高原（長野県）

今回より関東エリアに移ります。

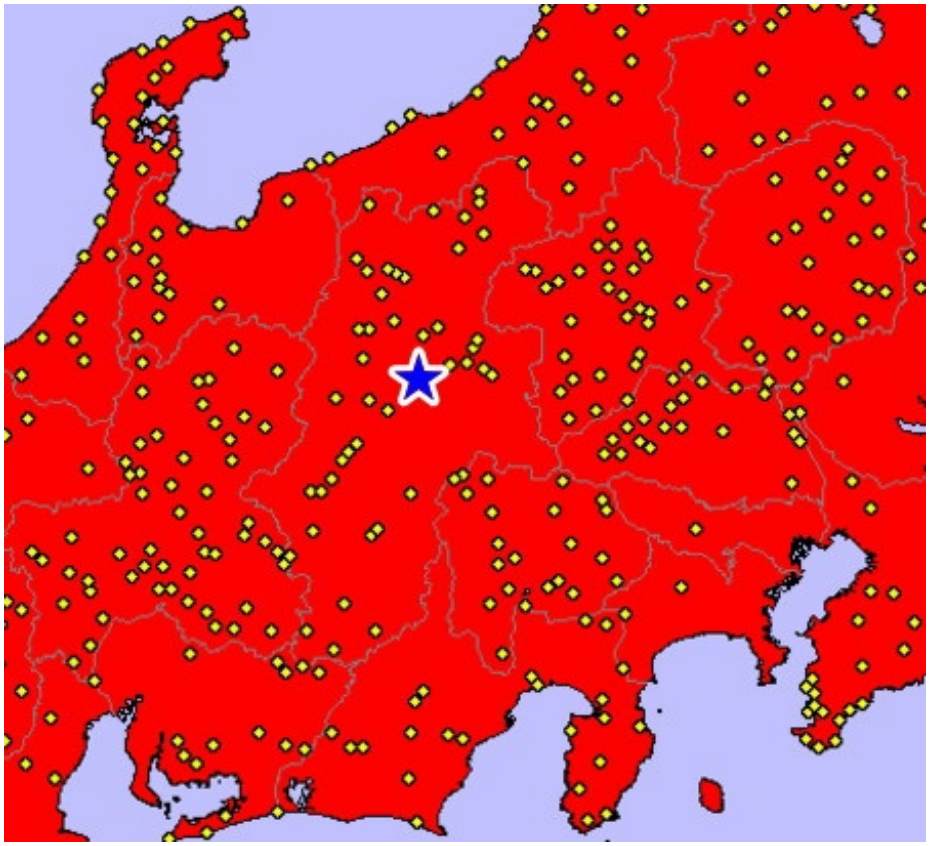
道の駅美ヶ原高原　が、その1カ所目です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

長野県上田市



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

雲上の道の駅、標高2000ｍ、展望テラス、現代アート屋外美術館

■この道の駅の魅力について

ここは標高が２０００ｍの、日本一高い場所にある道の駅であり、“雲上の道の駅”と呼ばれます。
日本を代表する観光山岳道路である“ビーナスライン”の終点です。

この中央にある建物が道の駅の本体です。

残念ながらこの日は周囲に厚い雲がかかっていますが、天気が良ければ北、中央、南アルプス、秩父、立山連峰、八ヶ岳、更に背後には富士山など、まさに３６０度の眺望が開けます。

先ほどの道の駅の建物にも “展望テラス” があり、そこでは軽食などを味わいながら標高２０００ｍからの絶景

を楽しめるのですが、私が訪ねたこの日はうっすらとしか山並みが見えませんでした。

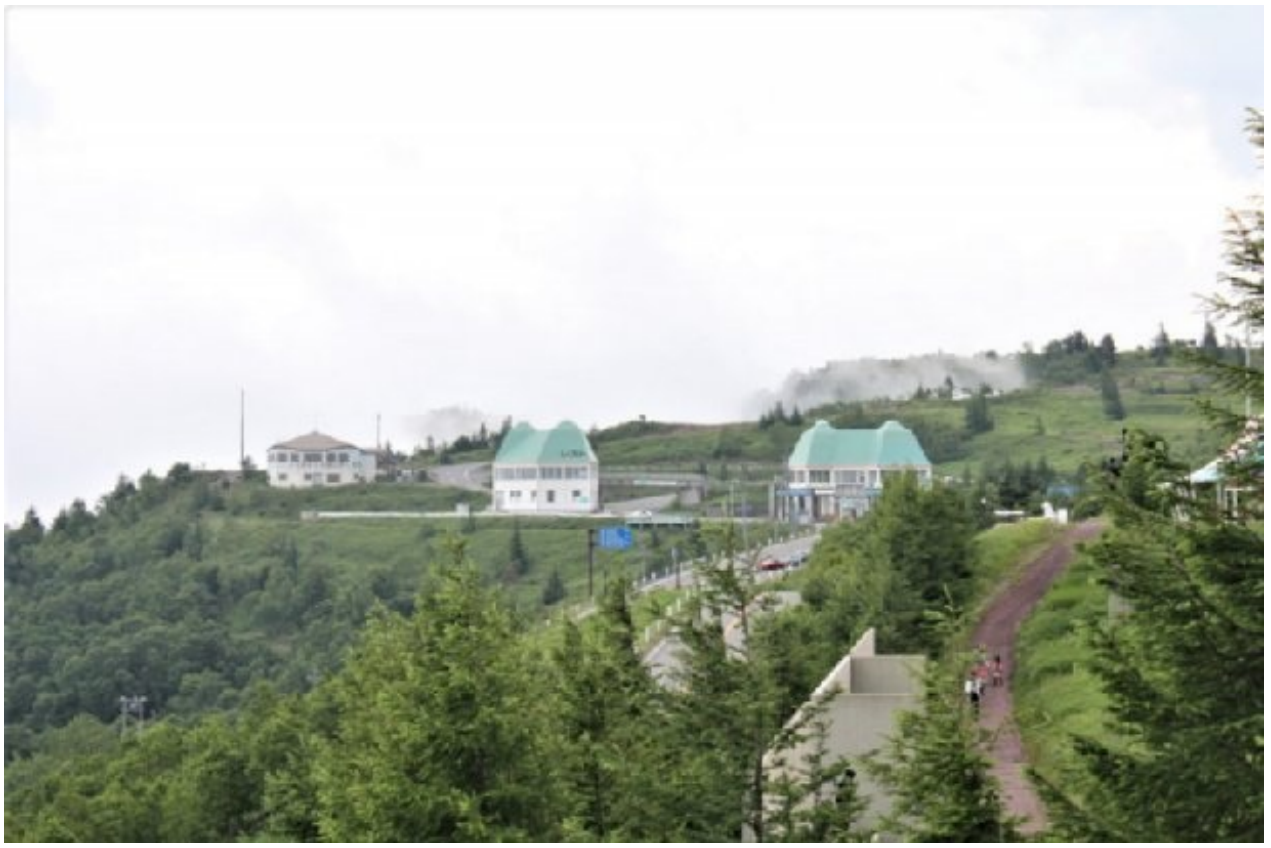
山並みを望む絶景の写真が撮れなかったのは残念なのですが、この道の駅には、眺望のすばらしさの他に、もう一つ大きな特徴があります。

それはここが、“現代アートの屋外美術館” である、ということです。

駐車場の背後が小高い丘になっていて、その丘全体に様々な現代アートが展示されているのです。
写真に写っているのは、そのほんの一部の範囲でしかありません。

元々この道の駅は “美ヶ原高原美術館” という名前でしたが、昨年度（２０１７年）からなぜか、“美術館” を外し “美ヶ原高原” という名前に変更されました。

道の駅の建物には広いショッピングモールがあり、洋風レストラン、和食処など、展望、買物、食事とそれだけでも十分に楽しめるのですが、今回は “屋外美術館” を中心に紹介します。



道の駅の建物でチケットを買い、この橋を渡って屋外美術館のエリアに入ります。
ここは海抜２０００ｍですから、“日本で最も高い場所にある美術館” でもあるのです。

美ヶ原高原の頂上にあたるこの付近は２００種類以上もの高山植物が咲く宝庫でもあり、道の駅を出発地点としていくつものハイキングコース、遊歩道が整備されています。

これが美術館の正式な玄関口になりますが、早速大きな “親指” が建っています。

フランスのセザールという作者が、自分の右手親指の型をとって、指紋から皺までを忠実に再現したのだそうで、作品の高さは３０８ｃｍあります。

代表的な作品をランダムに紹介してゆきましょう。

これらの作品は一応形がはっきりしているので、素人の私にも何となくわかります。
でも、何を意味しているのかよく分からない現在アートもたくさんあります。

この背後にあるお城のような建物は、“ビーナスの城” といい、「ミロのビーナス」 を始めとする８体の大理石像（模刻）などが展示されています。

そして私が特に気に入った作品はこちらです。

背後の６本の白いポールの上の像は “愛のモニュメント” といいます。
手前の作品の名前は分からないのですが、親子３人の像が背景にマッチして特に印象に残りました。

屋外美術館は全体が４万坪の広さがあり、約３５０点の現代彫刻が常設展示されています。
この日は途中で雨が降り出したため見学を中断し、ほんの一部しか見て回ることができませんでした。

雲上の道の駅から見下ろす絶景写真を今度こそ撮れるよう、いずれもう一度行ってみたいと思っていますが、次はお天気に恵まれることを祈ります。

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

この道の駅へは２０１８年１０月に再度訪問しました。
このときは絶好のお天気だったので、写真だけ１０枚ほど紹介します。

あくまでも写真の抜粋で詳しい説明を省きますが、この時は北アルプスの槍ヶ岳から富士山（最後の写真）まで見渡すことができました。

ようやくリベンジが叶いました。(^^♪

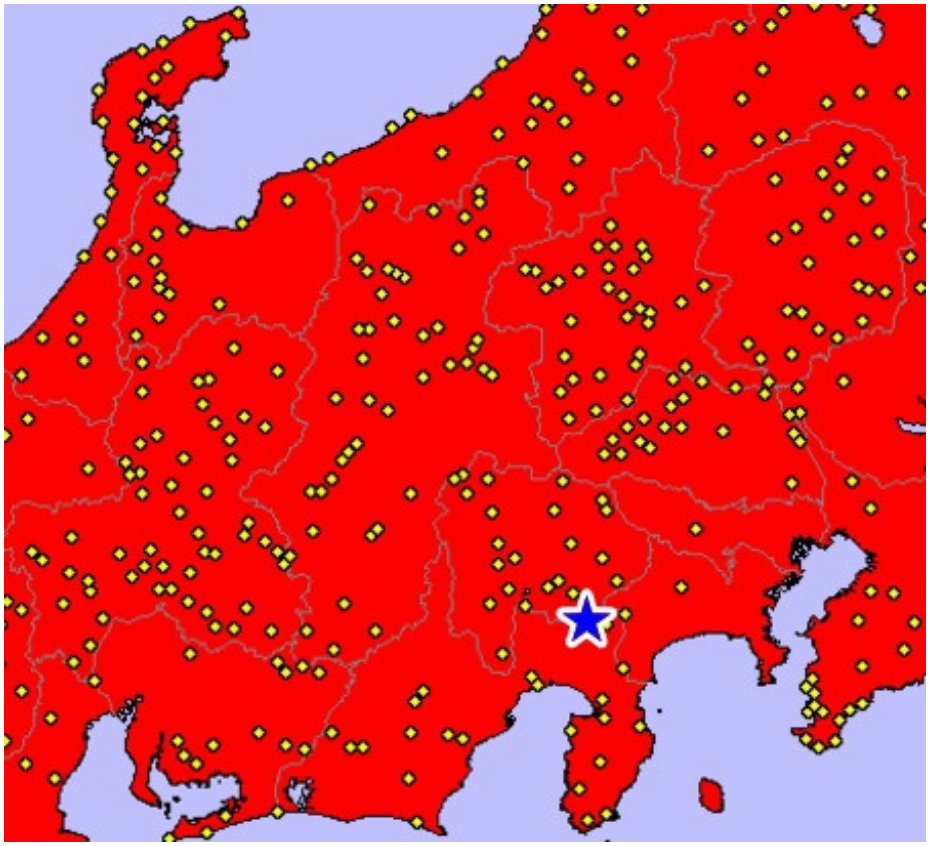
⑳すばしり（静岡県）

次は「富士山が見える道の駅」の代表として

道の駅すばしり　をご紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

静岡県駿東郡小山町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　富士山、富士山須走口、ふじあざみライン、富士山登山基地

■この道の駅の魅力について

富士山の見える道の駅というのは、山梨県、静岡県でいくつもあるのですが、訪問した時のお天気によってなかなかシャッターチャンスに恵まれず、唯一写真の撮れたのがここ“すばしり”です。

ここは富士山のちょうど東側に位置し、道の駅の中では最も富士山に近い場所にあります。

富士山への登山口としてはまず富士スバルラインを通って “吉田口五合目” があり、南側からなら富士山スカイライン経由の、“富士宮口五合目” と “御殿場口新五合目” があります。
更に、東側からだと、ふじあざみラインを経由した “須走口五合目” です。

道の駅すばしりは、このふじあざみラインに直結しており、須走口五合目から富士山を目指す人たちの出発点なのです。

道の駅の背後にご覧のように富士山が見えます。
建物の横にある階段を上って裏庭に出ると、真正面に雄大な姿を望むことができます。

この日だけは珍しく、はっきりとした富士山を道の駅から見ることができました。

この小高い裏庭から道の駅の２階に直接入れるのですが、そこはレストランになっていて、この雄大な富士山を間近に眺めながらの食事が楽しめます。

私が道の駅から撮った富士山は唯一ここだけなのですが、これだけでは寂しいので、道の駅ではない場所からの富士山も見て頂くことにしましょう。

その最初は、富士山の北側にある “河口湖” からのものです。
最初の1枚は宿泊したホテルの窓から、そして２枚目以降は河口湖畔の “大石公園” からです。

これらは早朝だったので、比較的よく撮れたと自負しています。

次が “忍野八海” で、これは富士山の北東に位置します。

ここからの富士山も形が整っていてきれいです。
道のすばしりからは、２０分もかからない距離です。

次は、富士山の南側に位置する “水ケ塚公園” からの富士山です。
ここは “御殿場口新五合目” へのルートに近い場所にあります。

ここからの富士山は、形に特徴があります。

山腹が大きくえぐれているのがお分かりだと思いますが、これが “宝永火口” です。
江戸中期の宝永４年（１７０７年）に起きた宝永大噴火によってできた火口です。

富士山がきれいに見える道の駅というと、すばしり以外に私が知る限り次のような場所があります。

- 道の駅なるさわ
- 道の駅朝霧高原
- 道の駅ふじおやま
- 道の駅富士川楽座
- 道の駅富士

これらの中で、私が一番見たい場所は静岡県の “道の駅朝霧高原” です。

この道の駅は標高が９００ｍの位置にあり、背後には遮るものが何もない牧草地帯である為、富士山の裾野まできれいに見えるのが最大の魅力です。

私は２回行きましたが、ご覧の写真のように雲に覆われて富士山の影も形も見えませんでした。
ここだけは３度目のリベンジをして、いつか必ず “富士山の絶景写真” を撮りたいと思っています。

㉑川場田園プラザ（群馬県）

関東エリアで次に紹介するのは、道の駅の敷地自体が絶景といえる

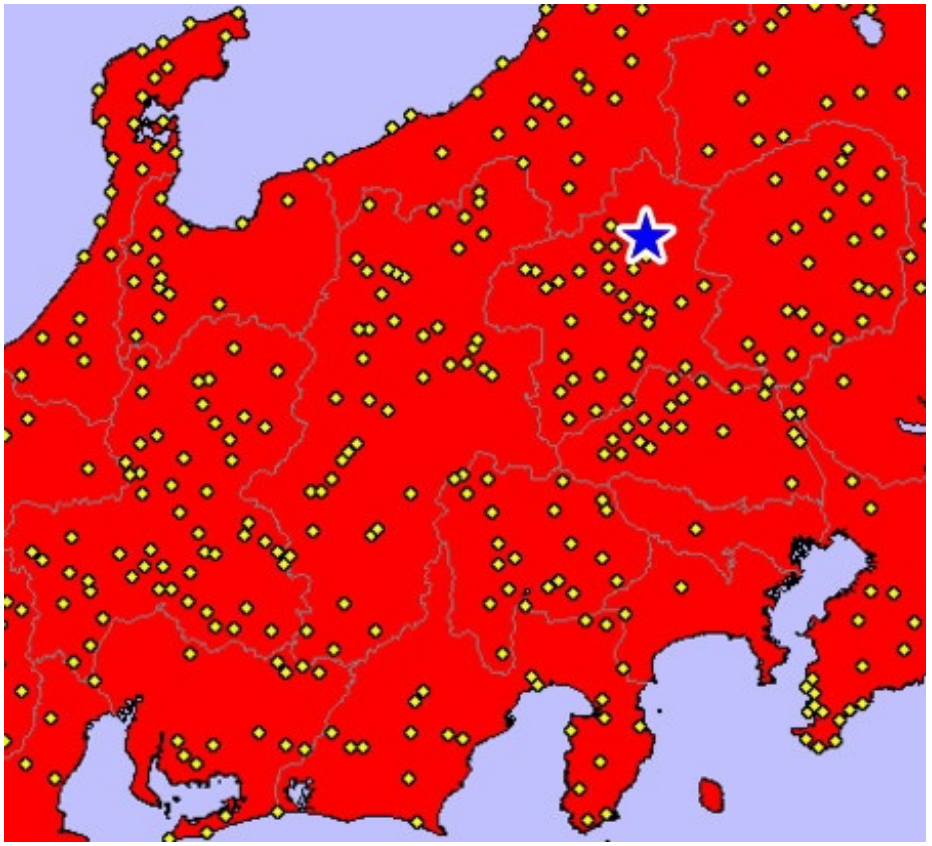
道の駅川場田園プラザ　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

群馬県利根郡川場村



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

日本庭園、関東人気ナンバーワン道の駅

■この道の駅の魅力について

この道の駅がある“群馬県川場村”は、人口が３３００人程です。（２０１７年１２月現在）

私がこの道の駅に行ったのは２０１４年５月ですが、その時のブログ記事には、「年間１２０万人を集客！」というタイトルをつけました。
それが今は、「人口３千人程の村に年間“１８０万人”が訪れる」ほど、更に飛躍しています。

「関東・甲信越地方の訪れたい"道の駅"」 で５年連続の一位となり、“ガイアの夜明け” を始めとするいくつものテレビに取り上げられるほど、道の駅による地域活性化に成功した事例になっています。

私は昨年、フジテレビの番組でご一緒させて頂いた関係で、この道の駅の永井社長にお会いする機会がありましたが、やはり、全国からたくさんの視察がやってくるのだそうです。
お客様目線、農業生産者の目線でさまざまな新しい施策に取り組んでおられるのが、これだけの成功に繋がって

いるのだろうと思います。

この道の駅を 「絶景」 として取り上げた理由は、まるで広大な日本庭園のような、その敷地全体の美しさがあるからです。

道の駅は約６ｈａもの広大な土地に、店舗、レストラン、ビール工房、ピザ工房など２０以上の施設が点在しています。

これらの建物の立ち並ぶその全体が、まるで公園であり、和風庭園なのです。

道の駅には、オリジナル工作の体験工房や、一日体験陶芸工房もあり、季節によってはブルーベリー園での無料摘み取り体験もあります。
また 「ホテル田園プラザ」 という宿泊施設も併設されています。

ビール工房の前の池には、白鳥も棲みついています。
これらの景色、一日中いても飽きないと思います。

㉒うつのみやろまんちっく村（栃木県）

本日は前回と同様、道の駅自体が絶景といえる

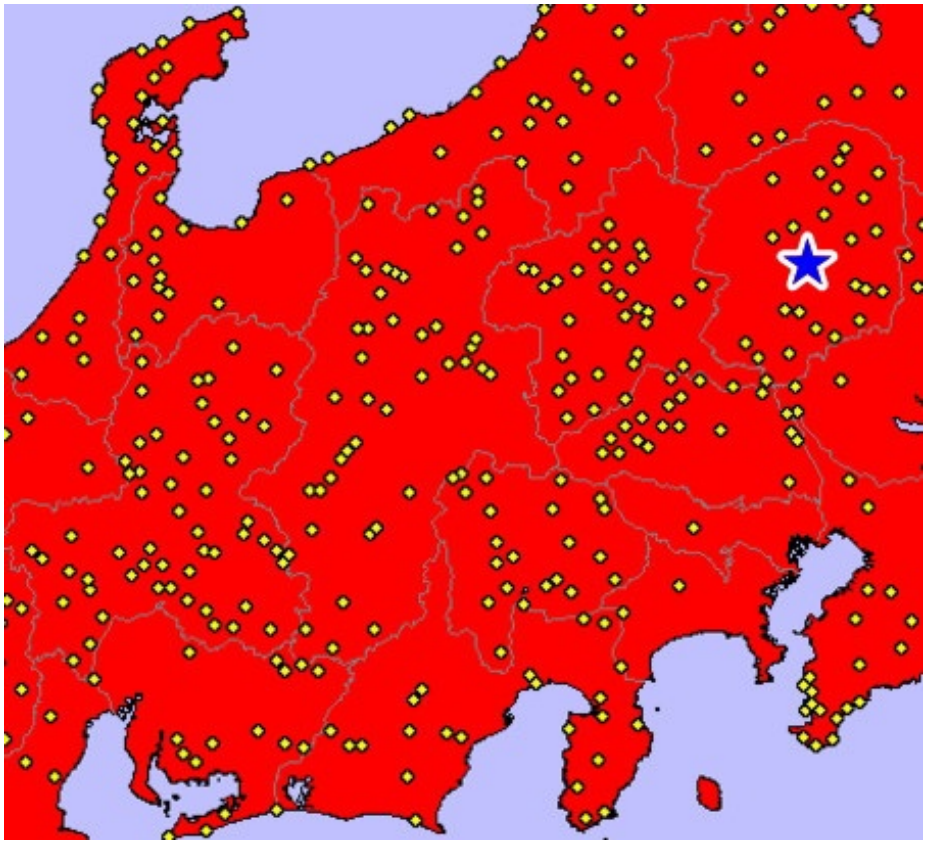
道の駅うつのみやろまんちっく村　をご紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

栃木県宇都宮市



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

滞在体験型、東京ドーム10個分の広さ、森のエリア、里山風景

■この道の駅の魅力について

ここはとにかく広いのが最大の特徴のひとつで、全敷地が４６ｈａあります。

東京ドームの面積が４．７ｈａですから、よく“東京ドーム１０個分の広さ”といわれます。

この道の駅は “滞在体験型” の道の駅です。

ちょっと立ち寄っただけでは、道の駅全部の魅力を満喫するのは難しいだろうと思います。
ですから、ここには立派な宿泊施設や温泉施設が併設されています。

ご覧の建物が、「ヴィラ・デ・アグリ」という温泉宿泊棟で、南欧風の赤い屋根が特徴です。

ここには１０室の客室と団体専用室があり、天然温泉・露天風呂の「湯処あぐり」、それに２５ｍ室内変形プールを備えた、プール温浴ゾーン「アグリスパ」があります。

こちらのガラス張りの建物は、多目的体験ドーム「ローズハット」　です。

ここには熱帯温室や屋内遊具施設、ホールなどを備え、いろんなイベントが開催されます。

全体で４６ｈａという広大な敷地のこの道の駅は、

・集落のエリア
・森のエリア
・里のエリア

という、３つにエリアが分けられています。

今回のテーマは “絶景道の駅” ですが、ここを選んだ理由は、道の駅の中がまさに絶景だからです。

まずは “集落のエリア” です。

ここには先ほどの宿泊、温泉施設があるほか、買い物、食事、多目的体験など最も賑わう場所です。
食事するお店はいくつもありますが、例えば地ビールを醸造する工場を併設した “麦の楽園” といったレストランもあります。

次は “森のエリア” で、森全体の広さは “１０ｈａ” です。

この地図の下部にある “みのりの森” だけで周囲は１ｋｍあって、散策には２０分ほどかかります。
春には “カタクリ” の花が咲き、５月には “タケノコ掘り” が体験できます。

森の中に “つるの家” というのがありますが、ここには宇都宮市と姉妹都市である中国のチチハル市から贈られた “丹頂鶴” が飼育されています。

この２枚の写真はまだ集落のエリアなのですが、噴水の向こう側の入口から森のエリアに入ります。
入口を入っただけで、雰囲気はがらりと変わります。

散策路はいくつもありますが、交差点ごとに案内板があるので迷うことはありません。
宇都宮市という都会とは思えないくらい、癒される里山風景でした。

最後の “里のエリア” には、体験農場や広大な芝生公園、広大なドッグランがあります。
自社生産の農場やイチゴハウスもあり、ここで収穫された農産物は園内のレストランなどで提供されています。

ここもまた、関東地方で成功した道の駅のひとつだと思います。

㉓奥飛騨温泉郷上宝（岐阜県）

今回から中部エリアになりますが

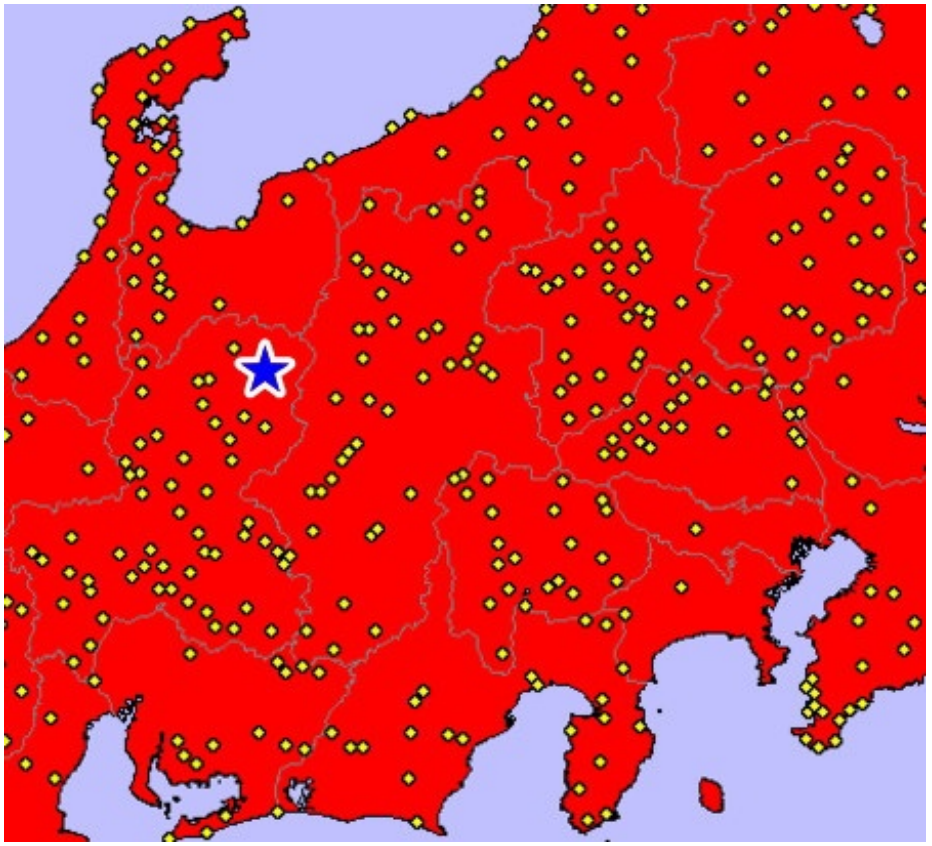
道の駅奥飛騨温泉郷 上宝　が最初に紹介する場所です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　奥飛騨温泉、焼岳、オートキャンプ場、アウトドア、新穂高ロープウェイ、北アルプスの絶景

■この道の駅の魅力について

“奥飛騨温泉郷” は、この地域に点在する 「新穂高温泉」 「栃尾温泉」 「福地温泉」 「平湯温泉」 「新平湯温泉」 という、５か所の温泉の総称です。

道の駅は飛騨山脈の山々に囲まれ、高原川の上流部に隣接した美しい大自然の中にあります。

道の駅
奥飛騨温泉郷
Okuhida Onsengo
上宝
Kamitakara

この写真の奥に見える白い雪が残った峰は北アルプスの “焼岳” です。
焼岳の裏側は、上高地の大正池付近ということになりますね。

この道の駅の大きな特徴の一つは、本格的な “オートキャンプ場” を備えていることです。

このオートキャンプ場は、マニアの方には全国的に有名で、キャンパー専用の男女別の “大露天風呂”と子供用の “露天風呂プール” があるのだそうです。
奥飛騨温泉郷は露天風呂率が９０％以上と圧倒的に高く、“露天風呂の里” とも言われていますが、このようなキャンプ場でさえ本格的な露天風呂を備えているのです。

このように、ここは道の駅周辺がアウトドアのメッカであり、絶景に囲まれていますが、ちょっとだけ足を延ばすと更に素晴らしい絶景に出会うことができます。

それが、“新穂高ロープウェイ” です。

道の駅から車で１５分ほどの “新穂高温泉” に新穂高ロープウェイの乗り場があります。
ここは先ほど触れた、奥飛騨温泉郷の５つの温泉の一つで、標高は既に１１１７ｍあります。

ここから途中の “しらかば平駅” で乗り継いで標高２１５６ｍの “西穂高口駅” 、すなわち、北アルプスの玄関口まで一気に上がって行くことができるのです。

この写真は中間地点の “しらかば平駅” の付近です。

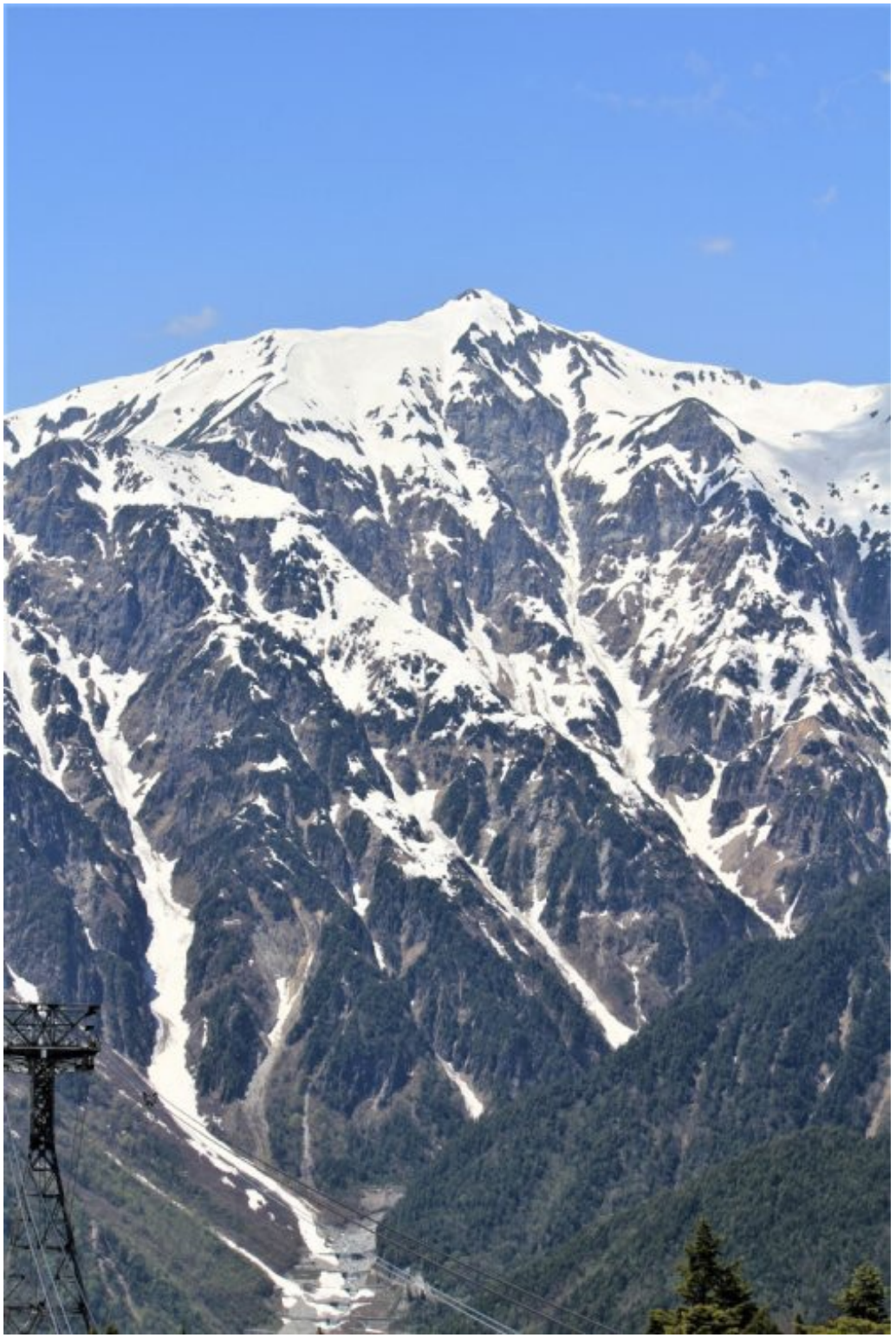
新穂高温泉駅からここまでの第１ロープウェイは、高低差１８８ｍ、全長５７３ｍ、日本有数の急勾配をわずか４分で上ってきます。
しらかば平駅も非常に美しい景色であり、周辺を巡る散策路が整備されています。

ちなみに、ここにも “神宝乃湯” という、かけ流し天然温泉露天風呂があります。

ここから更に第２ロープウェイに乗り換え、西穂高口駅を目指します。
第２ロープウェイは日本唯一の２階建てで、一度に１２１人もの人を乗せることができます。

高低差８４５ｍ、全長２５９８ｍの距離を７分で到着です。
このロープウェイの中からの眺めも正に絶景です。

西穂高口駅は標高が２１５６ｍあり、屋上に展望台があります。
この展望台、なんと「ミシュランガイド」 二つ星の評価を得た大パノラマを満喫できるのです。



周囲３６０度、正に雲上の世界、絶景の宝庫です。
道の駅奥飛騨温泉郷上宝に行かれた際は、是非ここまで足を延ばされることをお勧めします。

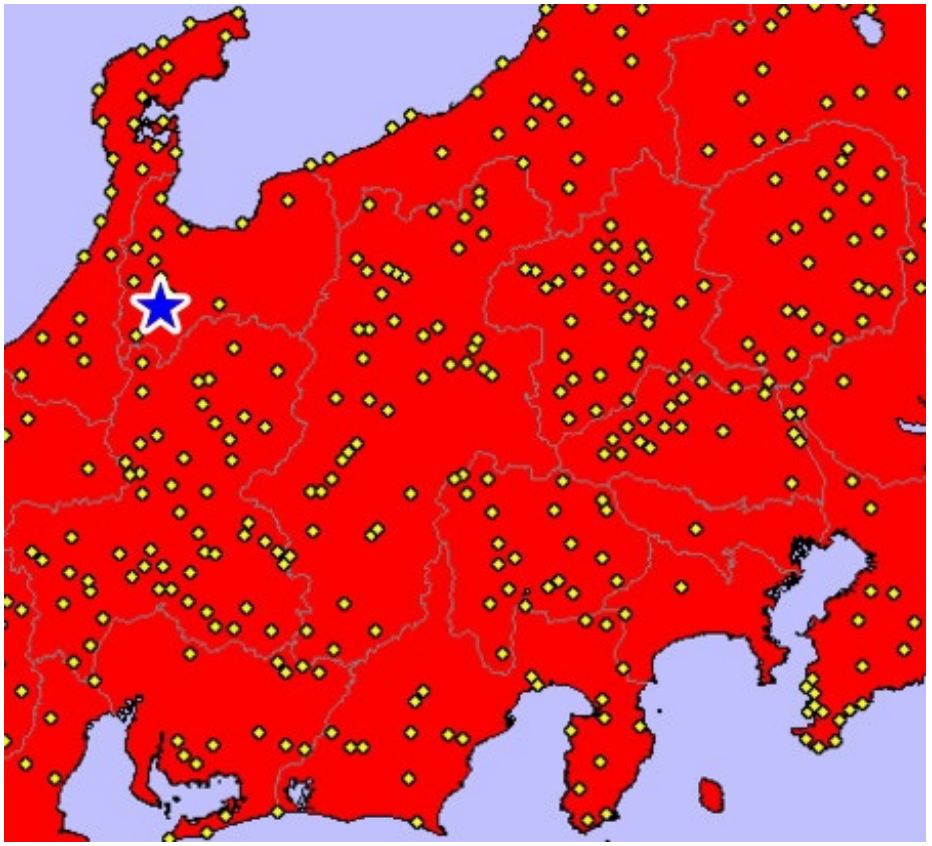
㉔たいら（富山県）

今回は富山県にある

道の駅たいら　を取り上げます。

■所在地＆ＭＡＰ

富山県南砺市



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　山里風景、和紙の里、伝統工芸、五箇山、菅沼合掌造り集落、相倉合掌造り集落、世界文化遺産

■この道の駅の魅力について

ここを絶景道の駅に選んだ理由は、世界文化遺産である“五箇山集落”に近いからです。

でも、この道の駅自体もやはり美しい景色の中にあるのです。

ここは富山の市街地から５０ｋｍほど離れた山間部にあります。
私が訪れたこの時は、激しく降っていた雨がちょうど上がったばかりでした。

雨上がりの山里というのは、樹々の緑が映えて幻想的な美しさがあるものです。
この２枚の写真はいずれも道の駅から撮ったものですが、この風景、私はとっても気に入っています。

これが道の駅の建物ですが、これは一部であって別に土産コーナーや食事処もあります。

道の駅には “和紙の里” というもう一つの名前がついています。
五箇山の和紙は 「越中和紙」 と呼ばれ、１２００年の歴史のある “国の伝統工芸品” です。

道の駅ではそれらの和紙を使った工芸品の展示、販売を行っています。

平安時代には正倉院宝物として朝廷に献上されたほどの高い品質を誇る越中和紙は、現代風にアレンジされて、魅力的な作品に生まれ変わっていました。

そして “絶景” といえば、ここからほど近い “五箇山合掌造り集落” です。

１９９５年１２月にユネスコの世界文化遺産に登録されたのは、 「白川郷・五箇山の合掌造り集落」 というのが正式な名称です。
この構成要素としては、岐阜県白川郷の 「萩町集落」 富山県五箇山の 「相倉集落」 と 「菅沼集落」 の３つの合掌造り集落です。

道の駅たいら からは、相倉集落までが１０分強、菅沼集落までは約１５分で行けます。
私は白川郷方面への道沿いにある “菅沼合掌集落” に立ち寄りましたので、そこを紹介します。

菅沼集落の場合は、国道１５６号そばに専用の駐車場があり、そこで保存協力金５００円を払います。
案内のリーフレットを貰えるので、それ参考に歩きます。

田んぼに水の張った田植えの時期であれば、水面に合掌造りの建物が写って更に綺麗なのではないかと想像します。

菅沼集落には９棟の合掌造りが現存し、その最も古いのは４００年前に建てられたそうです。
それ以外でも、１００年から２００年は経っています。

合掌造りの屋根は、その傾斜が６０度あり、断面が正三角形に近いので雪が滑りやすいのです。
そして合掌造りの組み立てには一切釘を使わず、縄とネソと呼ばれるマンサクの木で固定します。

集落にはこのようなお土産屋さんがあり、地域のおばあさん達が手作りで作った民芸品を売っています。
私もここで買った、カエルの民芸品を今でも自宅リビングに飾っています。

この黄色のカエルは金運を呼ぶのだそうで・・・！
そういえば、ご利益があったような！（笑）

㉕白川郷（岐阜県）

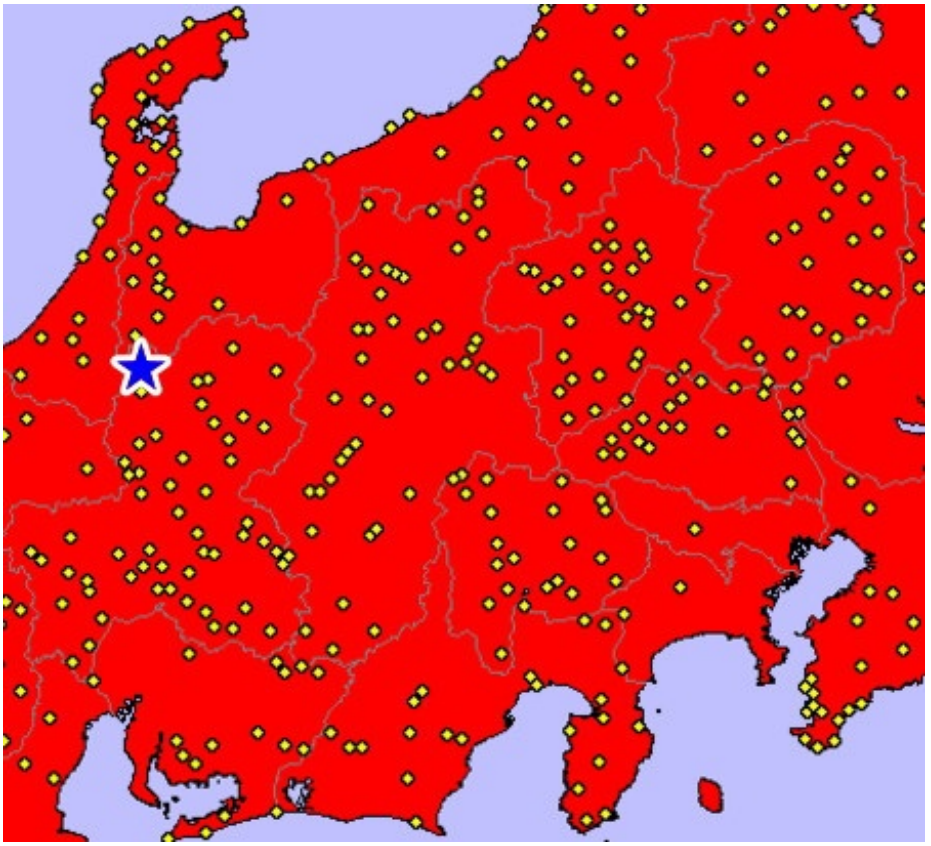
前回が五箇山の合掌造り集落を紹介したので、次はやはり

道の駅白川郷　の写真もご覧頂くことにしましょう。

」

■所在地＆ＭＡＰ

岐阜県大野郡白川村


」

■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

世界文化遺産、萩町集落、合掌造り、山里風景

■この道の駅の魅力について

前回の記事でも触れたように、ユネスコの世界文化遺産に登録された「白川郷・五箇山の合掌造り集落」というのは、五箇山の「相倉集落」「菅沼集落」、それに白川郷の「萩町集落」で構成されます。

前回紹介した菅沼集落からここ白川郷までは、約２０ｋｍほどの距離です。
五箇山が富山県だったのに対し、白川郷は岐阜県です。

そして勿論、ここにも道の駅があります。

」

」

この道の駅は、ご覧のように合掌造りをモチーフにした建物です。

この裏手に本物の合掌造り家屋を移設した “合掌ミュージアム” があり、建築の過程を分かり易く展示、解説されています。

そして、“萩町集落”　いわゆる “白川郷合掌造り集落” は道の駅から２～３ｋｍのところにあります。

」

」

ここには路線バスのバス停があるし、観光バスも頻繁に来るので駐車場も広いです。
集落の中を “庄川” が流れており、駐車場に停めた後、橋を渡って対岸がメインの街並みです。

」

白川郷の集落には、全部で１１３戸の合掌造りの建物があります。
その中には、民宿などの宿泊施設や食事処、それに土産物屋などが何軒もあり、やや観光地化しているように思えました。

」

」

五箇山に較べると、こちらの方が観光客の数もずっと多いような気がします。

どちらが良いと一概には言えませんが、個人的にはより素朴で古い佇まいのままであった、五箇山の集落の方が風情があるように思えました。

」

五箇山もそうでしたが、周囲の山々に実にマッチしたまさに日本の原風景だと思います。
そしてこんな建物もありました。

」

お寺の建物だと思いますが、実にユニークな形をしています。

これが村で一番大きな合掌造りである “明善寺庫裡” で、高さが１５ｍ、建物面積１００坪あります。
築２７０年以上なのだそうです。

よく、白川郷の観光案内などに、高い位置から集落全体を写した写真が掲載されています。
これは中世の山城である “萩町城跡展望台” あるいは “天守閣展望台” から写したもので、シャトルバスが運行しているのだそうです。

当時は知らなかったので、上からの写真を撮れなかったのが心残りです。

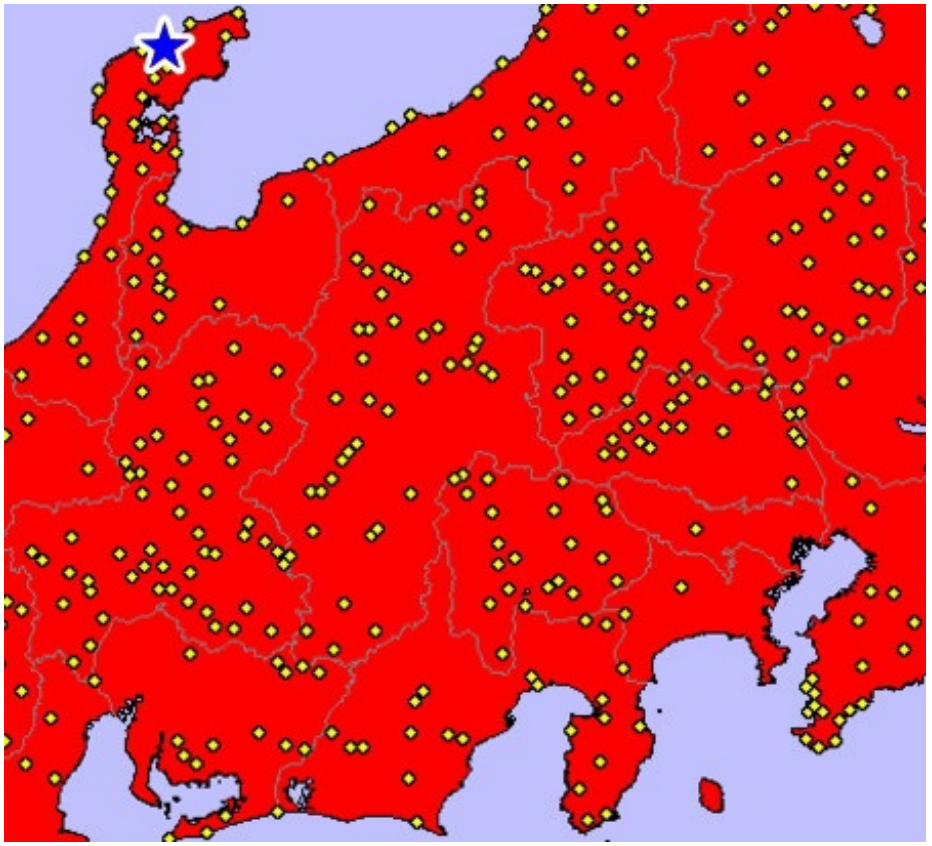
㉖千枚田ポケットパーク（石川県）

今回は石川県の能登半島から

道の駅千枚田ポケットパーク　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

石川県輪島市白米町



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

☆Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

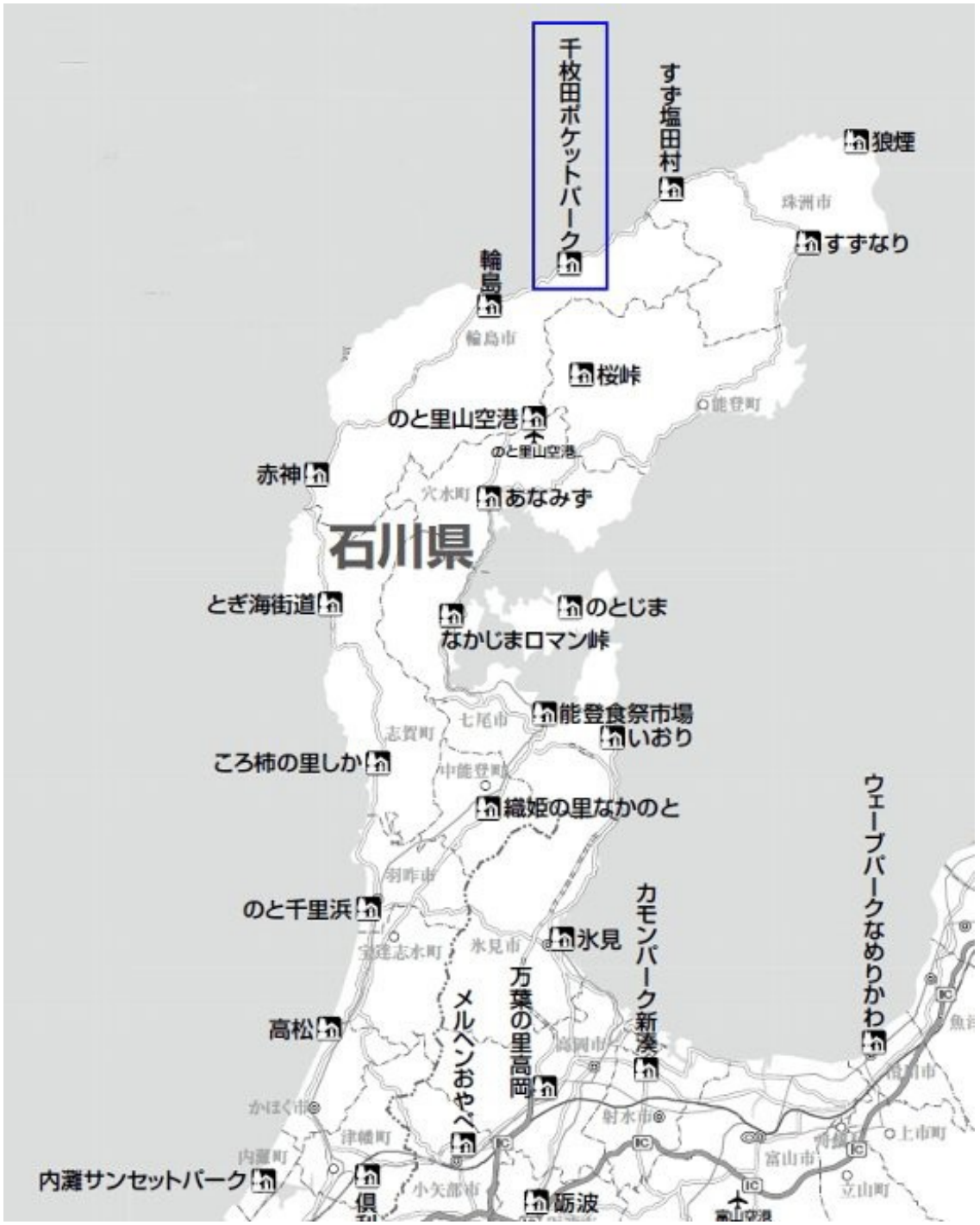
Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

白米の千枚田、棚田百選、能登半島、日本海、あぜのきらめき（イルミネーション）

■この道の駅の魅力について

能登半島は道の駅が多い地域、という印象が私にはあります。



ご覧のようにたくさんの道の駅があり、それぞれ個性的で印象深いところが多いのですが、今回は半島の先端に近い、“千枚田ポケットパーク” を取り上げました。

この道の駅、正直言って道の駅自体はあんまりぱっとしません！(;^_^A　ｼﾂﾚｲ！

私が２０１１年に行った時は、この建物ひとつだけでした。

でも、その後２０１３年にリニューアルして、展望デッキや軽食を食べられるレストハウスが設置されたとの情報がありますから、もっと立派に生まれ変わっているのかもしれません。

この建物の周辺は、ちょっとした公園になっており、日本海を見下ろす高台にあります。

ここからの日本海の眺めのなかなかのものなのですが、ここを “絶景道の駅” としたのは、ここから見下ろす、“白米の千枚田” の眺望です。

「白米千枚田（しろよねせんまいだ）」 は、“日本の棚田百選” に選ばれているほか、“国指定の名勝” であり、また “世界農業遺産” のひとつでもあります。

この棚田の最大の特徴は “千枚田” という名前のとおり数の多さであり、実際には１００４枚あります。
逆にいうと一枚当たりの面積が狭く、最も小さな田の面積はわずか０．２平方メートルです。

ご覧の写真で、それぞれの田が随分小さいのがお分かりかと思います。
この写真は６月なのですが、拡大するとそれぞれの田に稲が育っているのが見えます。

日本海に落ち込む高洲山山麓の急斜面に築かれており、これを作った昔の人々に頭が下がります。

それぞれの田んぼが狭いので農業機械が使えず、すべて手作業になりますが、ここもやはり農業就業者の高齢化

、後継者不足といった悩みがあります。

そこで “白米千枚田オーナー・トラスト制度” といって、年間２万円でマイ田んぼ１枚のオーナーになれる仕組みを立ち上げました。
オーナーには、そこで収穫されたコシヒカリや、地元山菜などを頂ける特典があります。

農作業もオーナーをはじめ多くのボランティアの協力で行っているそうです。

この写真はＨＰからお借りしたものですが、毎年１０月中旬から翌年３月中旬まで、「あぜのきらめき」 と称した、イルミネーションイベントが行われます。

イルミネーションは色が変わるＬＥＤを２万１千個を使い、３０分ごとに切り替わるのだそうです。
この幻想的な風景、実物を見てみたいものです。

この写真は、道の駅の小さな小屋で地元のおばあさんが手作りの民芸品を売っていたものです。
その素朴さに魅かれて買って帰り、今も自宅に飾っています。

更にこの付近、日本海の荒波で作られた奇岩が多く見られます。
この道の駅から１０分ほど離れた場所にあるのが次の写真です。

三角に尖った岩の真ん中に窓のように穴が開いています。
これは、“窓岩” といい、この場所は “窓岩ポケットパーク” です。

このように、能登半島のこの周辺には “ポケットパーク” と名付けた観光スポットがたくさんあります。
道の駅の名前、“千枚田ポケットパーク” も、その一つということです。

㉗南アルプスむら長谷（長野県）

今回は道の駅自体がきれいな風景の中にある

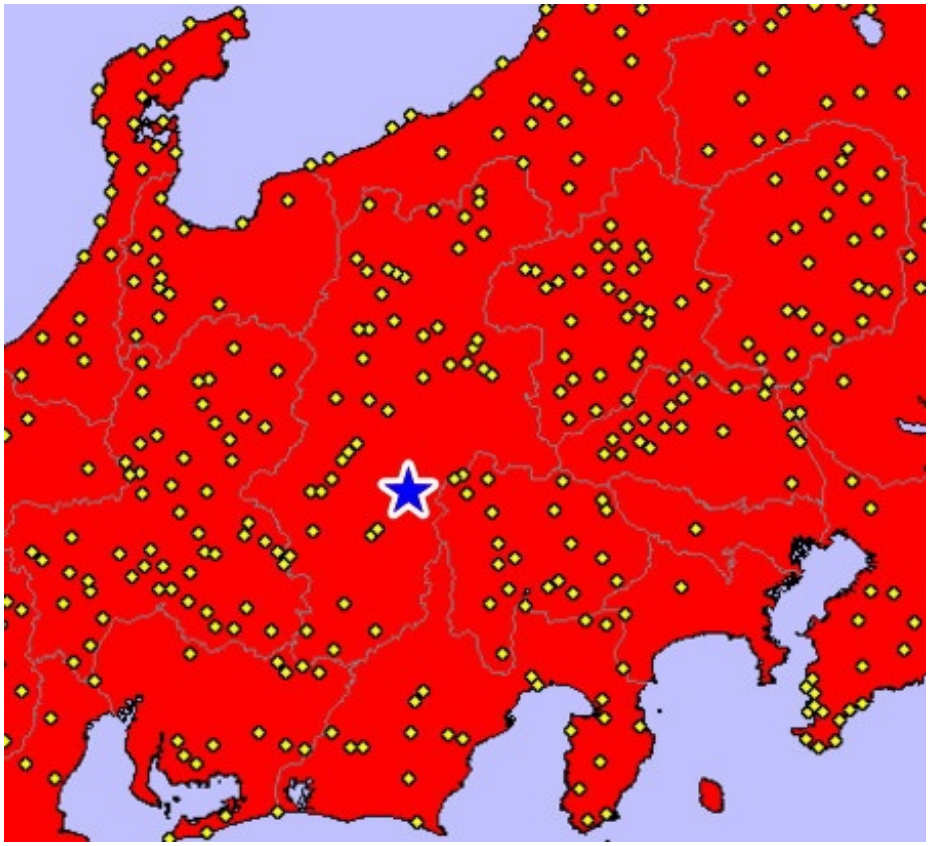
道の駅南アルプスむら長谷　をご案内します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

長野県伊那市長谷



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

南アルプス山麓の村、自然の中でくつろぐ、山里、芝生広場、

■この道の駅の魅力について

“南アルプスむら” という名前の通り、ここは南アルプスの玄関口にあたる場所にあります。
南アルプス自体はこの道の駅からは見えないのですが、周囲の環境の美しさからここを 「絶景道の駅」 の一つに選びました。

南アルプス山脈の稜線にほぼ沿って県境があり、西側が長野県、東側が山梨県です。

“南アルプス市” という地名がありますが、これは東側の山梨県であり、この道の駅は南アルプスの西側に位置する “長野県伊那市長谷（はせ）” にあります。
南アルプスは正確には長野、山梨、静岡の３県にまたがっており、３０００ｍ級の山が１３峰、２５００ｍ以上の山は３６峰もあります。

ここ、旧長谷村は、南アルプスの開拓に大きく貢献した 「竹沢長衛」 が生まれ育った場所であり、現在も毎年７月には彼を偲んで 「長衛祭」 が開催されます。

私がこの道の駅を気に入った理由は、その環境の美しさです。

洒落た建物群が立ち並び、それに囲まれたように広い芝生広場があります。
その広場では椅子に腰を下ろし、家族でくつろぐ姿があります。

南アルプスの急峻な山々は直接見えないけど、なだらかな山に囲まれ、なぜかほっとするのです。

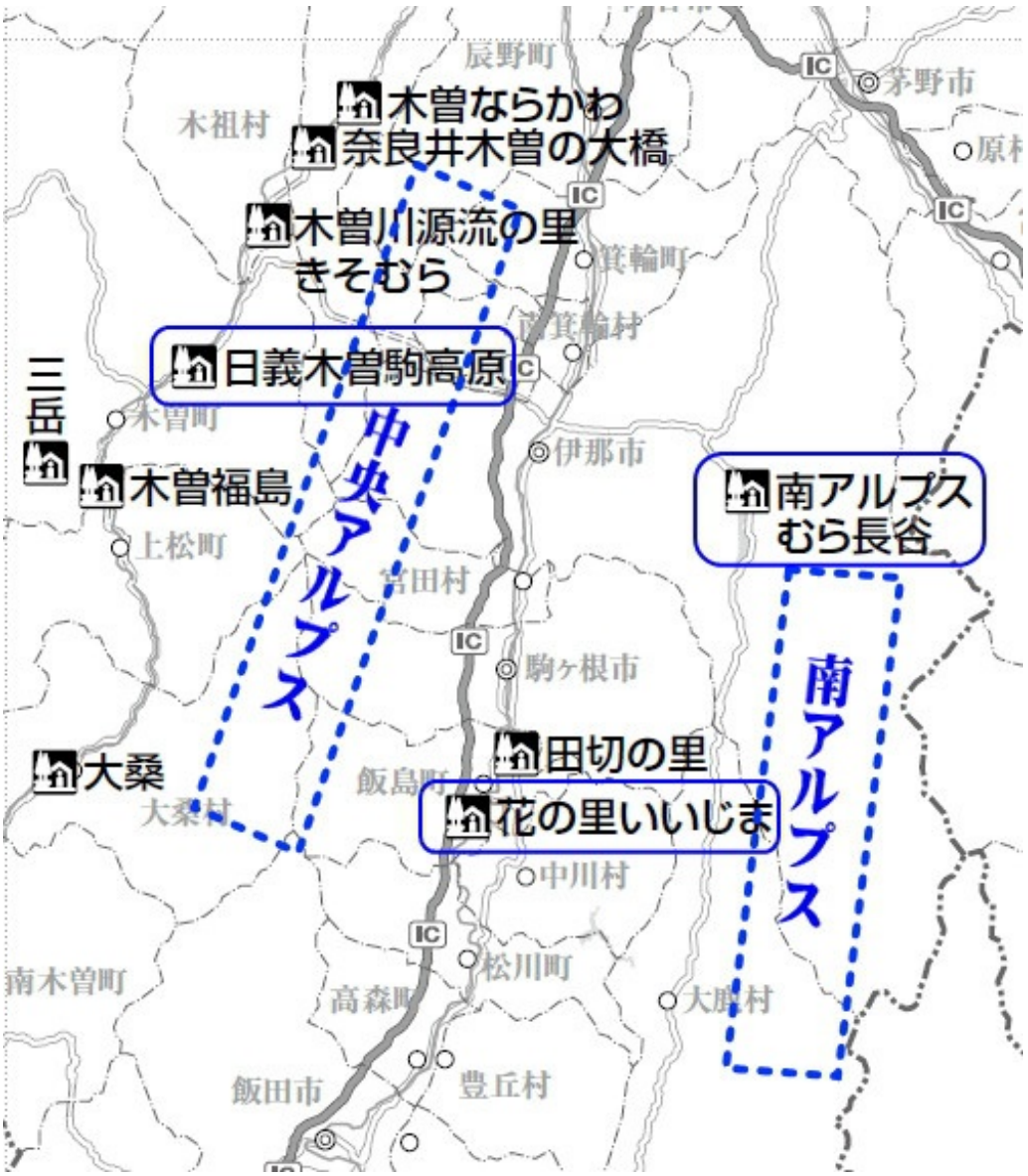
この看板にあるように、ここには土産店や直売所、レストランなどがありますが、特にパン屋さんが評判で、人気のミニクロワッサンはすぐに売り切れるのだそうです。

この道の駅は現在、小型無人機 「ドローン」 や車両自動運転の実証実験基地になっています。
伊那市では、ここをマウンテンバイクツアー基地として整備するなどで更に集客を増やすべく、昨年から２０２

１年度までの５か年計画で、１億１８００万円をかけて再整備する予定です。

私のお気に入りのこの道の駅、更に魅力を増すだろうと期待します。

ところで、ここからは直接南アルプスを見ることはできませんでしたが、南アルプスや中央アルプスが見える道の駅は他にあります。



ざっくりとした位置関係はこの地図のとおりですが、ここから近い “花の里いいじま” は、南アルプスと中央アルプスの両方を見れる道の駅として知られています。

あんまり鮮明な写真ではありませんが、道の駅の背後にあるのが中央アルプスです。

こちらが反対方角の “南アルプス” ですが、この日は曇っていて綺麗には見えませんでした。

もう一つ、中央アルプスが見える道の駅があり、これはその西側にある “日義 木曽駒高原” です。

この道の駅の背後に見えるのが、中央アルプスの “木曽駒ケ岳” です。
雪をかぶった山々が背後に見えるだけで、道の駅の魅力は大きくアップするものだと思います。

㉘伊良湖クリスタルポルト（愛知県）

今回は愛知県の渥美半島で

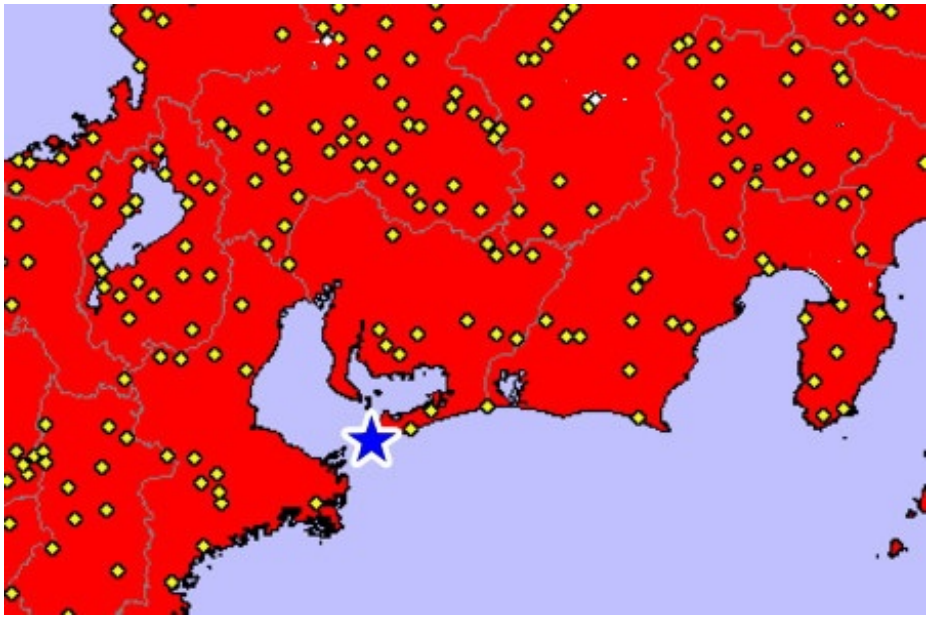
道の駅伊良湖クリスタルボルト　の紹介です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

愛知県田原市伊良湖町



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

フェリーターミナル、恋路が浜、菜の花畑、

■この道の駅の魅力について

愛知県は三河湾を挟んで、“知多半島” と “渥美半島” が両側からせり出しています。
今回紹介したいのは、その渥美半島先端にある道の駅です。

渥美半島には３つの道の駅があってどれも魅力的ですが、先端の “伊良湖クリスタルボルト” 付近は、絶景の宝庫なのです。

ここは渥美半島の先端にあることから、対岸の伊勢志摩などをつなぐ、フェリーが就航しています。
道の駅は、その “旅客フェリーターミナル” を兼ねているのです。

ターミナルの待合室からは、三重県鳥羽市や知多半島、そして三河湾に浮かぶ島々へのフェリーや高速艇を眺めることができます。

渥美半島の海の玄関口として乗り降りする旅客も多いことから、この道の駅は土産コーナーなどの商業施設やレストラン、食事処なども充実しています。

ここを絶景道の駅に選んだのは、ここに至るルート上の景色の素晴らしさです。

高台から見下ろしたこの景色、これは “恋路が浜” といって、太平洋に面して約１ｋｍも続く砂浜です。

「♪名も知らぬ　遠き島より流れよる　椰子の実ひとつ♪」という島崎藤村の詩の舞台でもあり、恋人たちのプロポーズにふさわしい場所として“恋人の聖地”にも認定されています。

先ほどの恋路が浜を見下ろした場所は、伊良湖に至る国道の“日出園地”というバス停付近に車を停め、歩道をちょっとだけ下りたところにあります。

ここにはご覧のように小さな公園があり、そこからの真下の海岸がまた絶景です。

正に、海鳥たちの楽園ですね！

更にもう一つ紹介したいのは、この渥美半島は “菜の花” の宝庫だということです。
半島を走るあいだ、桁違いのスケールで菜の花畑が延々と続きます。

私が訪れた３月の中旬には、ちょうど 「菜の花まつり」 が開催されていました。

トイレ

ここは “菜の花ガーデン” といって４ｈａの広さがあり、１２００万本の菜の花が咲き誇っています。
渥美半島全体なら、一体どのくらいの菜の花が咲いているのか想像もつきません。

温暖な気候に恵まれ、“常夏” といわれる渥美半島ならではの絶景だと思います。

㉙伊勢志摩（三重県）

前回の渥美半島からフェリーで志摩半島に渡ると

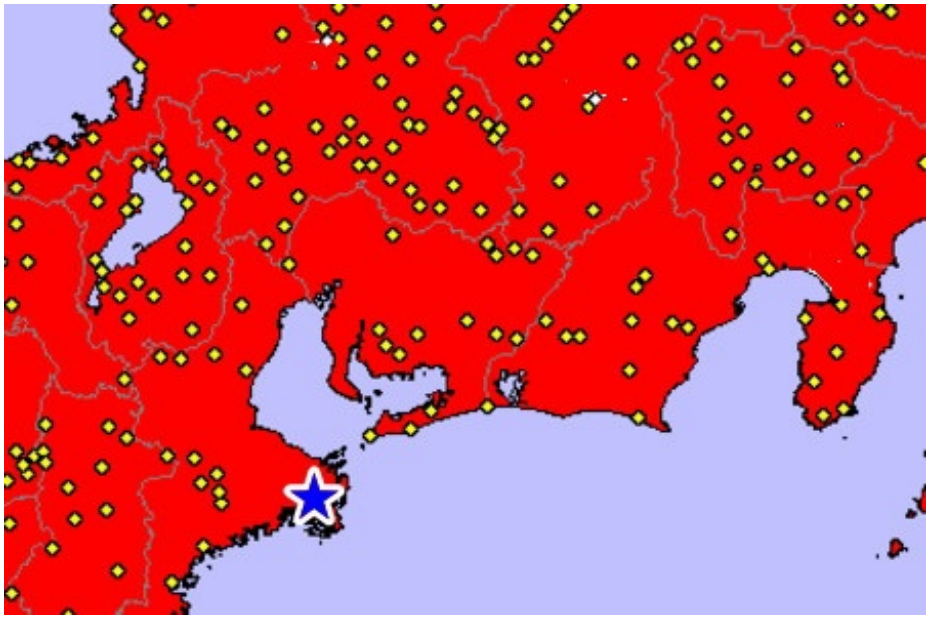
道の駅伊勢志摩　があります。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

三重県志摩市



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

伊勢志摩国立公園、パールロード奥伊勢ライン、的矢湾、的矢湾大橋、リアス式海岸

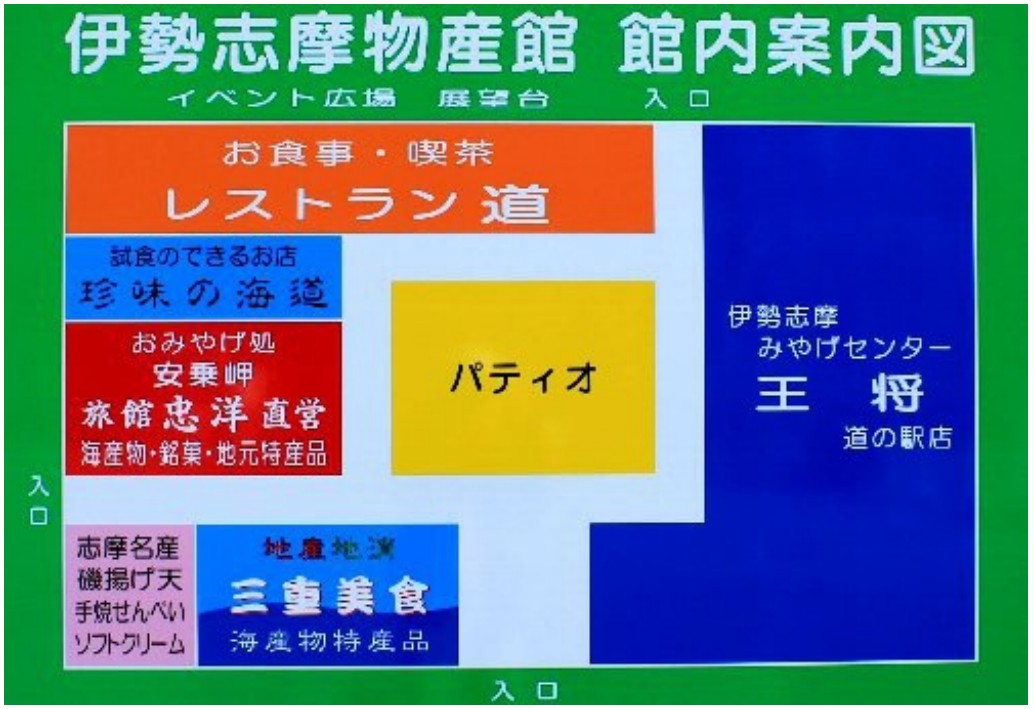
■この道の駅の魅力について

２０１６年５月２６日から２日間、「Ｇ７伊勢志摩サミット」が開かれたここ三重県志摩市は、英虞湾を始めとする絶景の宝庫と言えます。

周辺の観光地図をお借りしました。
英虞湾に面した『賢島』が伊勢志摩サミットの開催された場所です。

道の駅伊勢志摩は、それらの観光の中心となる海岸線からは少しだけ離れていますが、高台の見晴らしの良い場所に建っています。

道の駅はご覧の二つの建物から構成されます。
この道の駅の特徴としては、やはり水産物です。



ご覧のようにいくつかのテナントのお店が入っていますが、特に「伊勢志摩みやげセンター」には様々な水産物やその加工品が並んでいます。

さて、本題である伊勢志摩の絶景ですが、私が宿泊したホテルからの眺めをご紹介します。
これは、道の駅から車で15分ほどの距離にあります。

ご覧の写真が、宿泊した“伊勢志摩ロイヤルホテル”の部屋から見下ろした景色です。

走っている道路は通称 “パールロード奥志摩ライン” といいます。
架かっている橋は、“的矢湾大橋” です。

更に左奥に見えている建物群が、“志摩スペイン村” です。

アトラクションなどがちょっとだけ見えますね！

これが “的矢湾” ですが、ご覧のように入江が複雑に入り組んだリアス式の地形になっています。

志摩半島自体は陸地が長い年月で沈降し、その河や谷だったところに海水が入り込んで複雑な海岸線を作り出しました。
でも、この的矢湾や英虞湾は 『隆起海蝕台地』 といって、同じリアス式海岸ではあってもその形成された経緯は、沈降と隆起という全く逆の現象なのだそうです。

的矢湾大橋の右手奥は “伊雑ノ浦” という湖です。

“伊勢志摩国立公園” は、昭和２１年に戦後初の国立公園として指定されました。
これ以外にも “英虞湾” を始めとする美しい景観がたくさんあります。

いずれもう一度行った時には、じっくり見て回ってもっと多くの写真を撮ってきたいと思っています。

㉚くしもと橋杭岩（和歌山県）

今回より近畿エリアに入って

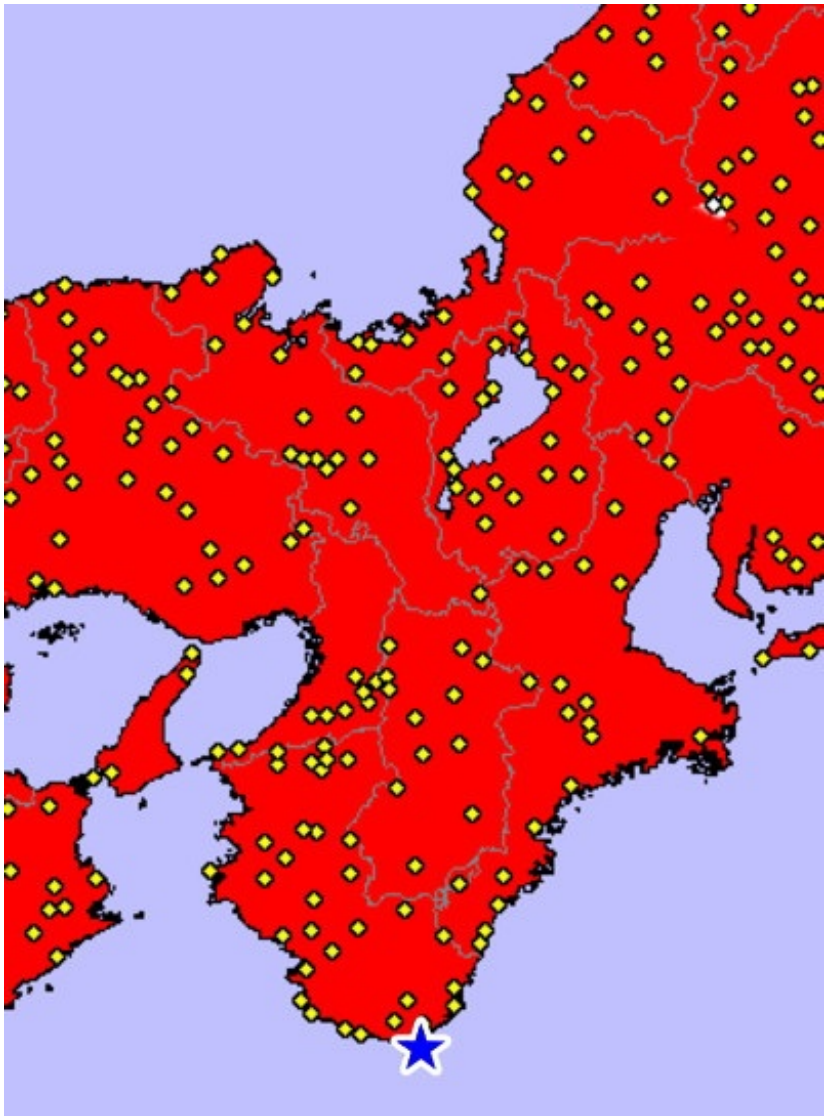
道の駅くしもと橋杭岩　を紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

和歌山県東牟婁郡串本町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

橋杭岩、奇岩・怪石、国の名勝・天然記念物、本州最南端、吉野熊野国立公園

■この道の駅の魅力について

ここ“和歌山県串本町”は、本州最南端の町です。
黒潮の影響で年間の平均気温が１７℃と暖かく、全国有数の漁業の町でもあります。

“潮岬”が有名ですが、もう一つのスポットとして、この“橋杭岩（はしぐいいわ）”があります。

これが道の駅の建物ですが、目指す “橋杭岩” は、その目の前です。

『和歌山県朝日夕陽百選』 というモニュメントが建っています。
それだけでなく、『国の名勝・天然記念物』 でもあるのです。

道の駅自体の紹介は省きますが、まずはその橋杭岩をご覧頂きたいと思います。

ご覧のように、海側に向かって約８５０ｍの距離に大小４０余りの岩柱がほぼ一直線に並んでいます。
ちょうど橋桁を並べたように見えるので、この名前がついています。

そのむかし、弘法大師と天の邪鬼が賭けをして、一夜で作り上げたという伝説が残っています。

でも実際には、地中から上昇したマグマが泥岩層に混ざりこみ、その柔らかい部分が波によって浸食され、岩の

固い部分だけが残ってできたものです。

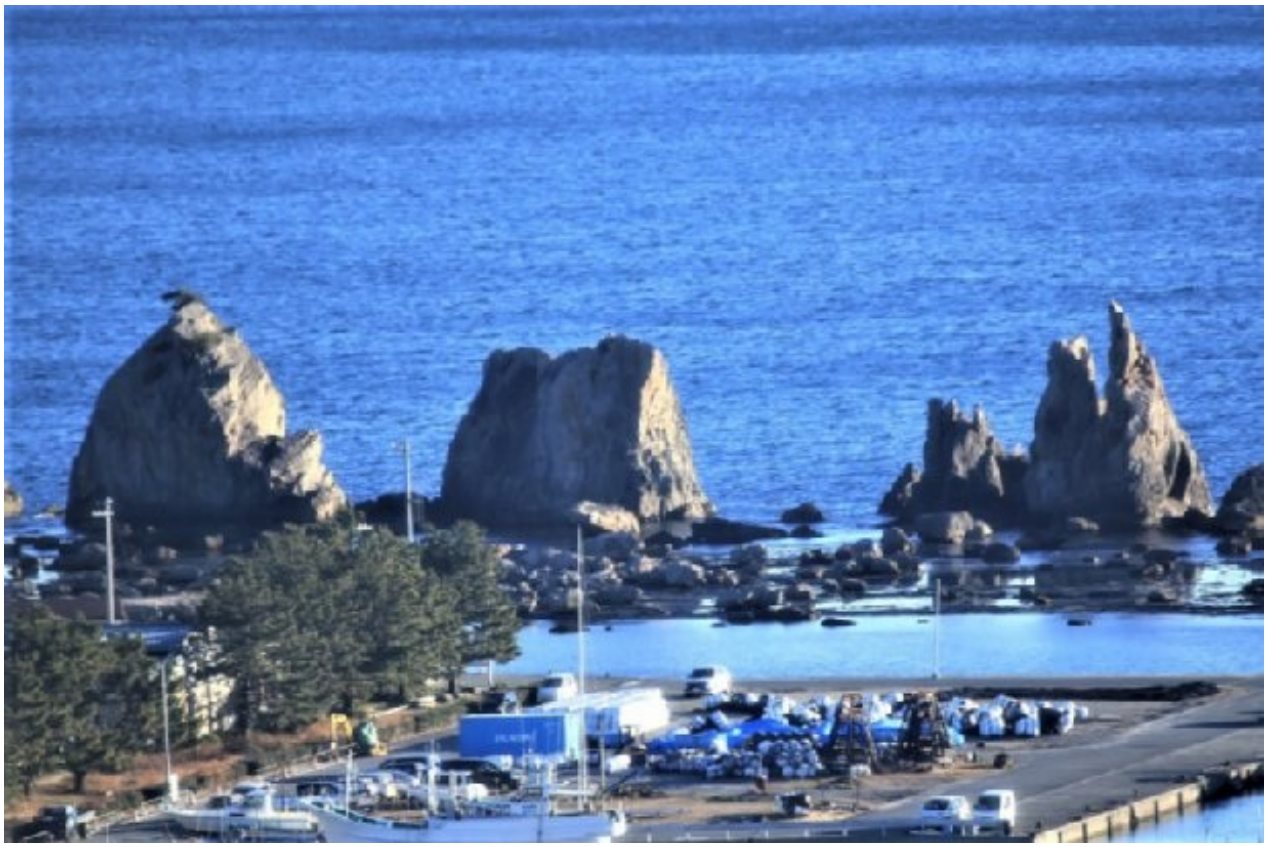
ここは、ご覧のようにそばまで歩いて行けますから、なかなかの迫力です。
周辺に散在している岩は、橋杭岩の壊れた破片なのだそうです。

この時間、夕方でしたので夕陽があたってなかなか綺麗です。

さて、この日はこの串本町の高台にある “串本ロイヤルホテル” に宿泊しました。
到着した時には夜なので気が付かなかったのですが、翌朝目覚めると、窓から直接この橋杭岩を見下ろすことができました。

これはまだ夜明け前で、空が次第に赤みを帯びてきました。
シルエットになった橋杭岩は、昨日とはまた別の美しさがあります。

そして正面に見える島から、太陽が顔を出しました。
すると、橋杭岩に朝日が当たり、また別の表情を見せてくれます。



前日の夕陽と、今朝の朝日の両方を楽しむことができ、とてもラッキーだったと思います。

㉛しんあさひ風車村（滋賀県）

今回の道の駅は琵琶湖の湖畔にある

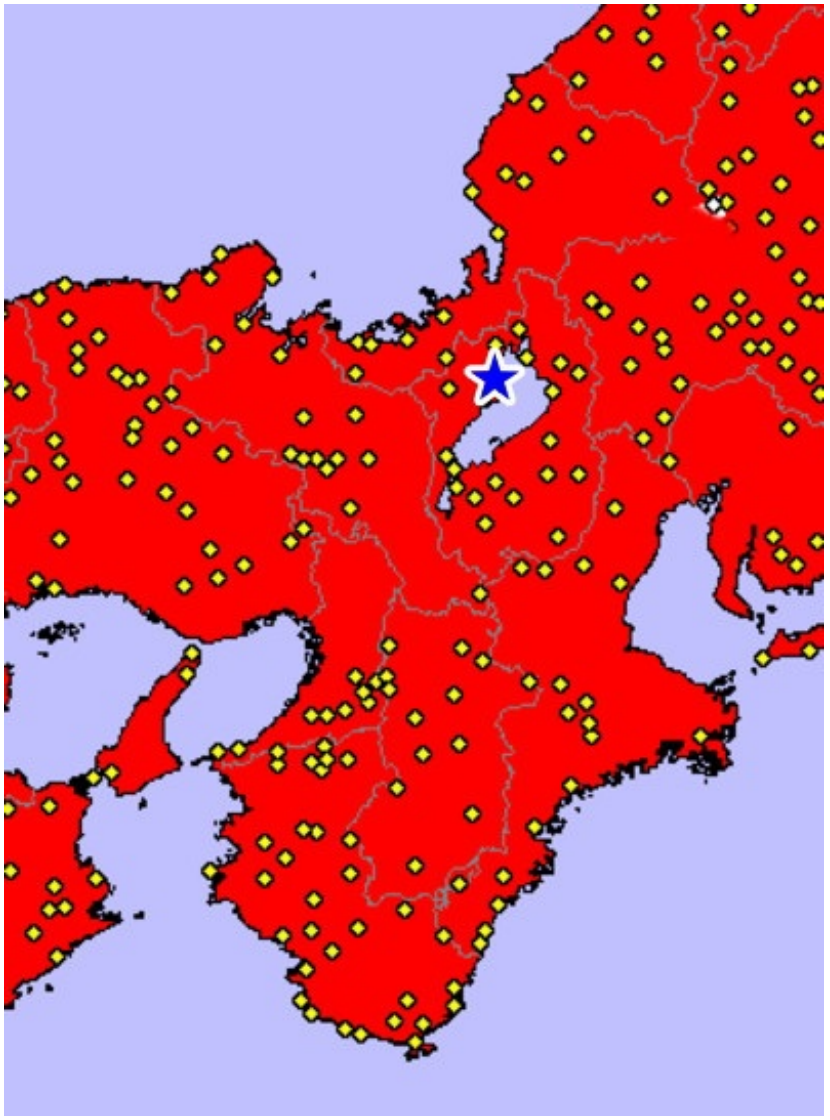
道の駅しんあさひ風車村　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

滋賀県高島市新旭町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

オランダ風車、ジャンボ風車、オランダの田園風景、アイリスハウス、農家レストラン

■この道の駅の魅力について

実はこの道の駅、老朽化等の理由により、現在リニューアルの為に閉鎖されています。
今年（２０１８年）７月に、滞在型宿泊施設（グランピア施設）として生まれ変わる予定です。

リニューアルオープンしたら早速行ってレポートしたいと思っていますが、それ以前もその景色の美しさで強い印象が残っているので今回紹介するものです。

琵琶湖の周辺にはご覧のようにたくさんの道の駅があります。

それぞれに魅力的な駅が多いのですが、その中でも特に、道の駅自体が素晴らしい環境の中にあったのが、ここ“しんあさひ風車村”です。

私が訪問したのは４月の下旬でしたから、ご覧のように見事なチューリップが咲いていました。
更に道の駅の建物が、おとぎの国のようにかわいいのです。

これらの建物をまとめて “アイリスハウス” と名付けられています。
一番左手の写真が “農家レストランアイリス” で、その右側にある三角屋根が “風車村の八百屋さん”という、物産館です。

今回のリニューアルでこれらの建物がどうなるのか気になりますが、あと何枚か建物の写真をご覧いただきましょう。

さて、この道の駅は “風車村” という名前がついていますが、ここには全部で３基の風車があります。
まず、その中も最も大きいのがこちらです。

これは “ジャンボ風車” といって、高さは１８ｍあります。

元々は、この横にある “菅沼” という池の水を浄化するための動力源だったのですが、老朽化の為にかなり以前から実際には機能していません。
でもその大きさとユニークな形から、道の駅のランドマークになっています。

これがその “菅沼” で、カモがのんびりと泳いでいます。
そしてあと二つの風車は、道の駅の裏手にあります。

ご覧のように道の駅の裏手には、とってもきれいな芝生公園が広がっています。
これは、オランダの田園風景を再現したものだそうです。

ここに２基のオランダ風車があり、水路には “跳ね橋” も架かっています。
この日は小雨がぱらつくあいにくのお天気でしたが、建物群や公園の美しさに強い印象をもちました。

琵琶湖の西側の湖畔に建つこの道の駅、面積は全部で１１．６ヘクタールあります。
元々はその土地と施設の大半を “高島市” が所有していましたが、今回民間資本によるキャンプスタイルの宿泊施設に生まれ変わります。

果たしてどのような新しい風車村が誕生するのか、今年の７月が楽しみです。

㉜舟屋の里 伊根（京都府）

今回は京都府の丹後半島に位置する

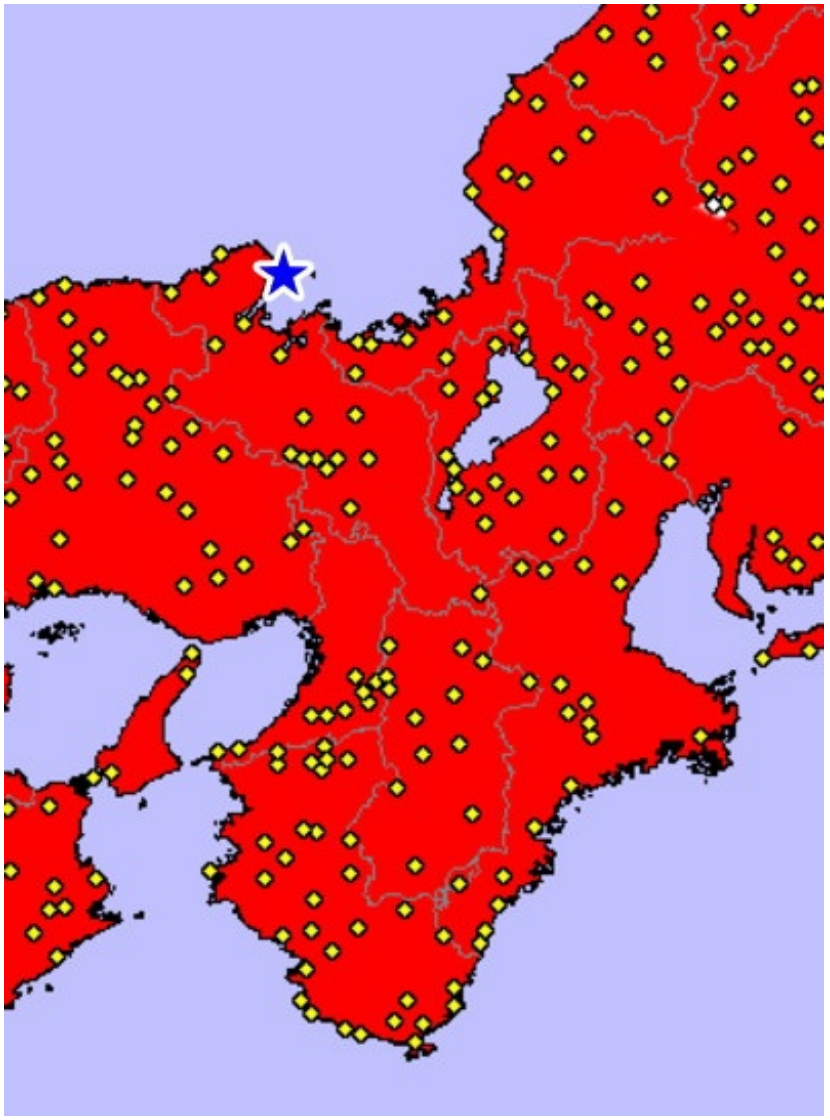
道の駅舟屋の里 伊根　のご紹介です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

京都府与謝郡伊根町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

舟屋の風景、国の重要伝統的建造物群保存地区、伊根湾、伊根漁港

■この道の駅の魅力について

ここは絶景というより、よそではあまり見ることのない“風情ある集落風景”と言えると思います。

“京都府伊根町”は丹後半島のほぼ先端にあり、“伊根湾”を囲んだ漁師町です。
道の駅は、その伊根湾を見下ろす高台に建っています。

この標識にもあるように、道の駅周辺は “舟屋の里公園” として整備されています。

道の駅には建物が２棟建っていますが、右側が “母屋棟” 、左手は “舟屋棟” です。

母屋棟では海産物や土産物などを販売しており、舟屋棟には観光協会の事務所の他、海鮮レストランが２店舗、それにラウンジなどが入っています。

周辺は舟屋の里公園ですから、ご覧のように “ブリとタイ” や “スクリュー” のモニュメントがあります。
さて、この道の駅の最大の魅力は、この高台から見下ろす伊根の集落の風景です。

道の駅の裏手が展望台のようになっており、伊根湾とそれを囲む集落を一望することができます。
まずは湾の左手から見て頂きましょう。

山と海岸のわずかな隙間に張り付くように、半島の先端までぎっしりと建物が並んでいるのがお分かりだと思います。
もう少し、ズームで拡大してみましょう。

この独特の建物を “舟屋” といい、１階が船のガレージ兼作業場であり、２階が居室になっています。

２階が居室といっても実際にここに住んでいるわけではなく、道路を挟んだ山手に “母屋” があり、そこで生活をしているのがほとんどで、舟屋はいわゆる漁師さんの仕事場ということです。

このような舟屋が伊根には約２３０軒あり、この集落は 『国の重要伝統的建造物群保存地区』 に指定されてい

ます。

湾の中心部には、養殖らしい生簀が見えます。
この写真を拡大してみると、生簀の周りにはぎっしりと海鳥がとまっています。

同じように、湾の右手の写真が次です。

まさに、ここでしか見られない光景だと思います。

ここは丹後半島ですが、その付け根付近には日本三景の一つである “天橋立” があります。
天橋立の全景を眺めるには、その南側に位置する “天橋立ビューランド” と 北側にある “傘松公園” の二カ所がありますが、その傘松公園までは、ここから３５分前後の距離です。

ここからの景色も絶景なので、あわせて観光されることをお勧めします。

㉝虫喰岩（和歌山府）

今回ご紹介するのは和歌山県の

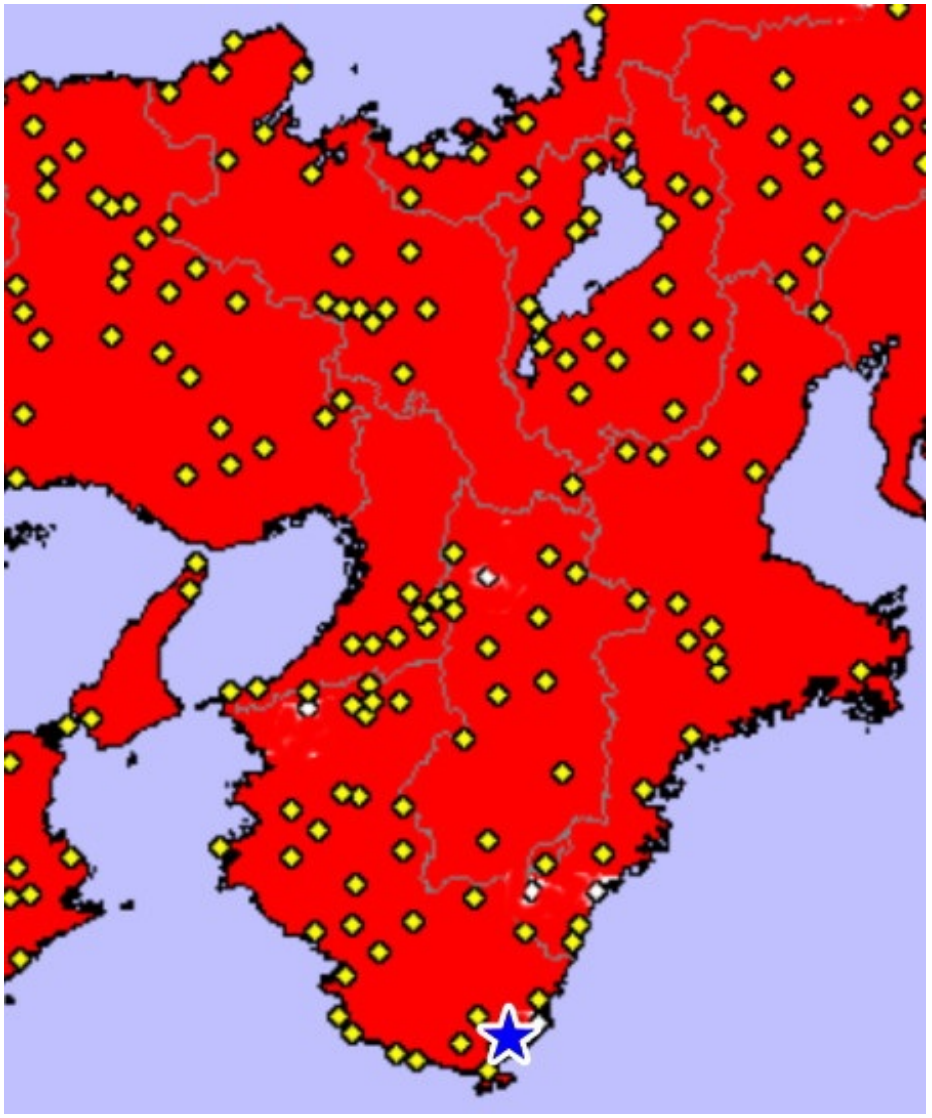
道の駅虫喰岩　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

和歌山県東牟婁郡古座川町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

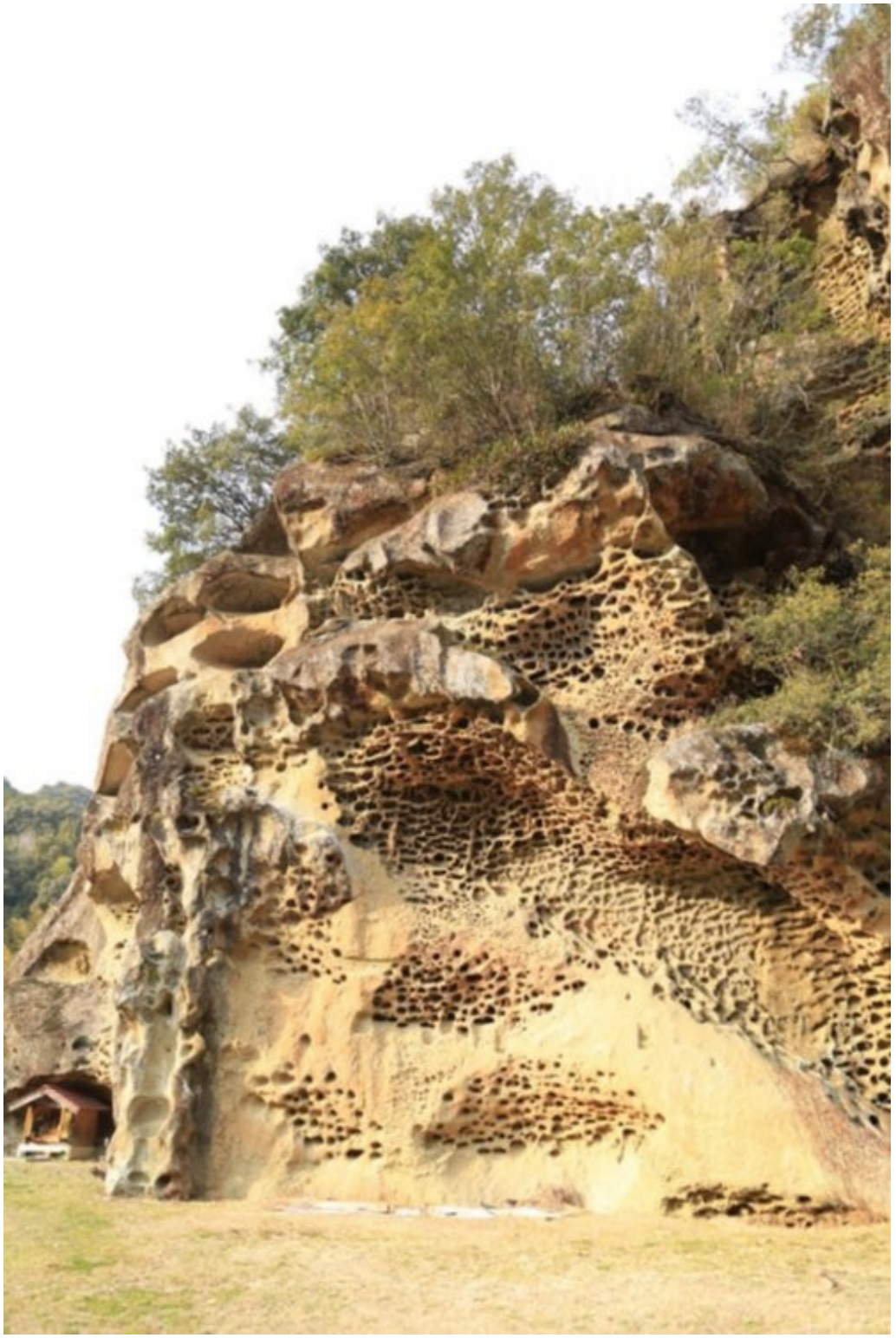
■絶景キーワード

虫喰岩、奇岩、国の天然記念物、古座川、一枚岩

■この道の駅の魅力について

この絶景道の駅シリーズの３０番目で、紀伊半島のほぼ最南端にある“くしもと橋杭岩”を紹介しましたが、そこから車でわずか１５分ほどの距離にこの道の駅はあります。

“橋杭岩（はしくいいわ）”と“虫喰岩（むしくいいわ）”で名前も似通っており、橋杭岩が“串本町”であるのに対し、虫喰岩は隣町の“古座川町”にあります。



この写真にあるような、不思議な岩盤が道の駅の道路を挟んだ目の前に聳え立っています。
“絶景” といえるかどうかは少し疑問ではありますが、ここでしか見られない光景だと思います。

この虫喰岩、岩盤に無数の穴や洞窟があります。

今から約１５００万年前に地球内部のマグマが噴出して地上に現れ、長い年月を経て風雨によって浸食が進み、まるで虫が喰ったような穴や洞窟が創られたものです。

アップにするとまるで蜂の巣のようで迫力があります。

道の駅はこの虫喰岩を見上げる位置にあるのですが、この道の駅自体にも特色があります。
それは何かというと、「土日祝日しかオープンしない」ということです。（笑）

私も全国の道の駅を見てきましたが、土日しかオープンしないというのは私の記憶ではあと一カ所、青森県にある「道の駅たいらだて」があります。

もっともここは、すぐ隣にセンターハウスという、キャンプ場の管理や土産物を販売する施設があり、スタンプもここで押せるので、本当の意味の「土日祝日だけ」は全国唯一ではないでしょうか？

ご覧のように、“次の営業日”というのが書いてあります。（笑）

ところで、ここ“古座川町”ですが、人口は２６００人程で、町内を“古座川”が流れ、町全体の９６％が山林と

いう山村です。
この小さな町に、道の駅は3カ所もあります。

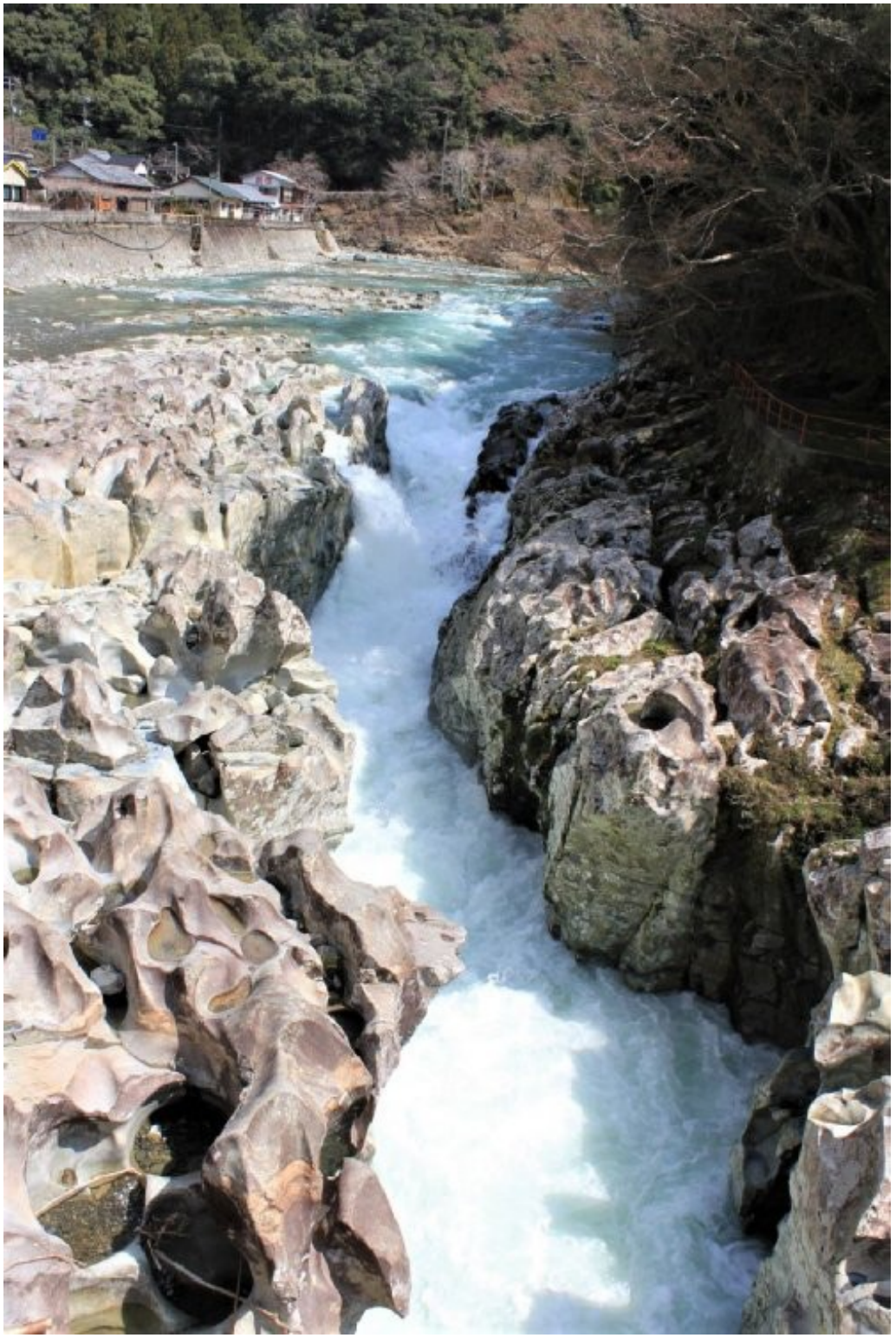
ご覧の３か所なのですが、それぞれに不思議な景観をもっているので合わせて紹介しましょう。

まずは、“道の駅一枚岩” です。

ここは道の駅の背後に古座川が流れていますが、その対岸に「高さ約１００ｍ、幅約５００ｍ」という、巨大な“一枚岩”が聳えているということです。

次に、“道の駅瀧之拝太郎”です。

滝の湯



ここは古座川の支流にあたりますが、川床がすべて床岩であり、浸食によって造られた大小さまざまなポットホール（岩穴）で覆われています。

紀伊半島の先端付近は、以前紹介した “橋杭岩” もそうでしたが、“大自然の造形美” ともいえる、不思議な景観が多いのです。

いずれもここでしか見られない風景ですから、やはり “絶景” なのだろうと思います。

㉞うずしお

今回は淡路島にある

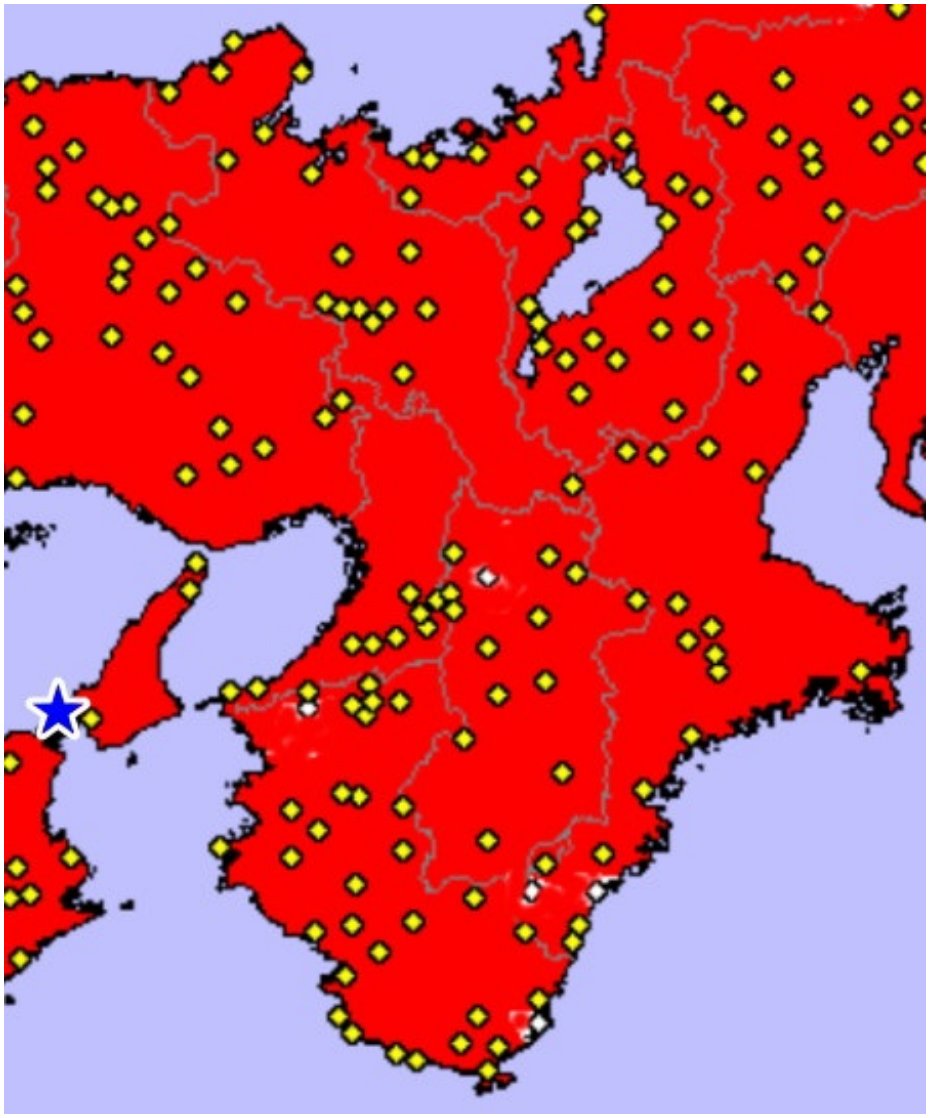
道の駅うずしお　をご紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

兵庫県南あわじ市福良



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

鳴門海峡、大鳴門橋、渦潮、瀬戸内海国立公園

■この道の駅の魅力について

この道の駅は兵庫県の 「淡路島」 と、四国 「徳島県」 を結ぶ “大鳴門橋” の淡路島側にあります。

淡路島の西端は細長い半島になっており、そこに大鳴門橋が架かっているのですが、道の駅は半島の最先端の岬にあるのです。

先端から四国までの距離はわずか１．３ｋｍしかなく、これが巨大な渦潮で有名な “鳴門海峡” です。
ですからこの道の駅うずしおは、大鳴門橋、そして渦潮を楽しめる絶景ポイントなのです。

でも、これらの写真、あんまり大きな渦潮は写っていませんね！

実は渦潮というのは、１日に２回、満潮と干潮の時にしか現れないのです。
潮の満ち引きは６時間ごとに起こりますが、特に大潮の時には、渦の大きさが３０ｍ、潮流の時速が３０ｋｍにも達します。

渦潮の見頃、つまりその日の満潮と干潮の時間は道の駅に表示されているのですが、私は過去２回行って、いずれもタイミングが外れた、ということです。(^_^;)

これが裏側から見た道の駅で４階建てです。
でも、入り口はこの反対側にあって、そこは４階なのです。

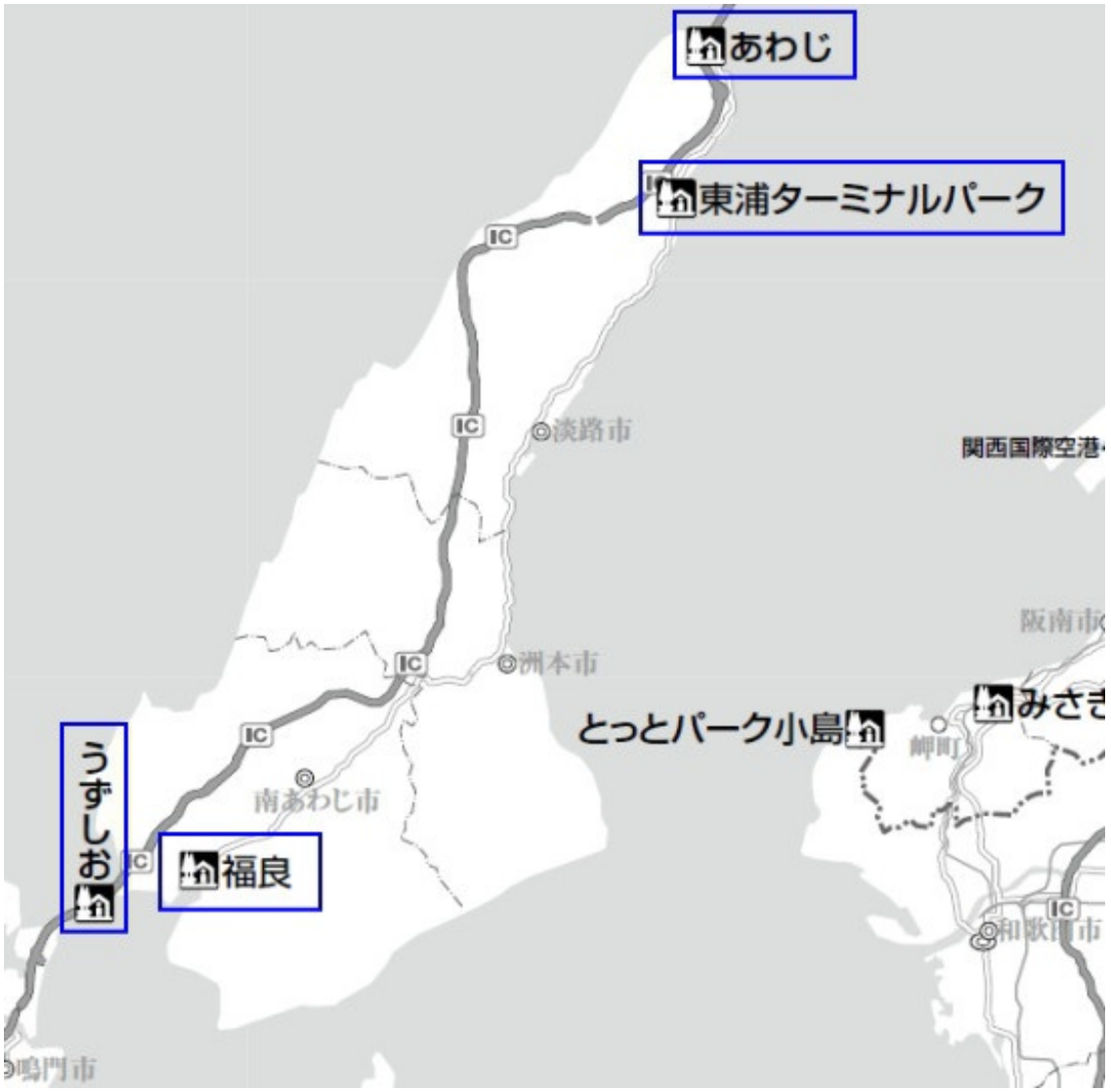
これが道の駅の正面入口ですが、実は建物の４階にあるということです。
土産物の店舗やレストランがとても充実しており、裏手には大鳴門橋や渦潮の展望台があります。

この写真が展望台からのものです。
この写真で人が歩いているのが見えますが、道の駅の裏手から通路を辿れば、橋の真下や向こう側に歩いて行けるのです。

ご覧のように、大鳴門橋を真下から見上げる、あるいは橋の下の構造を直接見れるのはここだけではないでしょうか？

これらの写真は橋の向こう側の展望スペースからです。
渦潮が大きくないので迫力はやや乏しいですが、潮流見学の “帆船” が見えますね！

ここ “淡路島” には全部で４つの道の駅があります。
他の道の駅もすこしだけ紹介しておきましょう。



これが淡路島にある４つの道の駅です。

ここ、うずしおから車でわずか１０分ほどの距離にあるのが、

道の駅福良　です。

福良も個性のある道の駅なのですが、最大の特徴がこちらです。

ここはうずしおクルーズのターミナルになっていて、先ほど見て貰った帆船はここから出ています。
縦向き写真の上が “咸臨丸”　で　下が “日本丸” です。

次は、淡路島最北端にある
道の駅あわじ　です。

こちらは淡路島と本州を結ぶ “明石大橋” です。

この道の駅は、全体を “松帆アンカレイジパーク” と言います。
“アンカレイジ” というのは別名 “アンカーブロック”、つまり吊り橋のメインケーブルを固定させる、巨大なコンクリートブロックのことです。

そのメインケーブルがどのくらいの太さがあるかというと、次の写真をご覧ください。

これは、そのケーブルを再現して作ったベンチです。（笑）
全長３９１１ｍの吊橋を支えるのですから、この太さでないと耐え切れないのでしょう。

残りあと一カ所は、
道の駅東浦ターミナルパーク　です。

ここは、バスターミナルを兼ねた道の駅で、“絶景” とは言えません。

ここで一番の名物になっているのは、“たこの姿焼き” で、まるまる 1 匹のたこを、プレスみたいな鉄板で豪快に焼き上げるのです。
時間がかかりそうだったので買わなかったことが、未だに心残りなのです。(^_^;)

淡路島の４か所の道の駅はそれぞれ個性的です。
特に、“うずしお”　と　“あわじ”は、いずれも絶景に恵まれていると思います。

㉟一乗谷あさくら水の里（福井県）

今回は福井県にある

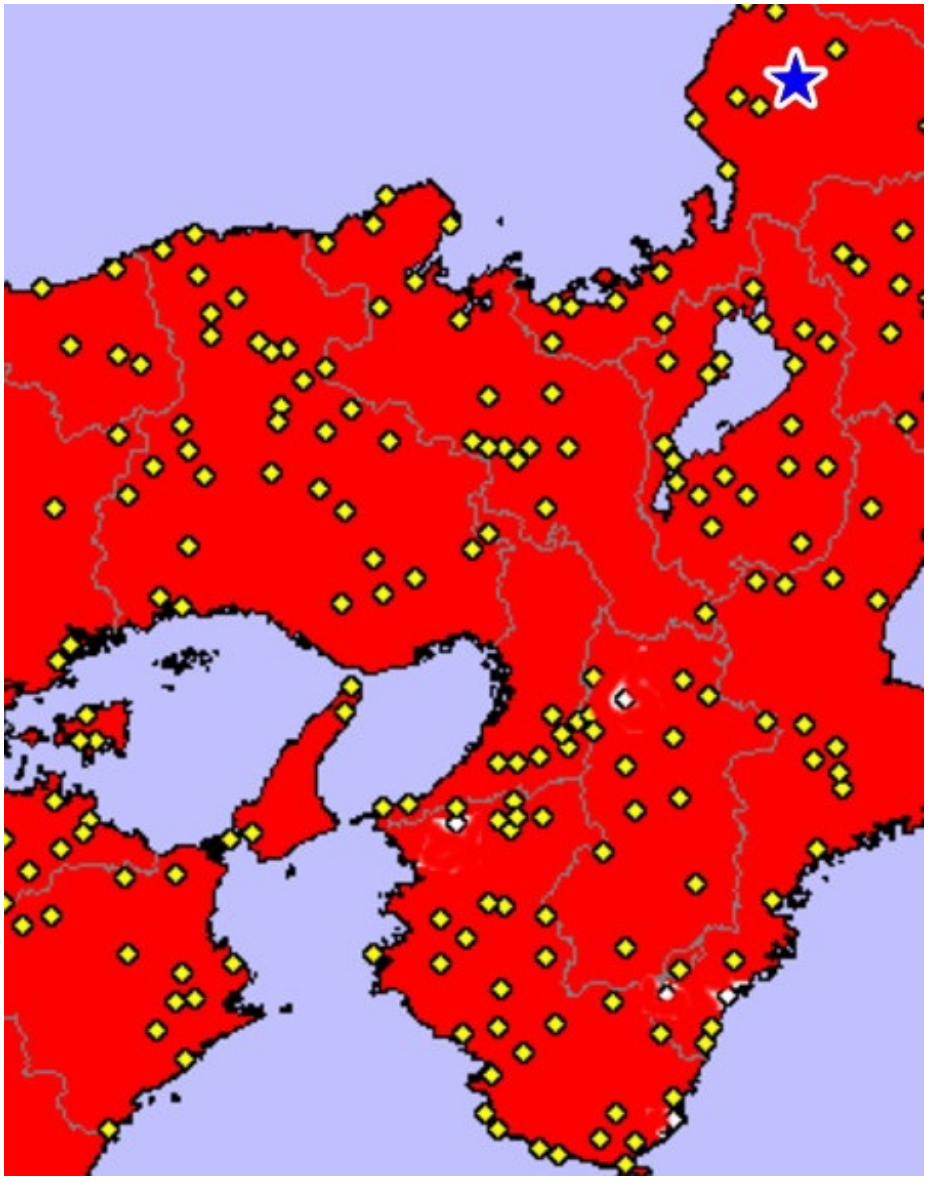
一乗谷あさくら水の里（いちじょうたに）　をご紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

福井県福井市安波賀中島町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

三連水車、水路、ビオトープ、芝生広場、足羽川、一乗谷朝倉氏遺跡

■この道の駅の魅力について

ここは最初の写真で紹介した、“三連水車” がシンボルです。

“水の里” という名前の通り、道の駅の周囲には水路があり、裏手には “足羽川” が流れています。
ここを絶景道の駅のひとつに選んだのは、その風景の美しさからです。

昔懐かしいこの水車は、その直径が３．６ｍ～４．４ｍの３つが連なります。

一年中回り続けるこの三連水車は、その裏にある粉ひき小屋の臼を回し、同時に用水路の水を、園内に張り巡らされた小さな水路に水を汲み上げます。

この園内の小さな水路を“ビオトープ”と言います。

“ビオトープ” というのは、周辺に生息する動植物の生態系を観察できる水路で、ここではホタルも飼育しており、６月頃には飛び交うホタルを鑑賞することもできます。

では、道の駅の施設を紹介しましょう。

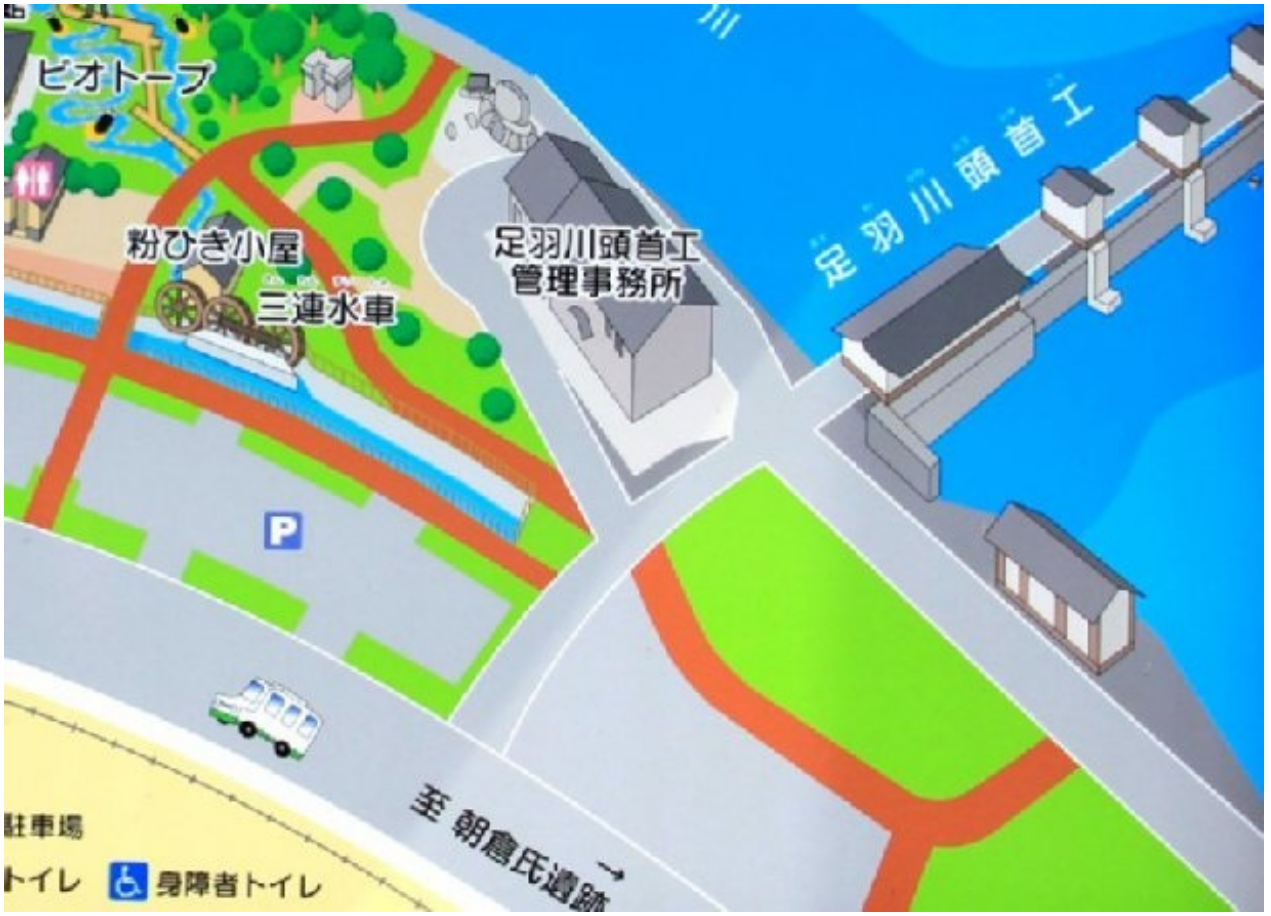
道の駅自体には、特産品販売コーナー、軽食コーナー、情報発信コーナーがあります。

先ほどの案内図にありましたように、周辺には吹き抜けの “交流施設” があり、広大な “芝生広場”や、“体験農園” があります。

この芝生広場の美しさも、私が絶景道の駅に選んだ理由のひとつです。
更に、この裏手を流れる “足羽川” も絶景です。

この写真の右端に、川の上に建つ建物のようなものが見えます。
何だろうと近くまで歩いてみると、この施設でした。

どうやら水門のようですが、とってもユニークな形をしています。
これは“足羽川頭首工（あすわがわとうしゅこう）”と書いてあります。



１６９２年に福井藩用水奉行であった「戸田弥次兵衛」が築いた堰堤が起源であり、その後水害や災害の都度補修され、現在の形になったのは昭和３８年なのだそうです。

この道の駅の名前は“一乗谷あさくら水の里”ですが、その由来は戦国時代に信長によって滅ぼされた“一乗谷朝倉氏”の遺跡が近くにあるためです。

歴史遺産と美しい景観に恵まれた道の駅として印象に残りました。

㊱小豆島オリーブ公園（香川県）

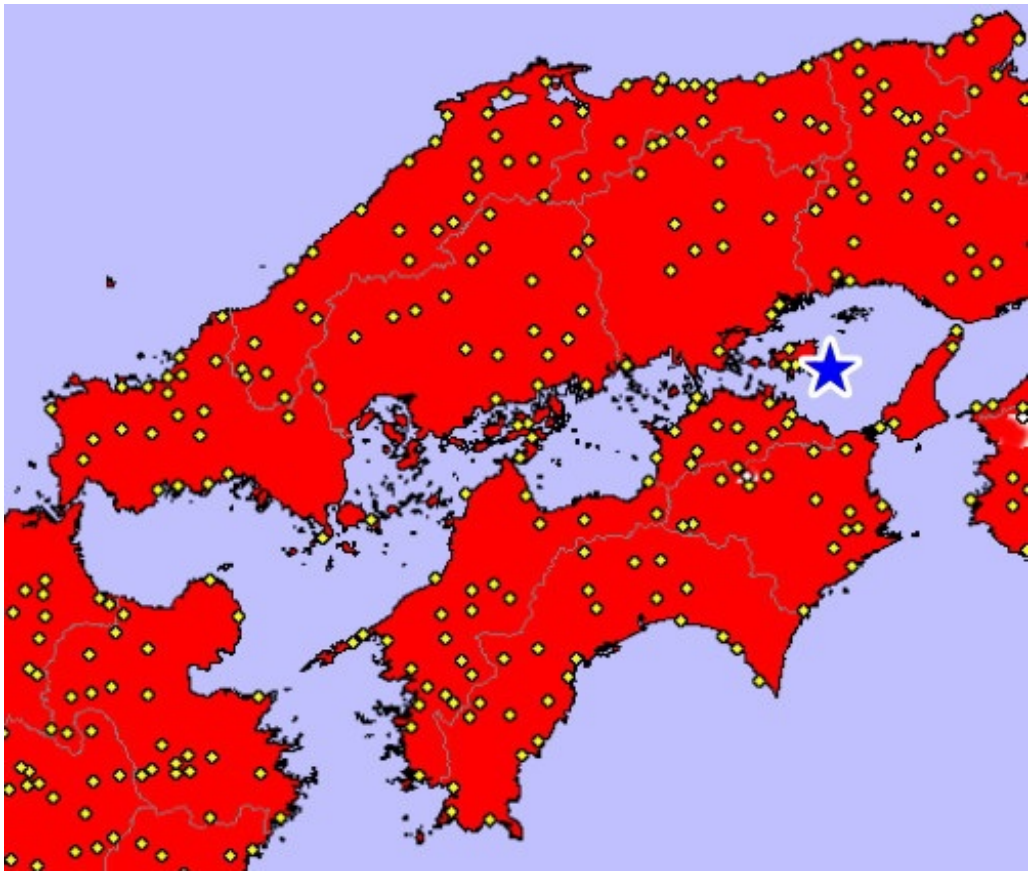
今回からは四国・中国地方です。

四国・香川県にある

道の駅小豆島オリーブ公園　は、正に絶景の宝庫です。

■所在地＆ＭＡＰ

香川県小豆郡小豆島町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

ギリシャ風車、エーゲ海風景観、オリーブ、瀬戸内海、魔女の宅急便

■この道の駅の魅力について

ここは瀬戸内海に浮かぶ “小豆島” にある道の駅です。

この小さな小豆島には道の駅が３つもあって、それぞれに個性的ですが、その中でも最も絶景に恵まれているのが、ここ “オリーブ公園” だと思います。

１枚目にお見せした写真は、古代ギリシャの神殿の雰囲気がありませんか？

オリーブ公園は少し小高い場所にありますから、ここから見下ろす瀬戸内海が、まるでエーゲ海のように見え、この公園全体がギリシャ風に創られているのです。

上のギリシャ風の建物が道の駅の本体であり、公園内にはご覧のような像がいくつもあって、古代ギリシャの雰囲気を醸し出しています。

もうひとつ、古代ギリシャらしい場所をご覧いただきましょう。

丸いステージの上に、円盤に棒を通したような、不思議なモニュメントがあります。

これは古代ギリシャで、「オストラキシモス（陶片追放）」 で使われた “投票片” がモチーフです。
投票片は市民による選挙、裁判、追放などに使われたもので、中央の心棒があれば “無罪” なければ “有罪” を表わします。

このモニュメントには心棒がありますから “無罪” なのですが、古代ギリシャではこのようなもので投票し、問題のある役人を追放するなど、民主的な政治が行われていたのです。

投票片のモニュメントがあるのは道の駅から一段低い場所にある “イベント広場” ですが、そこから見上げたこの白い建物は、“サンオリーブ” という、レストラン・温泉の建物です。

このようにこの広大なオリーブ公園には様々な施設が建っています。

ところで、先ほど 「オストラキシモス（陶片追放）」 のモニュメントを紹介した写真の中に、“ホウキ” を持った親子連れがいました。

実はこのオリーブ公園は、実写版の “魔女の宅急便” のロケ地なのです。
そこで道の駅では、無料でこの魔法のホウキを貸し出します。

そのホウキに跨ってジャンプしたところを写真に収めると、まさにホウキに乗って空を飛んでいるような、インスタ映えする写真が撮れるということです。

ですから、観光客のみなさん、それぞれ手にホウキを持って園内を散策されています。(⌒▽⌒)

そのホウキでジャンプするのに、最もインスタ映えする場所がこちらです。

これは、“ギリシャ風車” といいます。

この風車は小豆島と姉妹島提携を結んでいる “ギリシャ・ミロス島” との友好の証として平成４年に建設されました。
オリーブ畑の中に建つこの真っ白いギリシャ風車が、絶好の撮影ポイントなのです。

背後の、エーゲ海に似た瀬戸内海の風景が見事にマッチしていますね。
最後の写真の左端に、二人の女性がホウキに跨っているのが写っています。

今まさに、ホウキに乗って空を飛ぶ、インスタ映えする写真を撮ろうとする瞬間です。
さて、成功したかな？

全国に絶景を楽しめる道の駅はたくさんありますが、その中でも５本の指に入るほど、撮影スポットに恵まれた道の駅だと思います。

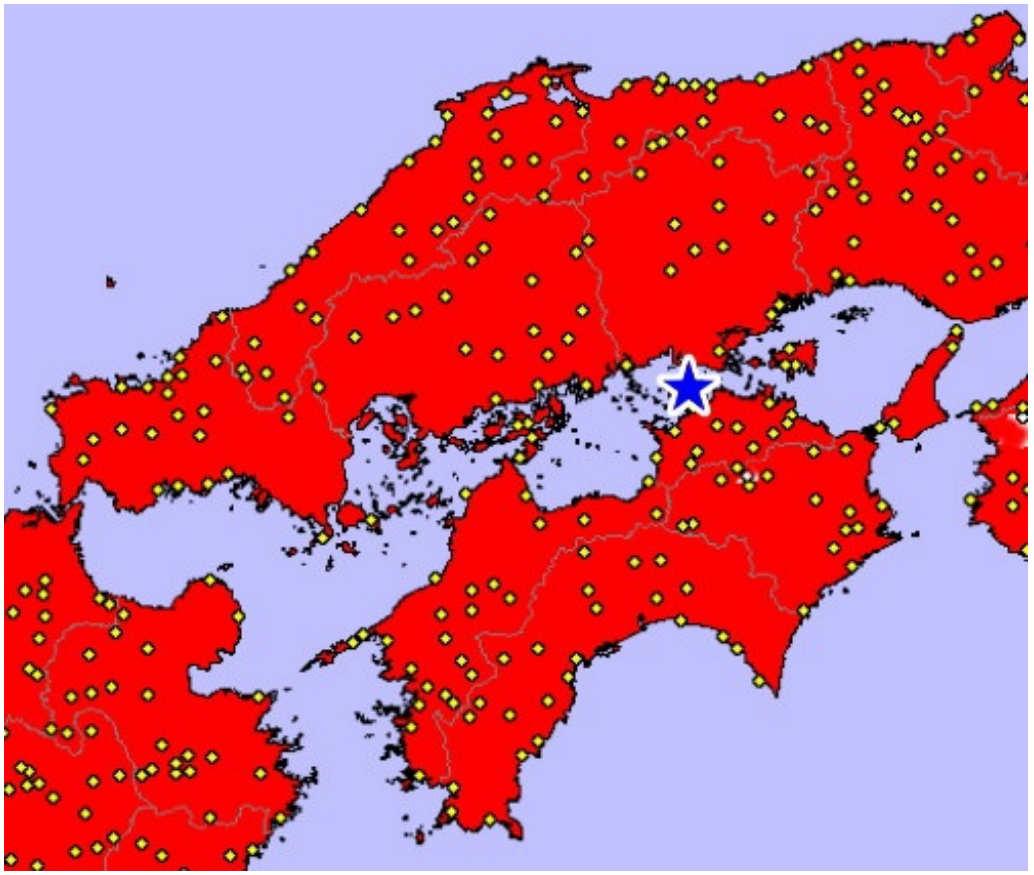
㊲瀬戸大橋記念公園（香川県）

今回も同じ香川県で

道の駅瀬戸大橋記念公園　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

香川県坂出市番の州緑町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

瀬戸大橋、瀬戸大橋記念館、道路鉄道併用橋、瀬戸大橋タワー、水の回廊

■この道の駅の魅力について

ここはその名の通り、“瀬戸大橋” の完成を記念して作られた公園が道の駅になったものです。
ですから、四国側から瀬戸大橋を眺めるには、正にベストポジションということになります。

瀬戸大橋は全長が９．４ｋｍにも及びますが、実際には途中の瀬戸内海の島々の上を通るので、６つの橋と４つの高架橋の総称なのです。

もう一つの特徴が、“道路鉄道併用橋”といって、橋が２階建てになっており、上の階を車が走り、下の階を“ＪＲ瀬戸大橋線”の列車が走るのです。

ですから、時折ゴー！という音と共に、列車が通り過ぎてゆきます。

そしてここには、施設のメインといえる “瀬戸大橋記念館” があります。
道の駅の本体もこの記念館であり、道の駅スタンプなども置いてあります。

この不思議な形をした建物が、その記念館です。

外観は武骨ですが、中は近代的であり、瀬戸大橋がどのようにして造られたのかを、模型や映像などで詳細に知ることができます。

この写真の背後に、高いタワーが見えていると思います。

これが “瀬戸大橋タワー” で、地上１０８ｍの回転式展望塔であり、宇宙船のような円盤の部分が回転しながら上昇してゆきます。

まだ乗ったことはないのですが、上空からの瀬戸大橋、それに島々が浮かぶ瀬戸内海の風景は素晴らしいことだろうと思います。

この瀬戸大橋記念公園は、瀬戸大橋や瀬戸内海の眺めも正しく絶景なのですが、更に公園自体もとても美しく整備がされています。

その一つが、“水の回廊” です。

正面に見えるのが先ほど紹介した “瀬戸大橋記念館” の建物です。
この両側に、噴水が見えると思います。

公園の入口から瀬戸大橋記念館の建物までのメインのプロムナードに、様々な形の噴水群があり、これを “水の回廊” と呼びます。

夏場のこの時期、大勢の子供さんとお母さんたちが、水遊びを楽しんでいました。

これらの噴水は、瀬戸大橋に架かっている橋の形をそれぞれイメージしているのです。

公園全体で１０．２ｈａにもなる広大な記念公園、ここには過去３回程来ていますが、何度来ても飽きない景観を楽しめる場所です。

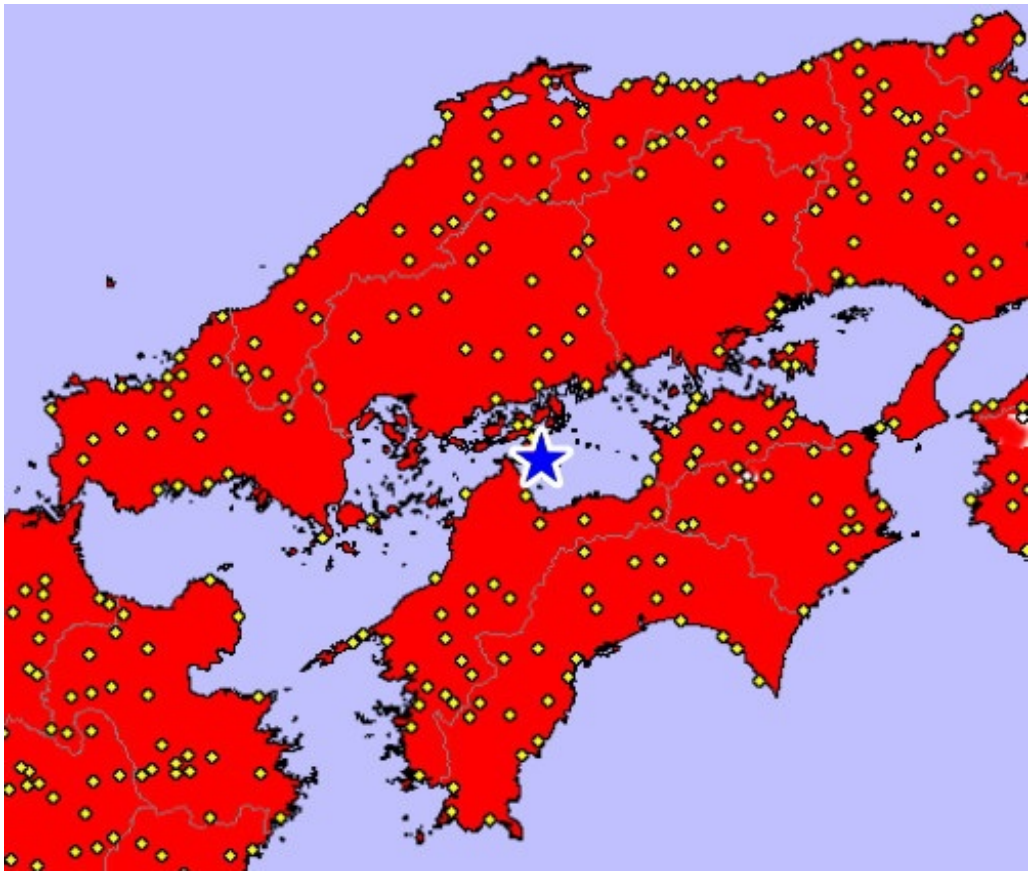
㊳よしうみいきいき館（愛媛県）

次は “しまなみ海道” に移って

道の駅よしうみいきいき館　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

愛媛県今治市吉海町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

しまなみ海道、来島海峡大橋、サイクリングロード、急流観潮船

■この道の駅の魅力について

四国と本州を道路で繋ぐ主なルートは、まず最初に淡路島と徳島を結ぶ“大鳴門橋”があり、次が前回紹介した“瀬戸大橋”、そしてもう一つが今回紹介する“しまなみ海道”です。

今回紹介するのは、そのしまなみ海道にある道の駅です。

しまなみ海道は正式名称を“西瀬戸自動車道”と呼び、広島県尾道市と愛媛県今治市を結びます。

瀬戸内海に浮かぶ島々を伝って７本の橋で繋がっており、その総延長は５９．４ｋｍです。
このしまなみ海道には、“今治市多々羅しまなみ公園”“しまなみの駅御島”“伯方Ｓ・Ｃパーク”“よしうみいきいき館”という４つの道の駅があります。

ちなみにこの４か所のうち、“しまなみの駅御島”を除く３カ所は、「株式会社しまなみ」という同じ会社が経営しています。

“道の駅よしうみいきいき館” の絶景は、ここから見上げた “来島海峡大橋” の雄姿です。

来島海峡大橋は、しまなみ海道で最後の橋ですが、正確に言うと来島海峡第一大橋、来島海峡第二大橋、来島海峡第三大橋の総称です。

３つの長大橋梁により構成された世界初の三連吊り橋で、全長は４１０５ｍあります。

橋の途中に、インターチェンジのような円を描いた道路があります。

しまなみ海道には “サイクリング専用道路” が併設されているのが特徴なのですが、島と島を結ぶ橋の上では、場所によって自動車道と並行して走るもの、自動車道と自転車や歩行者道が２段階構造になっているものなど様々です。

ここ来島海峡大橋では、中央に西瀬戸自動車道が走り、北側に自動車歩行者道、南側にバイク道が併設されています。
従って、このインターチェンジのようなものは自転車やバイクの入口です。

この自転車に乗っているのは愛媛県のキャラクター “みきゃん” 君ですが、このしまなみ海道は “サイクリストの聖地” と言われています。

数年前に ”ガイアの夜明け” というテレビ番組でも紹介されていましたが、この瀬戸内海を島伝いに走り抜ける、雄大なサイクリングロードを求めて、台湾など海外からもサイクリストが大勢集まります。

この道の駅には、絶景以外にもいくつかの特徴があります。
まずその一つ目がこれです。

ここ “来島海峡” は、以前紹介した大鳴門橋の下の “鳴門海峡” それに下関と門司の間の “関門海峡” と並んで、「日本三大急潮」 のひとつとして知られています。

この道の駅からその “急流観潮船” が運行しており、以前のテレビ番組では、道の駅の駅長さんご自身が観潮船を操縦なさっていました。

そしてもう一つの特徴がこちらです。

“海鮮七輪バーベキュー” です。(*^▽^*)

道の駅にある大きな水槽から魚や貝などの魚介類を買い、この小屋に設置された七輪でバーベキューを楽しむのです。

七輪はご覧のようにまとめて火をつけています。
この仕事は随分と熱いだろうと思います。

最後に、しまなみ海道沿いにあるあと２か所の道の駅をちょっとだけ紹介しましょう。

この写真は “道の駅伯方Ｓ・Ｃパーク” で、道の駅の目の前に海水浴場があります。
その先に見えているのは、しまなみ海道の７つの橋のひとつ、“伯方・大島大橋” です。

次は、“多々羅しまなみ公園” の道の駅です。

ここから見えるのは、“多々羅大橋” です。
サイクリストの人たちもたくさんおられますね！

今回は “よしうみいきいき館” を代表として紹介しましたが、このしまなみ海道沿いのそれぞれの道の駅、そしてそのあいだを走り抜ける道路のすべてが絶景に恵まれていると思います。

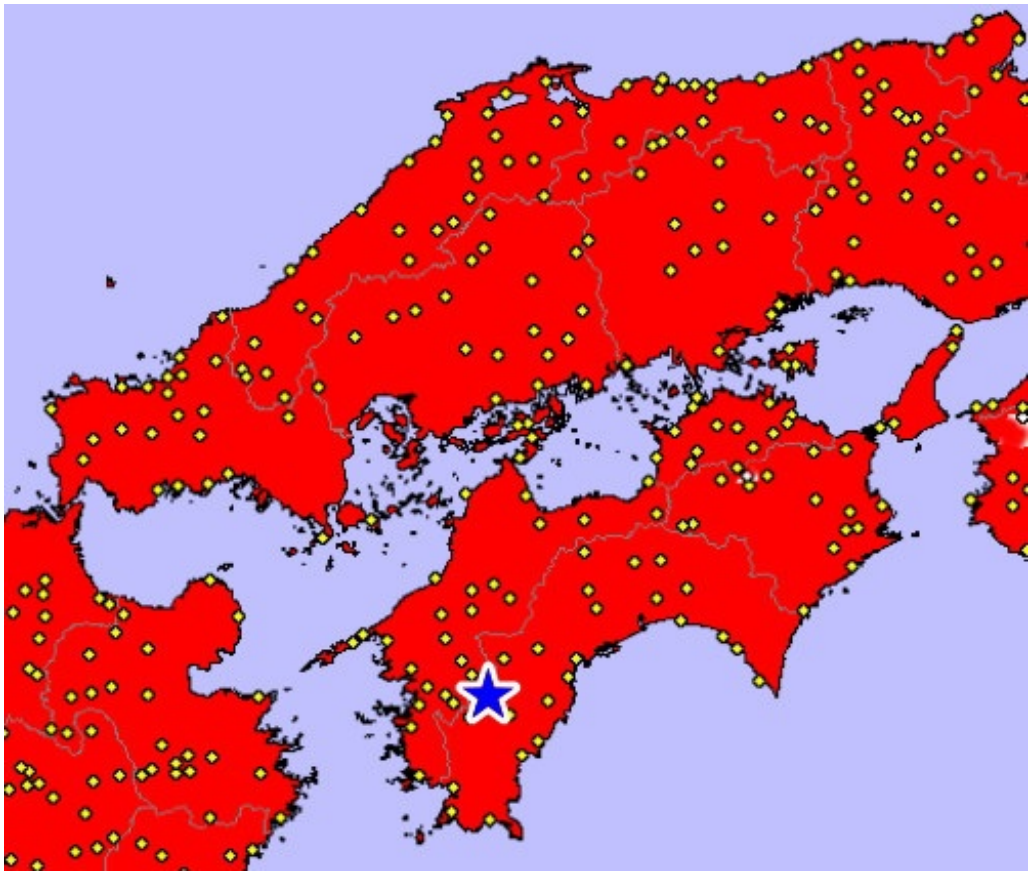
㊴四万十とおわ（高知県）

今回は川の絶景がテーマで

道の駅四万十とおわ　を紹介します。

■所在地＆ＭＡＰ

高知県高岡郡四万十町十和川口



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

四万十川、日本最後の清流、石の風車（四万十大正）

■この道の駅の魅力について

“四万十川（しまんとがわ）” は全長が１９６ｋｍある、四国で最も長い一級河川です。

本流に大規模なダムが建設されていないことから “日本最後の清流” と呼ばれ、静岡県の柿田川、岐阜県の長良川と並んで、“日本三大清流” のひとつでもあります。

この四万十川流域にある道の駅は、“四万十大正” “四万十とおわ” “虹の森公園まつの” などがありますが、今回は四万十とおわを中心に、この３カ所をまとめて紹介致します。

道の駅のすぐ裏手に、ご覧のような四万十川が流れています。

周囲を取り囲む緑の山々も含め、いかにも日本の山村らしい美しい景観だと思います。
この清流は、“名水百選” や “日本の秘境百選” にも選ばれています。

でも、「日本最後の清流」と呼ばれてはいるものの、科学的な水質検査によると、同じ高知県を流れる、“仁

淀川” の方が更にきれいなのだそうです。

ここに写っている建物は、“shimanto おちゃくり cafe” といって、道の駅本体とは別のカフェで最近新しくできたものです。
雄大な四万十川の流れを眺めながらのコーヒータイムも良いものだと思います。

さて、次はここより少し上流にある “道の駅四万十大正” です。

“四万十大正” はさきほどの四万十とおわよりも、更に山奥にあります。
ここもやはり、道の駅の裏手に回ると四万十川が流れています。

道の駅から階段が続いていて、川べり迄下りてゆくこともできるのです。

この道の駅をとりあげた理由は、もうひとつ、珍しい見どころがあるからです。

道の駅から２００ｍほど歩いたところに “轟公園” というのがあり、そこに立っているのがこれです。

巨大な石の風車です。
高さは目測ですが、５ｍ以上あるのではないかと思います。

この完全に石でできた風車が、わずかな風しか吹いていないのに、ゆっくり回っているのです。

羽根の裏側を見てみると、金属の回転軸が取り付けてあります。

ここにベアリングが入っていて、微妙なバランスでわずかな風でも回転するようになっているのです。

このような石の風車は、全国的には他にもあるようですが、実に珍しいと思います。

さて、四万十川の最後は、３カ所のなかで最も下流にある “虹の森公園まつの” です。

ここは正確に言うと、四万十川の支流にあたる “広見川” なのだそうです。
でも、ほんの少し離れた 「四万十市西土佐」 で本流と合流します。

この道の駅の特徴は “おさかな館” という水族館が併設され、四万十川に生息する淡水魚を中心として展示されていることです。

魚のオブジェが建てられていますが、これは四万十川に生息する巨大魚 “アカメ” がモチーフです。
そのアカメは、おさかな館の中に、剥製として展示されています。

このアカメは、全長が１１２ｃｍあります。

「幻の魚」 と書かれていますが、全長が１ｍを超えるアカメは四万十川でも年に数匹しか捕獲されないほど珍しいのだそうです。
そして清流だからこそ、このような魚も生息できるのです。

今回は “四万十川” をキーワードに、流域にあって景観の美しい３つの道の駅を紹介しました。
でも、四万十川といえば最も有名なのがこのパンフレットの写真にある “沈下橋” だと思います。

沈下橋は大雨や洪水の時でも橋が流されないように欄干を一切なくした橋で、四万十川本流に２１か所、支流にも２６か所あるそうです。
残念ながら私はまだ実物を見ていないので、機会があれば写真に収めていつか紹介したいと思います。

㊵北浦街道 豊北（山口県）

今回から中国地方ですが、その最初に紹介したいのは

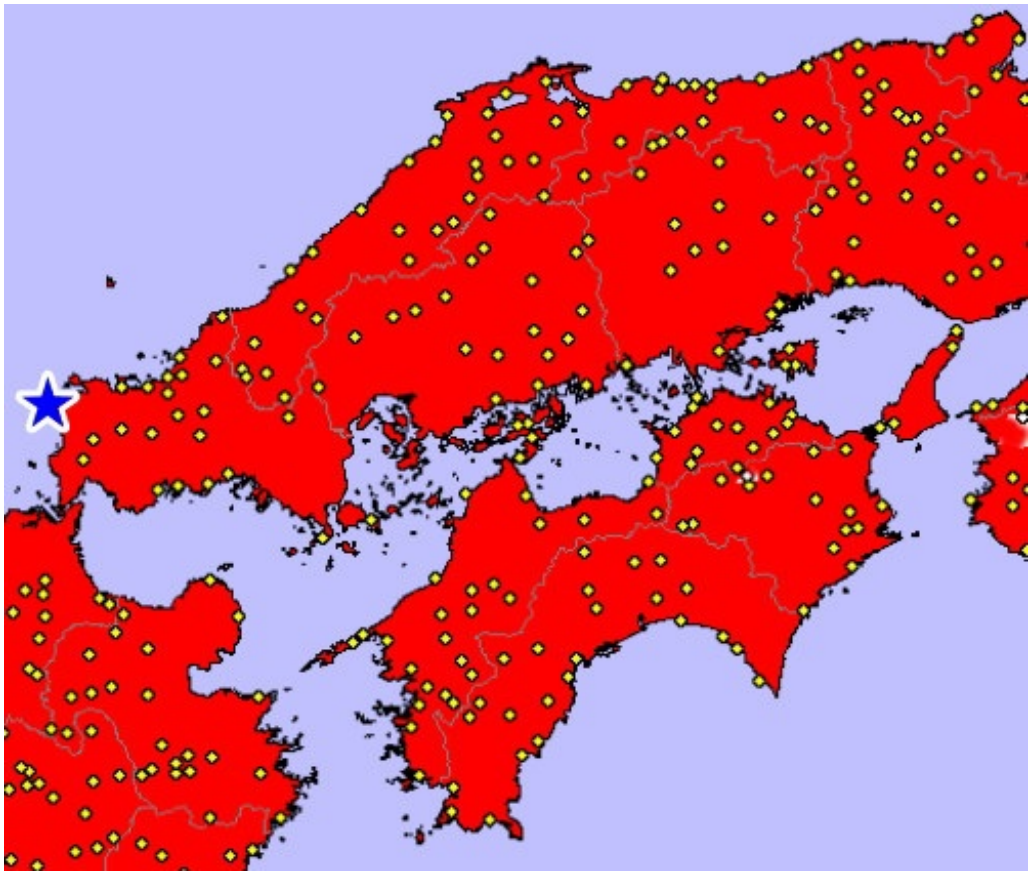
道の駅北浦街道 豊北（ほうほく）　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

山口県下関市豊北町



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える
☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　角島大橋、展望デッキ

■この道の駅の魅力について

地図でお分かりのように、ここは本州で最も西の端にある道の駅です。

ここの魅力は道の駅からの景色にもありますが、最大の絶景はここから少しだけ走った場所にある離島を繋ぐ長大橋 “角島大橋（つのしまおおはし）” の雄姿です。

まずは道の駅からの景色を先に紹介します。

これが道の駅の建物ですが、ここには二つの展望スポットがあります。
その一つは、道の駅のすぐ横にある、小高い丘になった展望台です。

この小高い展望台は実は “和久古墳” という市指定文化財遺跡に登録された古墳です。
６世紀頃のもので、横穴式石室が現在は露出した形で残されています。

この展望台からの眺めは次の写真です。

海を隔てて白くて長い橋が見えますが、これが “角島大橋” です。

もう一つの展望スポットは、道の駅の建物の裏手にあります。

これが道の駅の建物の裏にある展望デッキで、ここからの眺めも素晴らしいものです。
ここからの景色の中にも、やはり “角島大橋” があります。

左手に見える島が “角島” であり、右端が本州、そして真ん中にある小さな島は、“鳩島” といいます。

この道の駅から角島大橋までは、距離にして６ｋｍほどで、車で６～７分あれば行けます。
早速、そちらの方をご紹介しましょう。

角島大橋の正面に少し小高い場所があり、そこに上って見下ろした写真です。

日本海側のこの海域を “響灘（ひびきなだ）” と言いますが、豊北町の沖合約１．５ｋｍに浮かぶのが、周囲１．７ｋｍほどの “角島（つのしま）” です。

豊北町と角島を繋ぐ角島大橋は長さが 「１７８０ｍ」 あり、２０００年１１月の完成当時は、通行料のいらない離島架橋としては、沖縄県の “古宇利大橋（こうりおおはし）” 「１９６０ｍ」 に次いで全国２位でした。

でも、２０１５年に沖縄県宮古嶌に “伊良部大橋” 「３５４０ｍ」 が誕生し、引き離されてしまいました。

これが角島の地図ですが、真ん中がくびれた鼓のような形をしています。

道の駅からの写真にもあったように、途中に “鳩島” があり、それを迂回することと、船舶を通すために一部分が高くなっていることから、カーブを描いた実に美しい姿をしています。

このユニークな形によって、角島大橋は見る方角で様々に異なった表情を見せてくれます。

まずは、橋の手前右手にある、“海士ケ瀬公園（あまがせこうえん）” からの姿です。
すぐ上の写真がその公園です。

大きく弧を描いた姿が美しいですね。

橋の左手にも、展望台があります。

これが左手から眺めた角島大橋です。
この付近、橋も綺麗ですが、海もとっても美しい姿を見せてくれます。

角島大橋はその姿の美しさから、テレビドラマやコマーシャルの舞台としても度々登場してきました。
では、私たちも橋を渡ってみましょう。

橋の中央付近には、２～３台が停められるスペースもあります。

橋を渡り切ってすぐのところに、“瀬崎陽（あかり）公園” というのがあります。
そこから振り返ると、角島大橋はまた違う形を見せてくれます。

角島は約千人ほどが暮らす小さな島ですが、美しいビーチなど観光資源にも恵まれています。

島の中央のくびれた場所に “しおかぜの里 角島” という施設がありますが、そこから海岸に下りてゆくと広がるのが “コバルトブルービーチ” です。

夏場など、各地から集まる海水浴客で特に賑わいます。

道の駅北浦街道 豊北 で買い物などを楽しんだ後は、是非角島大橋に足を運んで頂きたいと思います。

㊶キララ多岐（島根県）

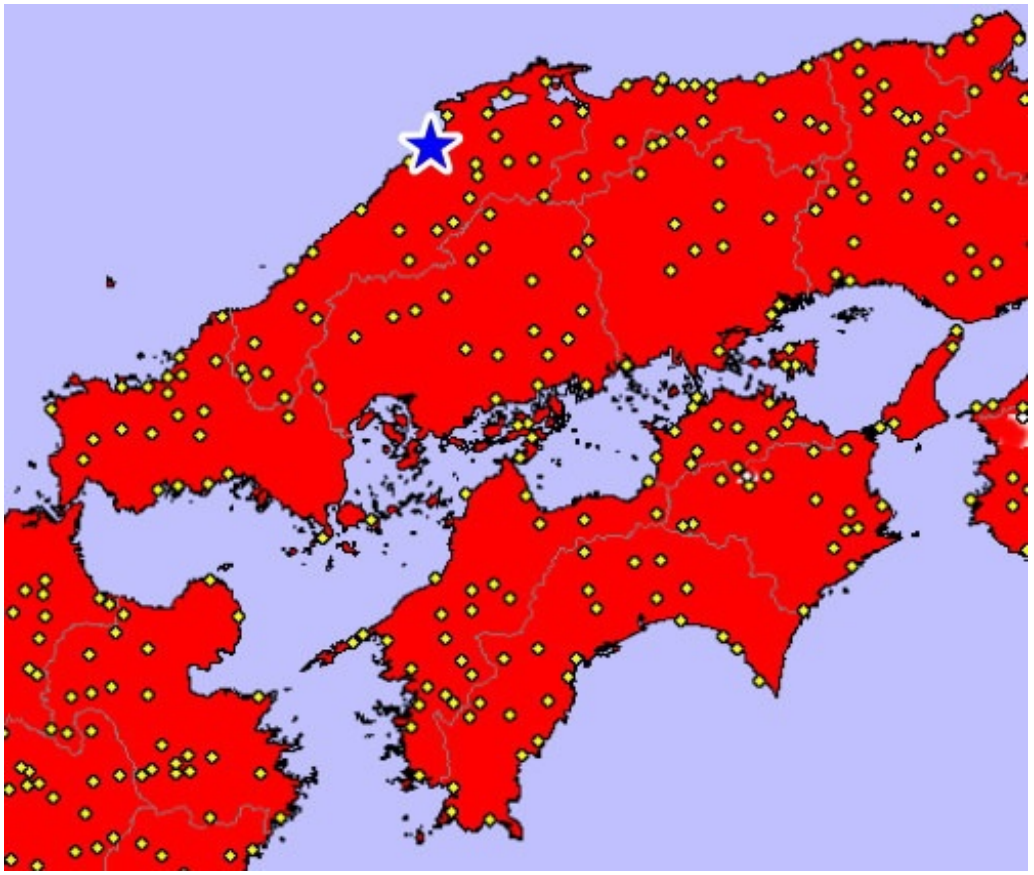
次は島根県で私が一番好きな

道の駅キララ多伎　です。

■所在地＆ＭＡＰ

島根県出雲市多伎町多岐

道の駅ブロガーが選ぶ！
絶景に出会える道の駅！“全国50選”



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

キララビーチ、日本海、夕陽

■この道の駅の魅力について

この道の駅はつい最近もレポートしていますが、私は過去３回訪問しています。

初めて訪れたのは２００９年４月、次が２０１６年４月、そして２０１８年３月です。
この道の駅で最大の絶景といえば「日本の夕陽百選」に選ばれた“夕陽”なのですが、３回も訪問した割には天候に恵まれず、それほど絶景の写真は撮れておりません。

唯一、夕陽らしく撮れたのは次の１枚です。

道の駅からわずか５００ｍ離れた場所に、道の駅と同じ会社が経営する“マリンタラソ出雲”という施設があり、そこに宿泊して撮った写真です。

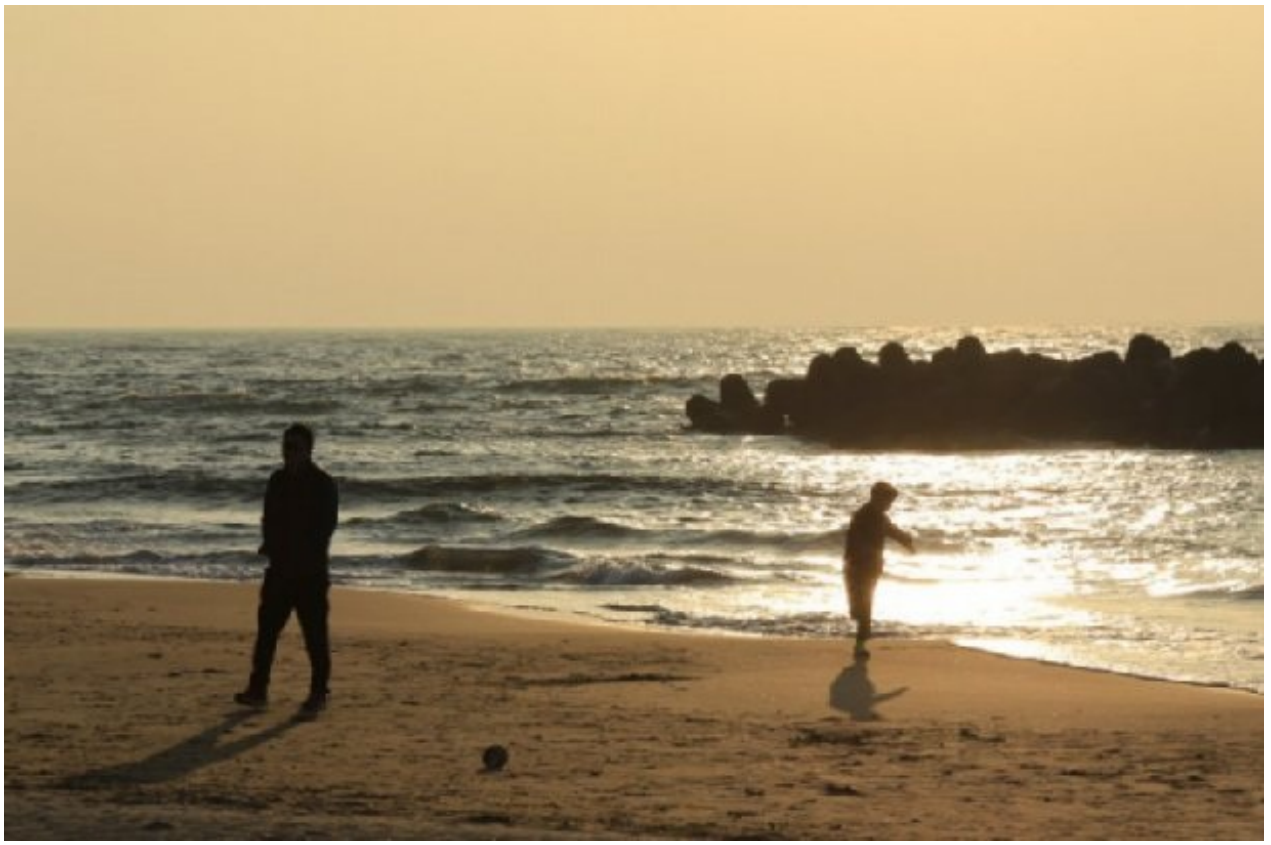
ご覧のように道の駅にも、１年間を通しての夕陽の沈む時間が書かれています。
もっとも、最近ではこんなのが無くとも、スマホで日の出や日の入りの時間は簡単に調べられますね。

さて、ここは道の駅自体もとってもお洒落でメルヘンチックな建物です。

何度かレポートしているので詳細は省きますが、ここの魅力は道の駅のすぐ裏手に広がっている、広大な “キラビーチ” です。

シャワー
トイレ

道の駅の裏手に長い階段があり、それを辿ってゆくと砂浜に降りられます。
夕暮れだと空や海面が赤く染まって、特に美しくなります。



この日も空がきれいだったのはこの時間までで、太陽が水平線に近づく頃には雲が出てきて、残念ながら理想的な夕陽には出会えなかったのです。

ただこの付近、夕陽に限らず、早朝の日本海も一見の価値があります。

夜が明けたばかりの日本海ですが、漁をする舟が数隻見えます。
何を獲っているのか気になったので、望遠で拡大してみました。

グラスで海の中を覗き込み、長い竿で貝か何かを獲っているようです。
これもまた、私にとっては旅で出会った絶景のひとつになりました。

㊷夕陽が丘そとめ（長崎県）

今回より九州に入りますが、その１カ所目は長崎県にある

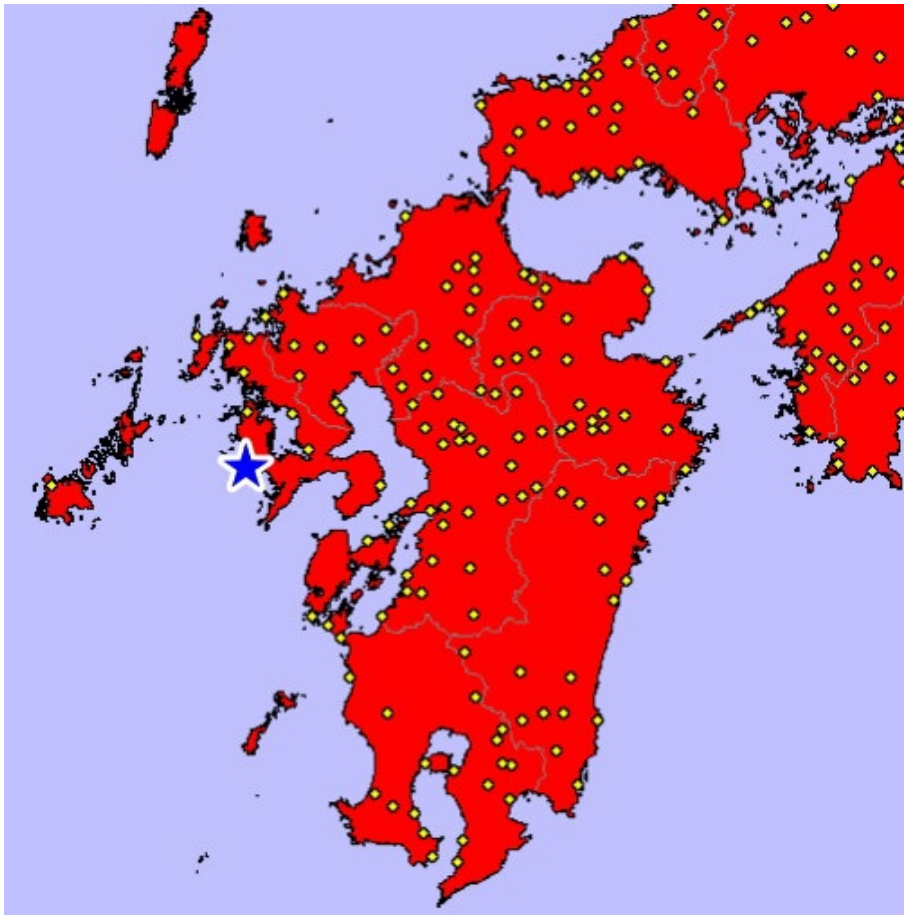
道の駅夕陽が丘そとめ　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

長崎県長崎市東出津町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

東シナ海、角力灘、外海の夕景、夕陽スポット、遠藤周作文学館

■この道の駅の魅力について

趣味で全国の道の駅を回っています、という話を誰かにすると必ず聞かれるのは 「どこが一番良かったですか？」 という質問です。

いつも同じことを聞かれて面倒なので（笑）、「九州だと景色が良いのは長崎の “夕陽が丘そとめ” でしょうね！」 と最初に答えることにしています。

それほどここは私が好きな道の駅であり、はっきり覚えていませんが５回以上は訪問しています。
まずはその外観からです。

最初の地図でお分かりのようにここは九州の西の端で、東シナ海に面しています。

道の駅の目の前は “角力灘（すもうなだ）” といって、そこには小さな島々や奇岩が点在します。
道の駅は高台に位置するので、そこから見下ろす風景は正に絶景スポットなのです。

まずは角力灘の眺めをご覧いただきましょう。

ここから見えるこれらの島は、「池島」「大角力」「小角力」「母子島」といいます。

奥に見える一番大きなのが「池島」で、“池島炭鉱”として栄えましたが、２００１年に閉山しています。
それ以外の小さな島々は無人島です。

道の駅は、東側にあたる背後には山がありますが、それを除く３方は展望が開けています。
南側もやはり海で、その風景は次の写真です。

入り組んだ海岸線が見えますね。
この海岸線のずっと先が長崎市の市街地です。

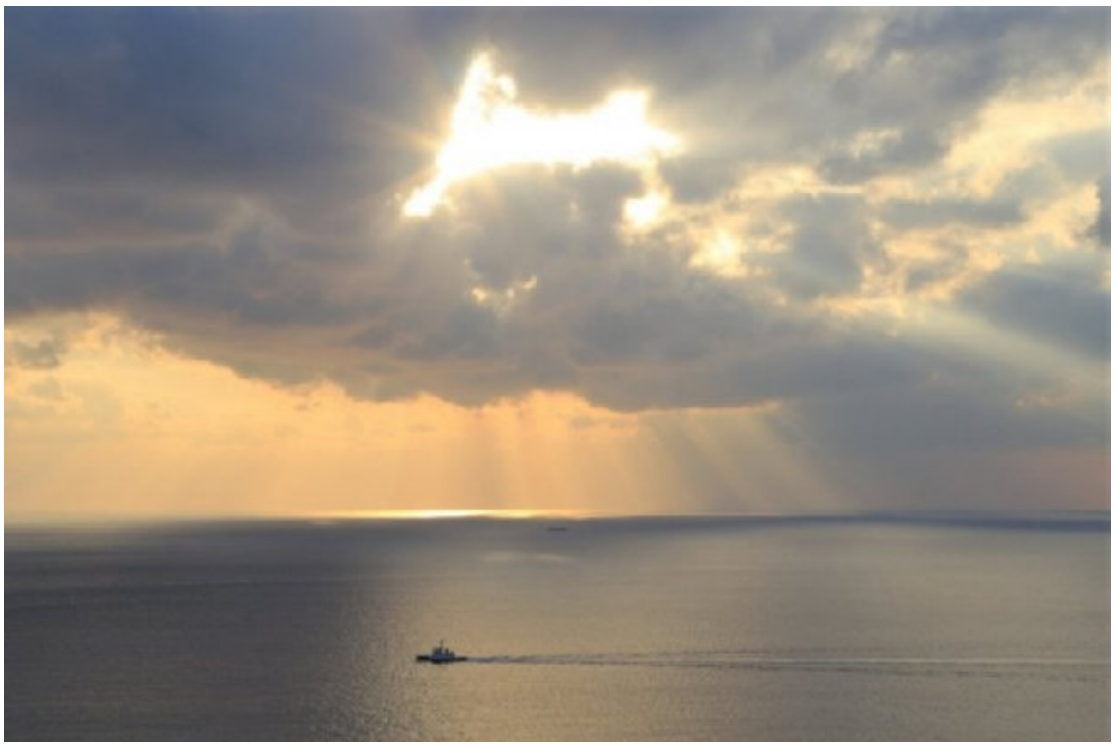
そして北側には外海の町が広がっています。

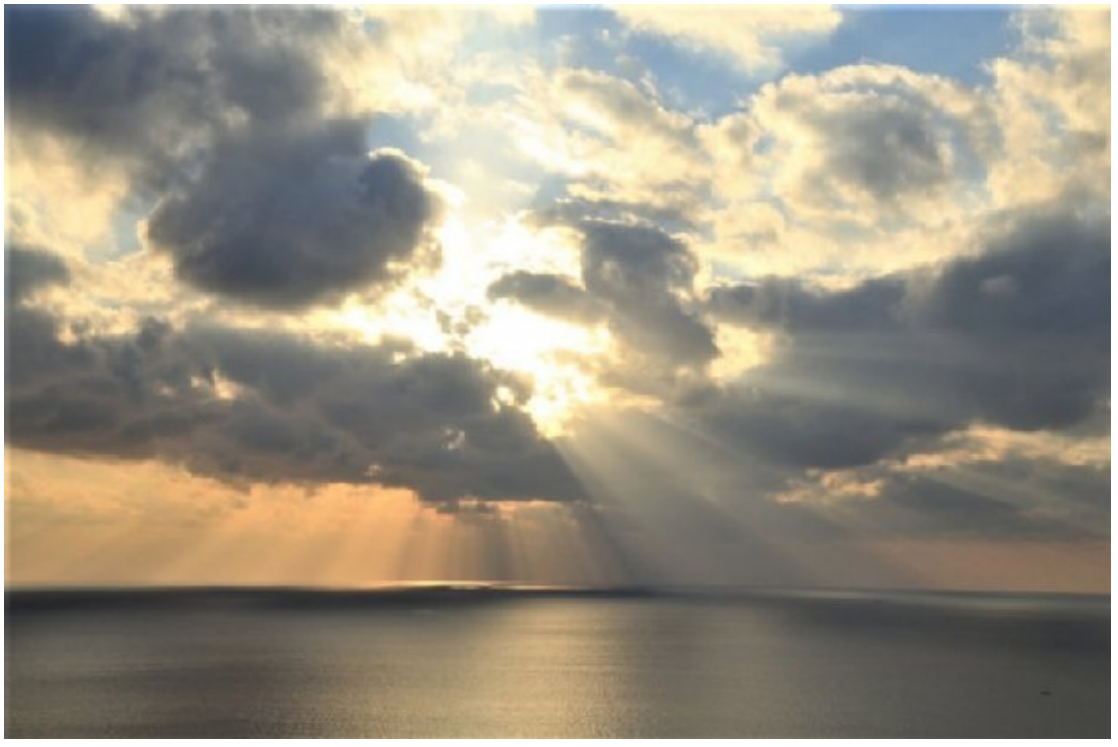
外海の町は、明治１２年に主任司祭としてこの地に赴任してきたフランス人宣教師の “マルコ・ド・ドロ神父” が貧しかった住民の為にその生涯を捧げた地です。

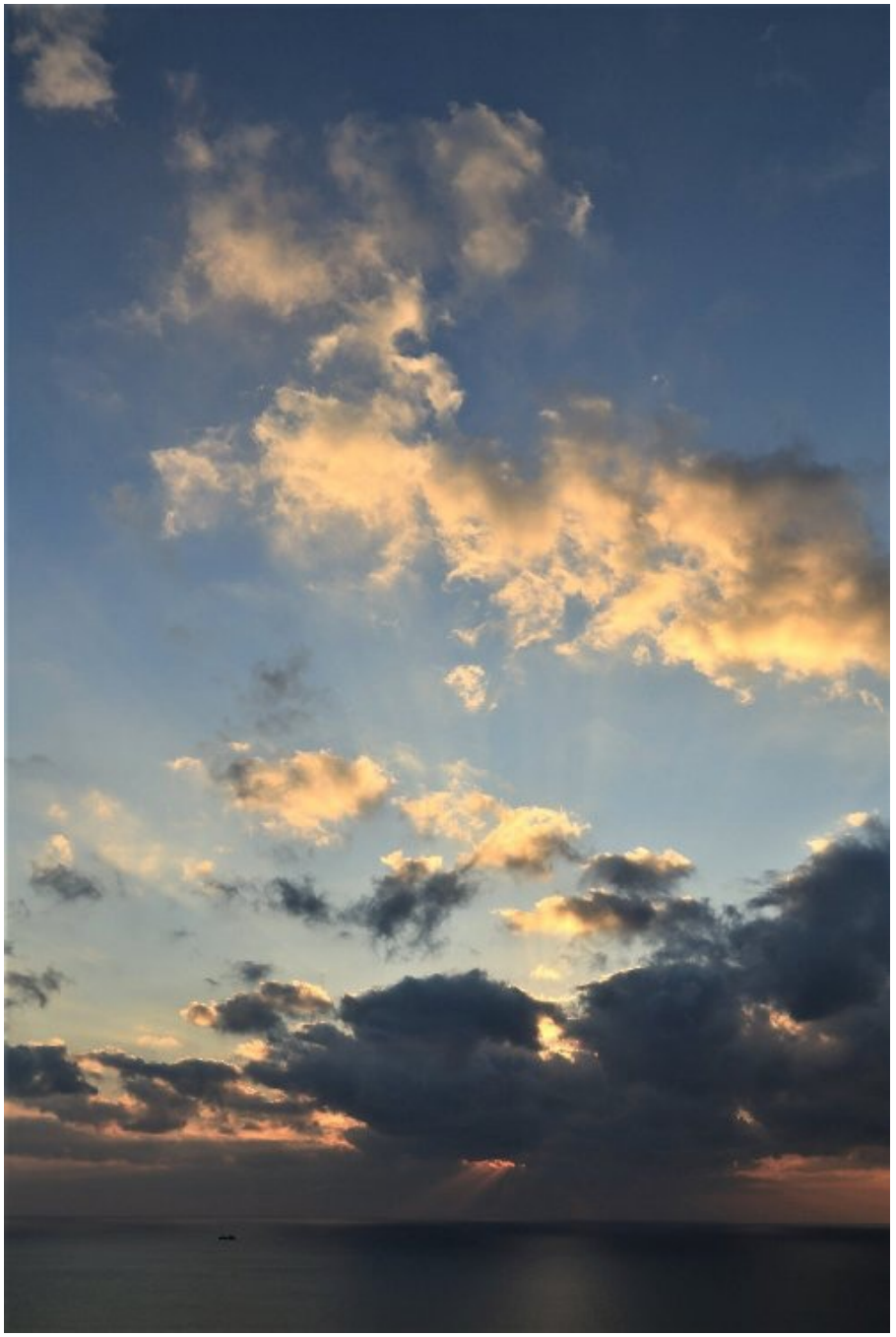
数々の貢献が残っていますが、その中のひとつに “素麺作り” を教えたことがあり、“ド・ロさまそうめん” はこの地の特産のひとつとして今に伝わっています。

この道の駅、“夕陽が丘” という名前の通り、何よりも東シナ海に沈む “夕陽” が美しい場所です。

私もそれを狙って、２度ほど夕刻に訪れましたが、残念ながら “絶好の” とまではゆきませんでした。







もっと何度も通わないと、本当に美しい夕陽の写真は撮れませんね！
これからもチャレンジしてみます。

㊸鷹ら島（長崎県）

九州で２番目に紹介するのは、

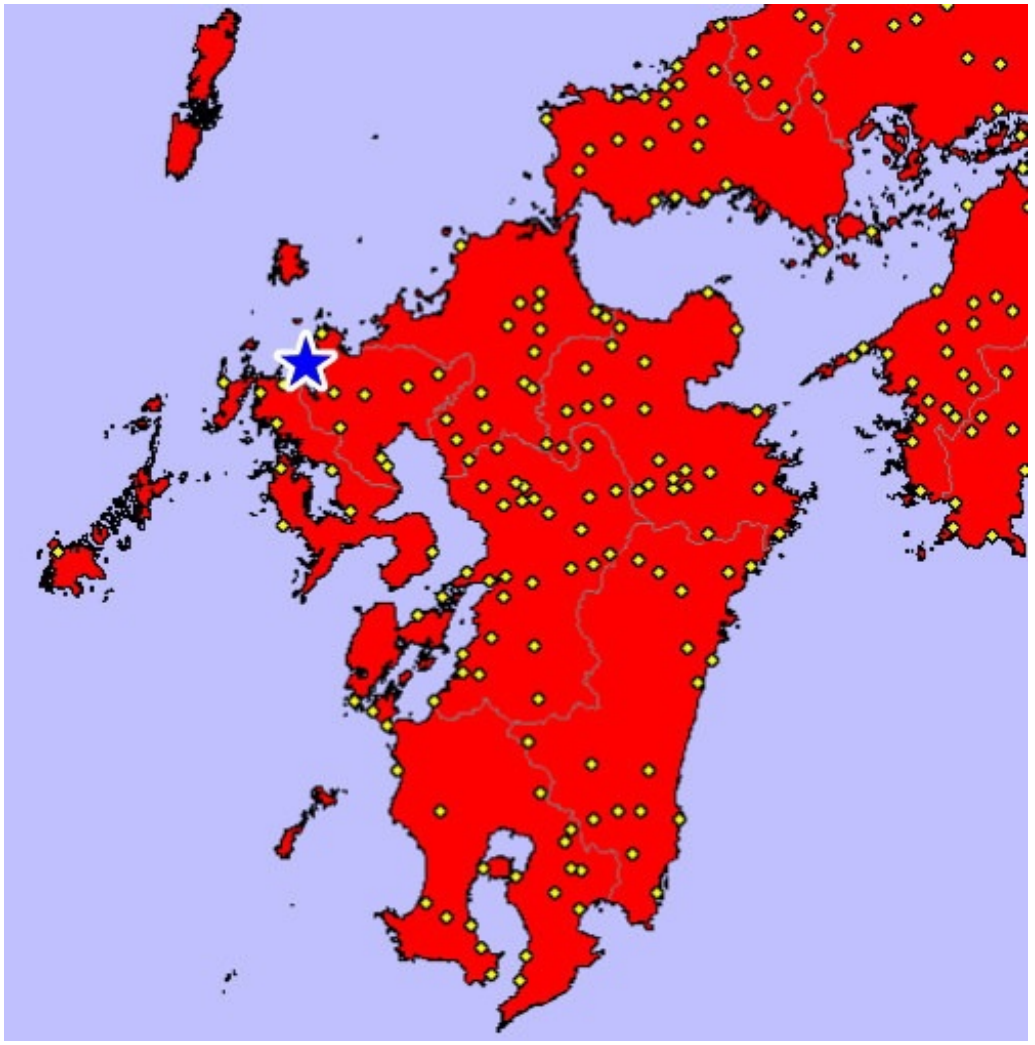
道の駅鷹ら島（たからじま）　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

長崎県松浦市鷹島町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

鷹島肥前大橋、ふぐ生産量日本一、マグロの解体、棚田風景、元寇の海中遺跡

■この道の駅の魅力について

ここは“鷹島”という島の玄関口にあり、佐賀県と長崎県の県境になります。

“鷹島肥前大橋”という、２００９年に完成した美しい橋を渡るのですが、その橋の手前は佐賀県で、渡った先が長崎県です。

これは佐賀県側からの景色ですが、右手奥に “鷹島肥前大橋” が見えます。
そしてその手前は “棚田” になっているのがお分かりかと思います。

この付近、佐賀県側、長崎県側ともに、棚田が美しい場所です。
私が初めて行ったこの時期には、丁度田植えが行われていました。

さて、橋を渡って長崎県側に入ります。
橋を渡るとそこは、“長崎県松浦市” の “鷹島” という島になります。

松浦市はかつて平戸、佐世保、壱岐、五島列島などを支配下に置き、最強の水軍と言われた武士集団 “松浦党（まつらとう）” の発祥の地です。

また、鎌倉時代の元寇襲来時に、台風により艦船４４００隻、１４万人がこの鷹島の沖で沈みました。
従って鷹島周辺の海底から数々の元寇遺物が発見され、水中考古学最大の宝庫と言われています。

この “鷹島肥前大橋” は全長が１２５１ｍある斜張橋で、総事業費約２００億円をかけて、２００９年４月に開通しました。
道の駅も、その開通に合わせ、橋を綺麗に見渡せる位置にオープンしたものです。

元寇の歴史とロマンを語る
ようこそ鷹島へ
松浦市

この橋、ご覧のように歩いて渡ることもできます。
橋の佐賀県側入り口にも駐車場があるので、観光バスなどはそこで乗客を降ろして歩いて貰うのです。

あまり知られていませんが、松浦市はフグの生産量が日本一です。
海上にトラフグを始めとする様々な養殖場があるのです。

そこで、この道の駅のマスコットがこちらです。

ご覧のように、周囲にはトラフグの石像がずらりと並んでいます。
実はこの町は “石工の町” といわれますから、石像造りも得意なのです。

松浦市は農業と共に漁業が盛んですから、この道の駅もご覧のように大きな水槽があり、水産物や水産加工品が豊富に揃っています。
更に、この道の駅の最大の特徴ともいえるものがあります。

海上養殖で、“マグロ”も育てられているのです。
ここでは月に２回、“マグロの解体ショー”が行われます。

私もこれに合わせて訪問しました。

このマグロは海上の養殖場から “釣り上げて” 持込むのだそうで、この日は 「３４ｋｇ」でした。
普通６０ｋｇ前後が多く、時には１００ｋｇがあがることもあるそうです。

手際よく解体された後は、大トロ、中トロ、赤身、それに中落ちなどに分けられ、大盤振る舞いの試食があり、そして販売されます。

景色だけでなく、このような定期的なイベントのある道の駅は珍しいと思います。

ただ、私が最後に訪問したのは２０１３年ですから、今も月に２回続いているかは定かではありません。
もし、これを目的に行かれるのなら、事前に確認した方が良いと思います。

ちなみにこの鷹島には以前 “モンゴル村” という施設があり、テント式の “ゲル” に宿泊することができ、そこからの風景も素晴らしかったのですが、残念ながら２０１６年１１月から休村しています。
ただ、駐車場は９時～１７時で開いており、芝生公園などで遊ぶことはできるそうです。

また、島には海底から引き揚げられた元寇の遺物などを展示した “松浦市立埋蔵文化財センター” があり、ここもなかなかの見どころがあってお勧めです。

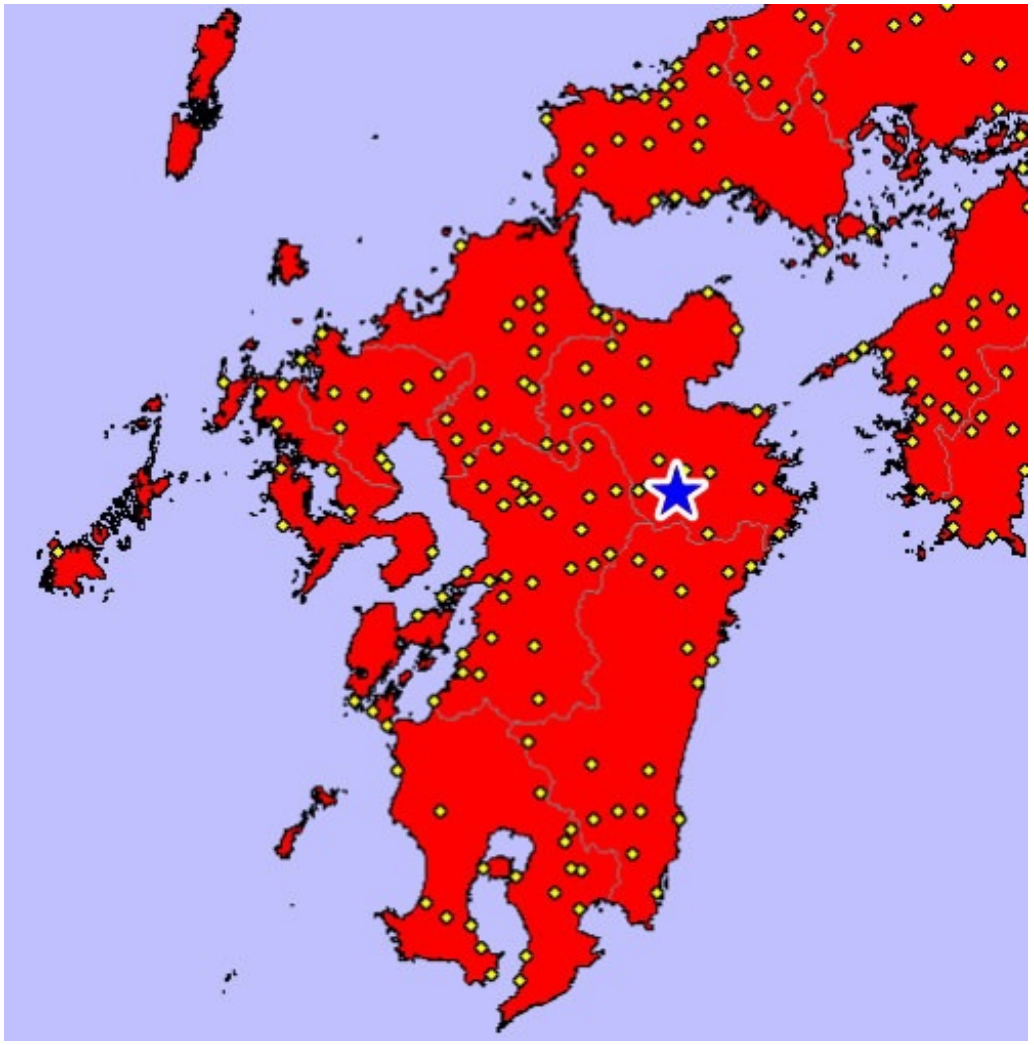
㊹原尻の滝（大分県）

私が過去何度も訪れた好きな場所のひとつに

道の駅原尻の滝　があります。

■所在地＆ＭＡＰ

大分県豊後大野市緒方町原尻



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

原尻の滝、東洋のナイアガラ、チューリップ、日本の原風景

■この道の駅の魅力について

この道の駅の最大の魅力は、すぐ裏手に“東洋のナイアガラ”と呼ばれる、幅１２０ｍ、高さ２０ｍの半円形の“原尻の滝”があることです。

『日本の滝１００選』にも選ばれており、本物のナイアガラとはスケールでまるで違いますが、形の美しさではひけを取らないのかもしれません。

この川は “緒方川” と言いますが、普通の田園風景の真ん中に、突然巨大な滝が現れます。
下流に架かる吊り橋を渡って、ぐるりと滝のまわりを一周することができる珍しい滝です。

つまりこの滝は、見る方向によっていろんな表情があります。
上の２枚の写真は、滝の上部から見たものです。

半円形に弧を描いた滝は幾筋かに分かれており、水が流れていない個所では、このお姉さんのようにぎりぎりまで近づいて真上から流れ落ちる滝を覗くこともできます。

でも危険なのであまりお勧めはできませんね。

これらの写真は滝の左手から撮ったものです。
綺麗な弧を描いており、滝の上部には普通に田園や道路があるのが分かりますね。

大昔、阿蘇山の大噴火で流れ出た火砕流で溶岩台地ができ、長い年月をかけて緒方川がそれを浸食し、このような景観が誕生したのだそうです。

下流にある吊り橋がこれです。
吊り橋の中間地点からは、原尻の滝を真正面から見ることができます。

正面からの写真には、河原に人がいますね！
ここは河原に下りてゆく階段があり、滝壺の淵から滝を見上げるアングルも撮れます。

これが河原に下りて、滝を見上げた写真です。
最後は、右手からの滝の姿です。

周囲３６０度、あらゆる方向からの原尻の滝を楽しむことができます。

次に紹介したい、二つ目の魅力は春に咲き誇る “チューリップ” です。

これは原尻の滝を背景にしたチューリップ畑です。
道の駅があるこの集落では、毎年春になると周辺の畑のほぼ全域にチューリップの花が植えられます。

その規模はまさに見渡す限りで、１００種類、３０万本が咲き誇り、毎年４月初旬から下旬にかけて、“チューリップフェスタ” が開催されます。

フェスタ期間には様々なイベントなども開催されますが、畑の除草作業、イベントの運営、フェスタが終わった後の球根の取り出しまで、たくさんのボランティアが支えています。

私も一度見てきましたので、その風景を紹介しましょう。

実に癒される風景だと思います。
“癒される” と言えば、この周辺、日本の原風景が残っているのことが３つ目の魅力です。

茅葺屋根や水車が普通に風景の中に溶け込んでいます。

東洋のナイアガラの迫力、チューリップ畑の美しさ、癒される日本の原風景と、いくつもの魅力を併せ持つ道の駅がこの原尻の滝だと思います。

㊺ゆふいん（大分県）

全国的に知名度の高い温泉地である大分県の湯布院にあるのが

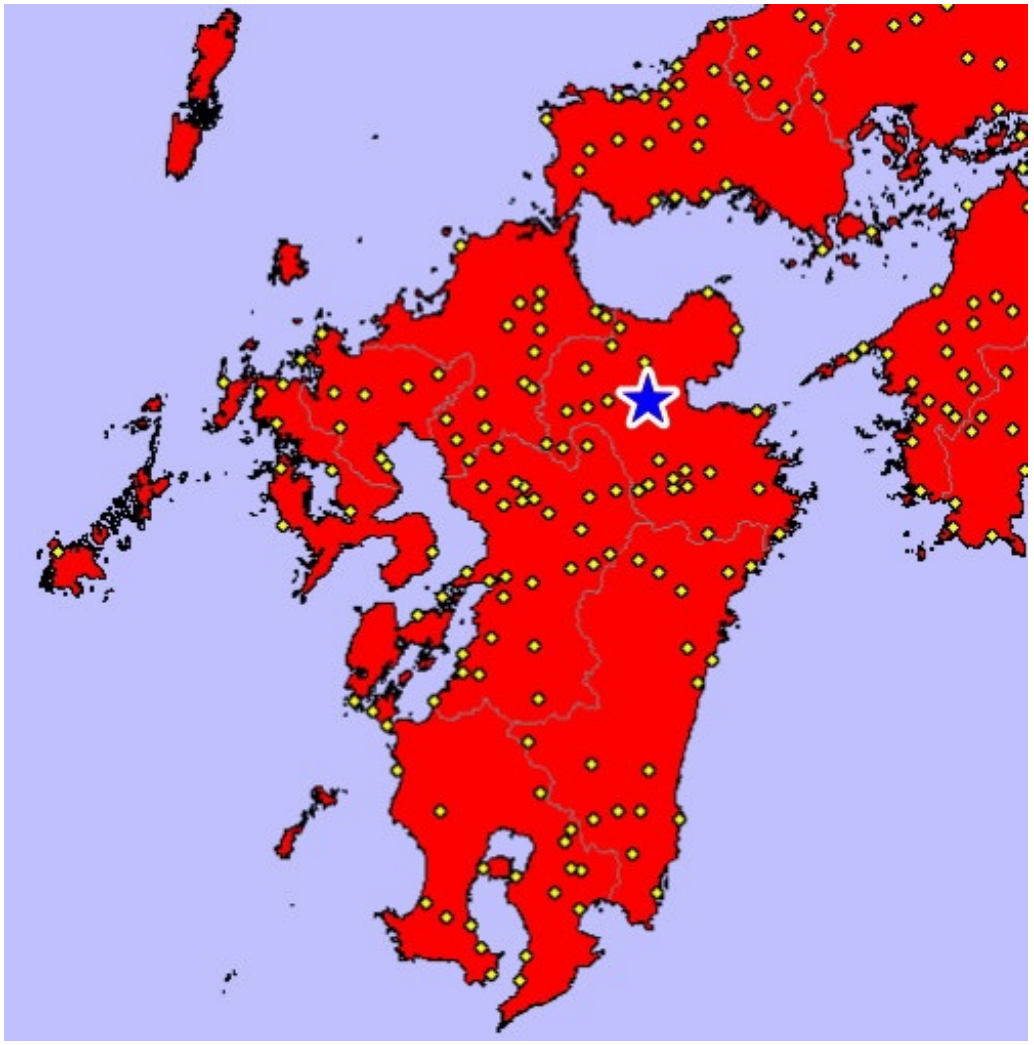
道の駅ゆふいん　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

大分県由布市湯布院町



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

　　Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

　由布岳、湯布院の街並み、金鱗湖

■この道の駅の魅力について

この道の駅は、大分自動車道の “湯布院ＩＣ”　を出てすぐの場所にあります。

ここの最大の絶景は、豊後富士と称される “由布岳” の雄姿です。

この写真は1月なので、頂上付近は雪に覆われています。
由布岳の頂上は東峰と西峰の分かれており、トロイデ型の活火山です。

標高は１５８３ｍで山体は “阿蘇くじゅう国立公園” にあり、『日本二百名山』 に入ってます。
『日本百名山』 を書いた深田久弥が、由布岳をその中に入れなかったことを後悔したという話も残っています
。

今回は道の駅とその周辺の絶景を紹介するのが趣旨なので施設の詳細は省きますが、ここには小さなテナントのお店なども並び、買い物や食事に、とても魅力的な道の駅です。

道の駅ゆふいんはインターチェンジを下りたすぐそばにあって車で来た時の玄関口ですが、ここから車でわずか５分程度の場所に、鉄道の玄関口ＪＲ由布院駅があります。

全国レベルの温泉地であり、観光スポット満載の湯布院も絶景に恵まれています。

これらは湯布院の街並みですが、その背後には常に豊後富士の姿があります。

由布院温泉の温泉の湧出量は全国第３位です。
源泉は全部で８５２本あり、これは別府温泉に次ぐ全国第２位です。

温泉の豊かさだけでなく、レトロな街並みが人々を惹き付ける魅力があって、これらの写真は平日にも関わらず、ご覧のような人の多さです。
その大半が中国や韓国、東南アジアなどのインバウンドの観光客ですから、全国区ではなく国際的に知名度が上がっているということになります。

山下清

湯布院昭和館

ところでゆふいんは、“湯布院” と “由布院” という二つの漢字があります。
元々大分郡の “由布院町” と “湯平村” が合併して “湯布院町” が生まれ、更に２００５年に近隣町村が合併して “由布市” が誕生しました。

ですから現在の地名は “由布市湯布院町” ですが、インターチェンジの名前は “湯布院ＩＣ” であり、温泉の名前は “由布院温泉” ＪＲ駅の名前も “由布院駅” になっています。

もうひとつの湯布院の観光スポットに、“金鱗湖” があります。

金鱗湖は広さが０．８ｈａ、周囲４００ｍ、水深約２ｍの湖です。
魚の鱗が夕陽に照らされて金色に輝くことから “金鱗湖” と名付けられました。

地底から湧水と温泉が湧き出ているため、水温が常に暖かいのですが、秋から冬にかけての早朝には、その温度差から池の表面から霧が立ち上る幻想的な風景が見られます。

今回は湯布院のほんの一部しか紹介しておりませんが、この町は温泉だけではなく様々な観光スポットに恵まれており、道の駅を拠点としてそれらを楽しんで欲しいと思います。

㊻かまえ（大分県）

今回ご紹介するのは、大分県の南部にある

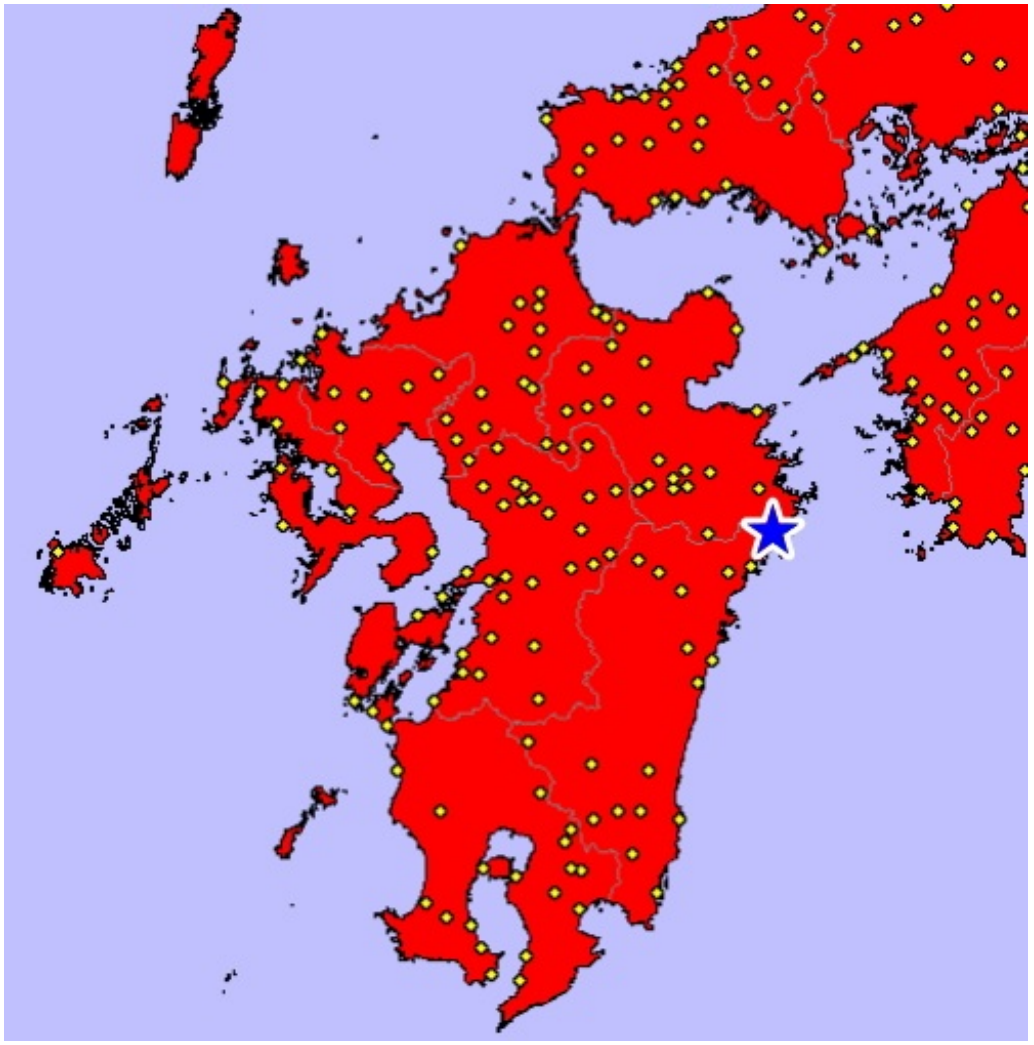
道の駅かまえ　です。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

大分県佐伯市蒲江



■絶景区分

Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

☆Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

高平キャンプ村、リアス式海岸、豊後水道

■この道の駅の魅力について

“大分県佐伯市蒲江” は大分県の最南端、宮崎県との県境に位置します。
黒潮の流れ込む豊後水道に面しており、漁場豊かな漁師町です。

東九州自動車道の “蒲江ＩＣ” から５分ほどの距離に道の駅はありますが、高速が開通する以前は佐伯から一般道を走っていましたから、随分時間がかかったものです。

この道の駅の特徴はやはり海産物です。
道の駅から道路を挟んだ向かい側に漁協があり、その先が海です。

ですから、道の駅にも新鮮な水産物が直接届きます。

店内もご覧のように大漁旗が飾ってあり、雰囲気を盛り上げます。
そしてレストランでは、海鮮丼を始めとする海の幸を堪能できます。

さて、私がここを “絶景” に選んだのは、この道の駅からの景色ではありません。
ここからほんの５～６分の距離に、偶然見つけた絶景があるからです。

この地図の右下に “マリンカルチャーセンター” という文字がありますね。
道の駅の帰りにここに立ち寄った時、ふと裏側を見上げると、山の頂上付近にログハウスが見えました。

あそこには何があるのだろうと、地図を調べて山に上ってみると、そこにあったのが “高平キャンプ場”だったのです。
この地図には “たかひら展望公園” と書かれています。

キャンプ場のある山の頂上から北側を見たのがこれらの写真です。
正面の海が “河内湾” で、半島の右側に少し見えているのが “西浦湾” といいます。

高速道路が開通する以前は、この写真の左側の海岸線に沿って国道が走っており、そこを通って道の駅を目指したものです。
道は狭くて曲がりくねり、走り難かったですが、このリアス式海岸の眺めは抜群でした。

このキャンプ場は山の頂上ですから、逆の方向も見下ろせます。

キャンプ場から南側を眺めたのがこの２枚の写真です。

真下に “大分県マリンカルチャーセンター” のでっかい建物が見えます。

ここから見上げて、このキャンプ場の存在に気がついたものです。

冒頭でも触れましたが、この豊後水道の海には暖かい黒潮が流れ込んでいて最良の漁場です。
この蒲江の集落には遊漁船を所有する民宿がいくつかあり、私も友人に誘われて何度か海釣りに来たことがあります。

この右側がその時の船です。

民宿に前泊し、夜明け前に出港して３０分ほど沖合で釣るのですが、電動リールをはじめすべて用意してくれるので、クーラーボックスだけもってゆけば楽しめます。
ど素人の私でさえ、たくさんのタイを釣り上げることができました。

さて話をキャンプ場に戻しますが、私がマリンセンターから見たログハウスがこちらです。

ご覧のケビンには６～７名が宿泊できますがこれが３棟、他にテント場もあります。
ケビンにはトイレ、流し台、冷蔵庫なども完備されているそうです。

これが管理棟で、キャンプに必要なものはここで借りることができ、研修室も備わっています。

標高３４５．７ｍのこの場所からの絶景がすっかり気に入って、過去３回来ていますが、いずれ近いうちにもう

一度行ってみようと思っています。

㊼あそ望の郷くぎの（熊本県）

熊本県で絶景といえば “阿蘇山” ですが、それを一望できる

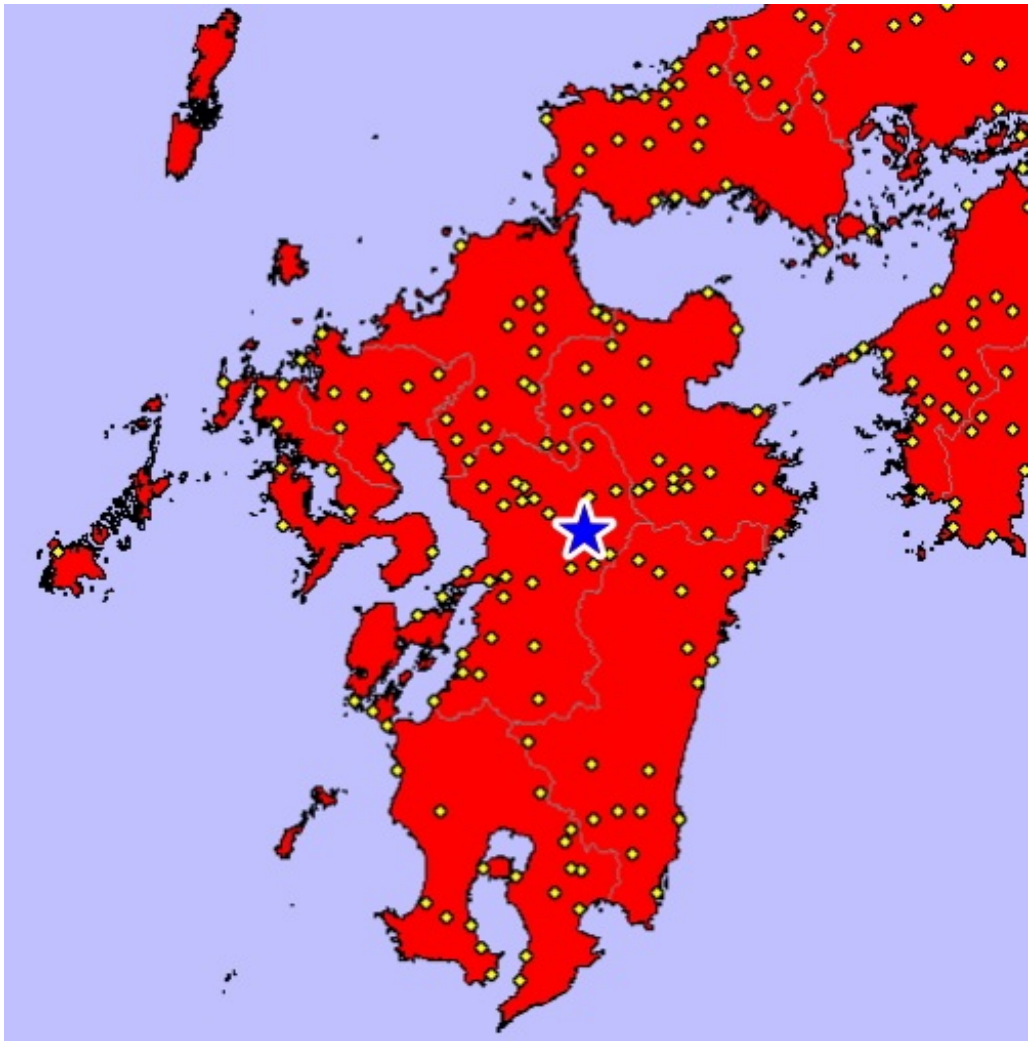
道の駅あそ望の郷くぎの　を紹介します。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

熊本県阿蘇郡南阿蘇村



■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

阿蘇五岳、阿蘇カルデラ

■この道の駅の魅力について

阿蘇山周辺の道の駅といえば、山の北側に “道の駅阿蘇”　南側に “道の駅あそ望の里くぎの” がありますが、今回は後者をメインに紹介したいと思います。

阿蘇山の中核をなす５つの山を “阿蘇五岳” といい、「高岳」　「中岳」　「根子岳」　「烏帽子岳」　「杵島岳」　から成り立ちます。
それを外輪山が取り囲み、南北２５㎞、東西１８ｋｍの “阿蘇カルデラ” を構成します。

道の駅あそ望の郷くぎのはその南側 “南阿蘇村” にあり、道の駅阿蘇は北側の “ＪＲ阿蘇駅” に隣接した場所にあります。
今回、あそ望の郷くぎのをメインにしたのは、単純に写真の数が多かっただけです。(;^ω^)

ここは２０１５年４月にオープンしましたから、比較的新しい道の駅です。

オープンした翌年の２０１６年４月１４日、阿蘇地方を含む熊本県を震度７もの大地震が襲い、熊本地震と呼ぶ甚大な災害が発生しました。
ここ “道の駅あそ望の郷くぎの” はその敷地が広いこともあって、災害救助を担う、自衛隊の前線基地となりました。

さらに道の駅内にアウトドア用品を扱う “ｍｏｎｔ-ｂｅｌｌ” の店舗があり、ここは被災者用にテントやマット、寝袋などを無料でレンタル貸与しました。

（ＨＰより、被災時の写真借用）

もちろん、熊本地震の被災地を支援した道の駅はここだけではなく、この周辺だけでも、道の駅阿蘇や道の駅小国、道の駅大津、道の駅水辺プラザかもと、道の駅宇城、道の駅竜北などが貢献しています。

災害発生時の避難所や対策拠点として、道の駅は重要な役割を担ってきていると思います。

私が訪問したこの日はやや曇りがちで、残念ながら山がくっきりとは見えませんが、この案内図のように、先ほど紹介した “阿蘇五岳” のうちの４岳までは一望できます。

そのロケーションの良さが、ここを “絶景道の駅” に選んだ理由です。

横長い建物の中央部分に裏手にまわる通路があります。
そこを通るとまず広いテラスがあり、その先は広大な敷地の芝生広場、無料ドッグランなどがあります。

どこまでも見渡せる広大な草原が広がっています。
ここにはパークゴルフ場も併設されていますが、他にも日本庭園や水車小屋も趣があります。

そしてもう一つ紹介しておきたいのが、このおばあちゃんです。

これがこの道の駅のアイドルキャラクターである “かなばあちゃん” です。

ここに書いてあるおばあちゃんのプロフィールによると、年齢はもうすぐ９０歳、趣味はフラダンス、好きな俳優はペ・ヨンジュンだそうです。（笑）

恵まれたロケーションと共に、ここには “食事処あじわい館” や、ステーキを味わえる “あか牛の館” などのレストランもあります。
雄大な阿蘇山を眺めながら一日楽しめる道の駅です。

最後に、阿蘇の中心部にある、“草千里” の風景を紹介しておきましょう。
道の駅阿蘇からなら、１５分ほどで行ける距離です。

草千里にあるこの山が、先ほど唯一見えなかった 阿蘇五岳の “杵島岳” です。

㊽フェニックス（宮崎県）

南九州の絶景としては、まず

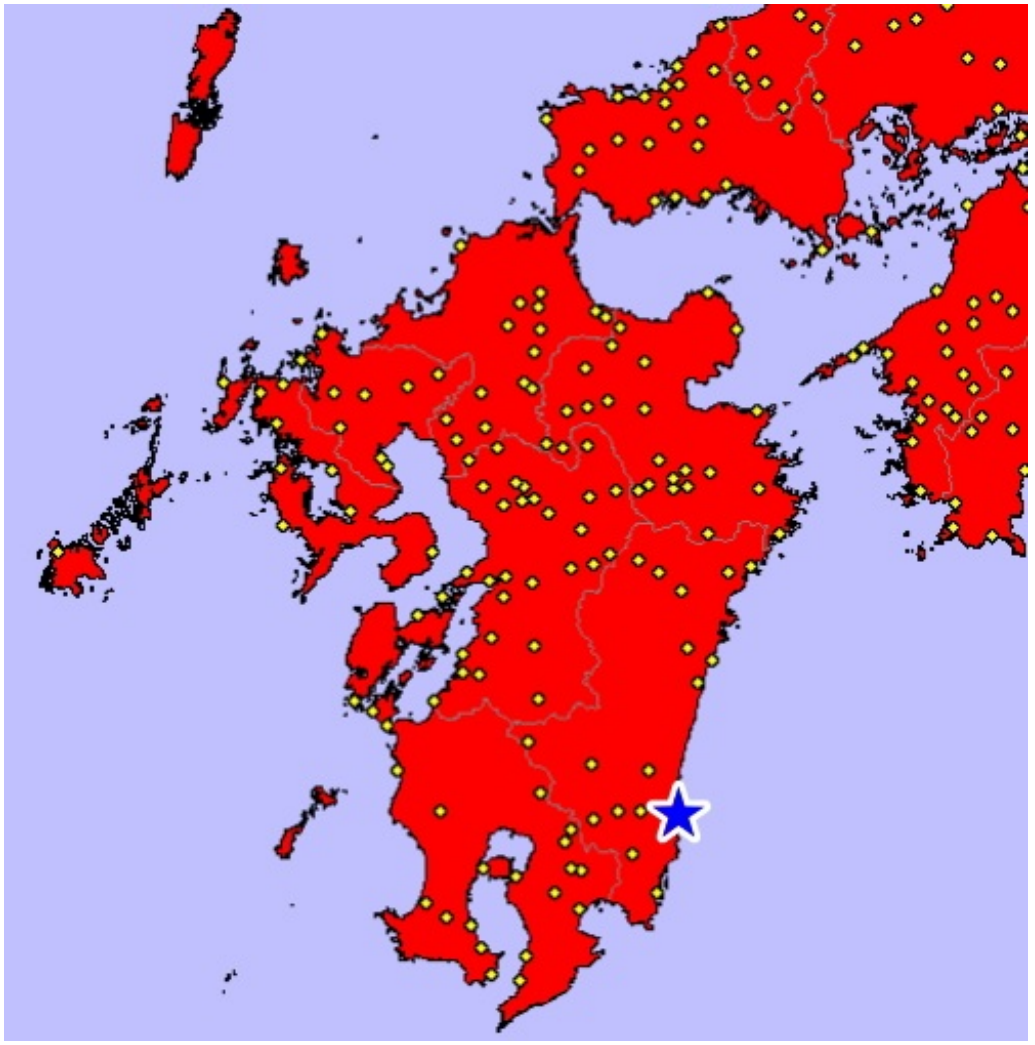
道の駅フェニックス　があげられます。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

宮崎県宮崎市内海



霧島
鹿児島空港
霧島市
都城市
都城
山之口
田野
宮崎空港
フェニックス
たからべ
三股町
すえよし
曽於市
酒谷
日南市
たるみず
松山
おおすみ弥五郎伝説の里
野方あらさの
垂水市
志布志市
なんごう
串間市
大崎町
くにの松原おおさき
東串良町
鹿屋市

■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

フェニックス並木、鬼の洗濯岩、日南海岸

■この道の駅の魅力について

九州を代表する絶景スポットとして自信をもって紹介できるのがここ“道の駅フェニックス”です。

“日南海岸国定公園”に属するこの場所は、かつては宮崎交通が経営するドライブインでした。
２００４年に宮崎市が施設を買い取り、２００５年４月から道の駅として運営を開始しました。

道の駅の名前の通り、周囲には“フェニックス（Phoenix）”の樹が立ち並びます。

かつてここは山の斜面を通る曲がりくねった道路でしたが、これを直線化したことで海側と山側に新たな敷地ができました。
これを購入した宮崎交通は、通常なら海側にドライブインを作るところ、山側に建設したのです。

それは宮崎交通の創業者である「岩切章太郎」の「日南海岸の景色を一企業が独占してはならない」という考えに基づくもので、海側にはフェニックスが植えられ、現在の景観が誕生しました。

道の駅の前を走る道路はかつて国道２２０号だったのですが、現在は新しく“堀切峠バイパス”が開通したため、２０１５年から県道に変わっています。

この県道を横切ると展望ウッドテラスがあります。
そこから見えるのが、有名な“鬼の洗濯岩”です。

“鬼の洗濯岩” は日南海岸を約８㎞にもわたって広がっているのですが、私はここから見下ろす風景が一番好きです。

これが形成されたのは約７００万年前で、数百回におよぶ巨大地震がもとで深い海の中に砂岩と泥岩が積み重なり、それが傾きながら隆起し、波に削られながら海面に顔を出したものです。

道の駅の海抜は約５０ｍほどなのですが、先ほどの展望ウッドデッキから階段があり、海岸まで下りてゆくことができます。

鬼の洗濯岩を目の前で眺めると、また違った迫力があります。

ご覧のように鬼の洗濯岩の上を歩くこともできます。

ここでしか見られないこの不思議な景観と共に、道の駅フェニックスは自信をもってお勧めできる、九州が誇る絶景道の駅だと思います。

㊾なんごう

前回の道の駅フェニックスから海岸線に沿って約４４ｋｍほど南下すると

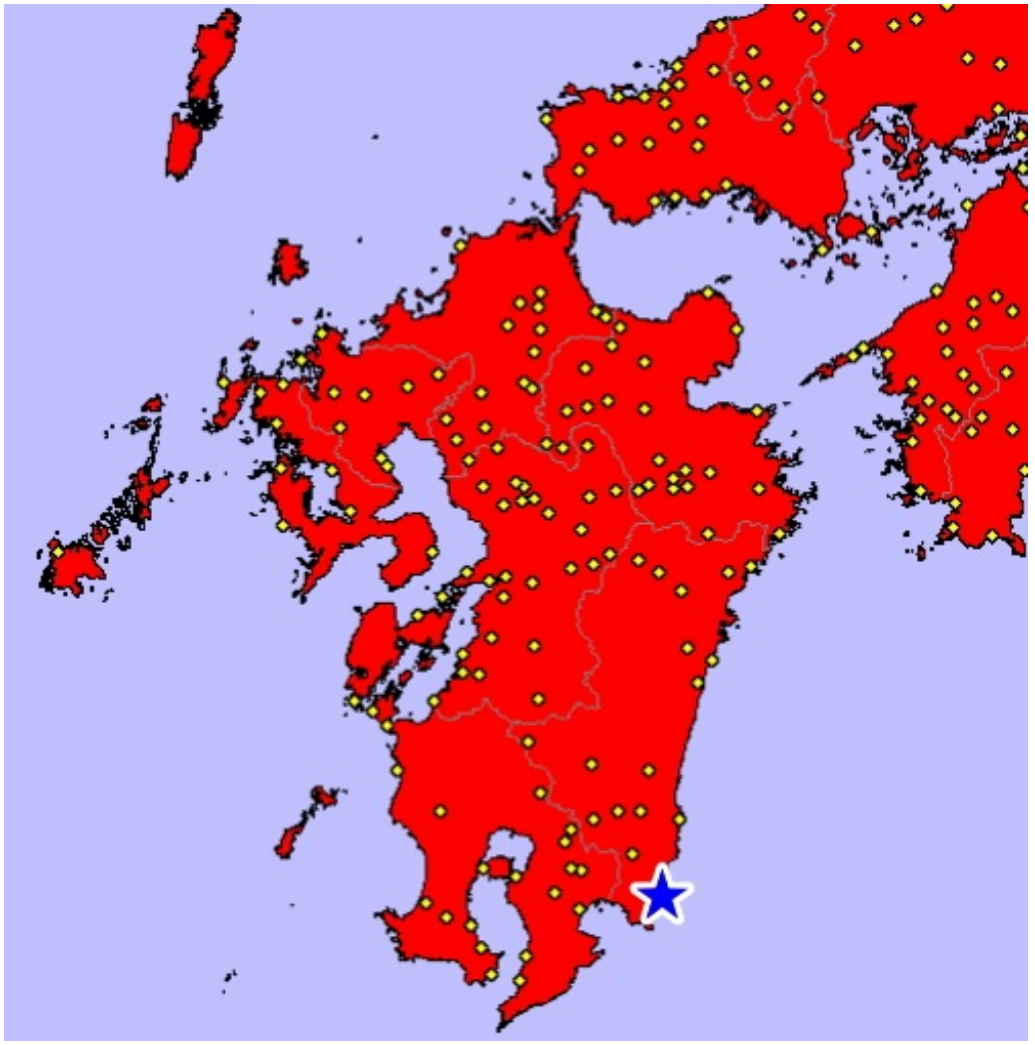
道の駅なんごう　があります。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

宮崎県日南市南郷町



霧島
鹿児島空港
霧島市
都城市
都城
山之口
田野
宮崎空港
フェニックス
たからべ
三股町
すえよし
酒谷
曽於市
日南市
たるみず
松山
おおすみ弥五郎伝説の里
野方あらさの
垂水市
志布志市
なんごう
串間市
大崎町
くにの松原おおさき
東串良町
鹿屋市

■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

南国ムード、オーシャンビュー、トロピカルドーム

■この道の駅の魅力について

“道の駅なんごう”というのは、実はもうひとつ「青森県八戸市南郷」にもあります。
全く同じ名前の道の駅というのは、他にもあるかどうか思い浮かびませんが極めて珍しいと思います。

双方の道の駅なんごうは、同じ名前の縁もあり、昨年（２０１８年）の夏に、【地域活性化包括連携協定】に調印し、互いの資源を活用した活動やイベントの開催するなど協力関係にあります。

青森県の道の駅なんごうが陸上競技場や野球場、温水プールなどの総合スポーツ施設の中にあるのに対し、宮崎県の方はご覧のように、オーシャンビューで南国ムードに包まれています。

ここは日向灘に面し、道の駅フェニックスと同じく、“日南海岸国定公園” に属します。
小さな島が点在するこの海では水中観光船が就航し、サンゴ礁や熱帯魚を観賞することもできます。

道の駅なんごうは、世界三大花木といわれる “ジャカランダ” が咲くことでも有名です。
「南半球の桜」 とも呼ばれるこの花は、毎年５月下旬から６月下旬まで青紫色の花を咲かせます。

残念ながら私はまだその開花に遭遇したことがありませんが、日本国内で群生するのはこの付近だけしかないのだそうです。

（参考画像：ＨＰより借用）

道の駅なんごうは数年前にリニューアルし、レストランなどが特に立派になりました。

更に旅行口コミサイト“トリップアドバイザー”の『旅好きが選ぶ！道の駅ランキング２０１７』　で堂々の全国第１位にも選ばれています。

もうひとつ紹介しておきたいのは、道の駅の裏手の山が 「亜熱帯性植物の研究機関」 として公開されていることです。
道の駅の駐車場から奥の坂道を上ってゆくと、“宮崎県総合農業試験場 亜熱帯作物支場” や、亜熱帯温室である、“トロピカルドーム” があります。

トロピカルドームの中は、珍しい亜熱帯の植物が育てられています。
ここには先ほども触れた、“ジャカランダ” の群生林もあり、是非足を伸ばして欲しいと思います。

そしてこの場所は道の駅の裏手の高い場所にあるので、ここからの眺めも抜群です。

いつかまた、ジャカランダの咲く時期に行ってみたいと思っています。

⑤⓪たるみず

絶景道の駅全国５０選の最後にご紹介するのは

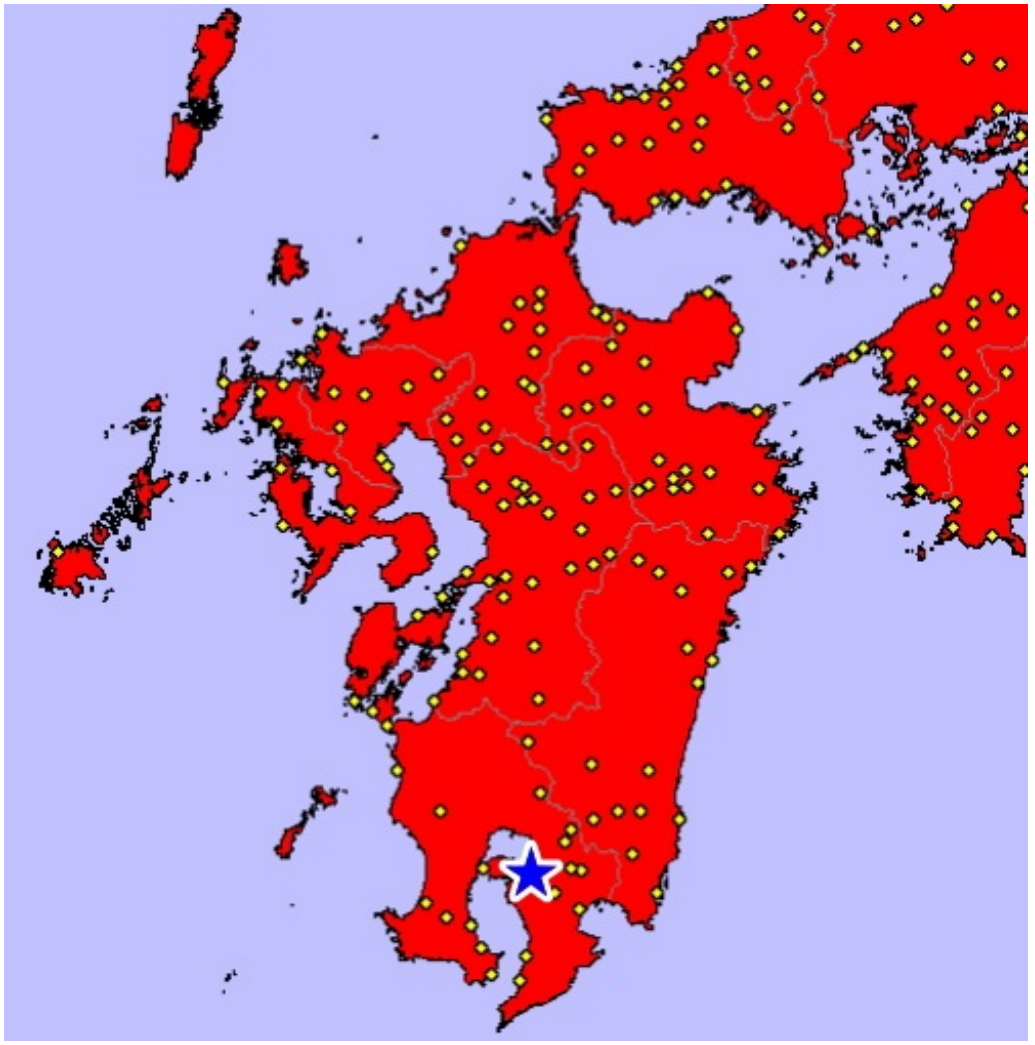
道の駅たるみず　で、鹿児島県にあります。

道の駅ブロガーが選ぶ！

絶景に出会える道の駅！“全国50選”

■所在地＆ＭＡＰ

鹿児島県垂水市



霧島
鹿児島空港
霧島市
都城市
都城
山之口
田野
宮崎空港
フェニックス
たからべ
三股町
すえよし
酒谷
曽於市
日南市
たるみず
松山
おおすみ弥五郎伝説の里
野方あらさの
垂水市
志布志市
なんごう
串間市
大崎町
くにの松原おおさき
東串良町
鹿屋市

■絶景区分

☆Ａ：道の駅自体が絶景の中にある

Ｂ：道の駅から歩いて絶景に出会える

Ｃ：道の駅の近郊で絶景に出会える

■絶景キーワード

錦江湾、桜島、噴煙、大隅半島

■この道の駅の魅力について

鹿児島県の大隅半島の付け根、錦江湾を隔てて“桜島”と対峙する位置に道の駅はあります。

ここには長さが６０ｍにも及ぶ無料の足湯があり、それに浸かりながら錦江湾と桜島の雄姿を眺めるのが私は好きで、何度も足を運んでいます。

ここは桜島の山塊のほぼ東側に位置していますが、その荒々しい山肌と、噴煙をあげる火口が間近に迫り、威圧感があります。
その手前には、海に浮かぶたくさんの生け簀が見えます。

錦江湾ではブリやカンパチの養殖が盛んで、全国生産の２割を占めており、特にカンパチは全国生産の６割のシェアを誇っています。

ブリは桜島の北側（湾奥側）、カンパチは南側（湾口側）と分かれていますから、ここから見える錦江湾では、ブリの養殖、ということです。

錦江湾でこのように養殖が盛んなのは、年間を通して暖かく、酸素を多く含んだきれいな海水が流れていることと、その水深の深さにあるそうです。
沿岸近くの養殖場であっても、生け簀は深い水深帯に設置されていて漁場としての環境が保たれているからです。

更にこの地域の漁業者には若い人が多く、将来海を汚さない為の餌の工夫などにも取組んでいます。

道の駅はご覧のような美しい環境の中、特産品売り場やレストラン、そして “湯ったり館” とよぶ温泉施設では、桜島や錦江湾の景観を眺めながら露天風呂を楽しむこともできます。

建物の南側に “多目的交流広場” という広い公園があり、ここからの桜島の雄姿も格別です。

これは、その広場にある “幸運の釣鐘” です。

この釣鐘の鳴らし方にはルールがあり、
・健康を願う方は　１回
・恋愛成就・夫婦円満を願う方は　２回
・家庭円満を願う方は　３回
・商売繁盛を願う方は　４回
・子宝を願う方は　５回
なのだそうです。(^^♪

この道の駅から２０分ほど海沿いを南へ下った場所に、昨年（２０１８年）１１月、“たるみずはまびら” という新しい道の駅が誕生しました。

どちらも同じ垂水市内ですが、“道の駅たるみず” は桜島の東側、“道の駅たるみずはまびら” は桜島の南側という位置関係になります。

たるみずはまびらから見た桜島が次の写真です。

これは道の駅の屋上からの眺めです。
目の前には広い砂浜が広がっています。

桜島にもう少し近づいた、南側からの写真もご覧頂きましょう。

厚い火山灰を纏ったかのような、独特の風格があります。

先ほど触れたように、この桜島の南側の海域は “カンパチ” の養殖場になります。

垂水市内の２つの道の駅は、いずれも桜島と錦江湾という絶景に恵まれており、このシリーズの締めくくりに相応しいと思います。

奥付

絶景に出会える道の駅！“全国５０選”

http://p.booklog.jp/book/118776

著者：よしだやすお
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/rs-trip/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/118776

電子書籍プラットフォーム：パブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社トゥ・ディファクト